

リ。時マテ平田伯鈴木町邸ニ於テ告別式
 四月二十日 午前九會前田侯爵大久保邸ニ訪フ事
 四月廿一日 午後 〇、〇〇ニ觀櫻會(新宿御苑)
 四月廿二日 午後 〇時ヨリ明治聖德紀念會帝大佛教青年會
 四月廿三日 淺草松竹座ニ於テ延若ノ芝居ヲ見ル
 四月廿五日 霞關離宮ニ於テ午餐ヲ賜ヘル
 四月廿六日 午前十時山手線復々線工事ノ竣工式(新宿驛木屋ニ於テ)
 午後五時半伊集院彦吉氏追遠會(日本工業俱樂部)
 四月廿七日 午後三時本郷邸ニ於テ春祭(前田邸)
 四月廿八日 午後二時久通宮家園遊會
 四月廿九日 午後育英社出動 直チニ佳友ニ至リ預金ヲ受取妻ト共
 ニノボリヲ買ヒ朝鮮ニ送ル

五月一日 近藤清吾お嬢及幸子ヲ伴ヒ上野ニ行ク
 五月二日 午後ヨリ寧靜閣武術大會 午後四時ヨリ精養軒ニ於テ五
 二會 此日午後ヨリ育英社ニ出動ス
 五月三日 此日敬太郎來宅シニ泊ス
 五月五日 午前ヨリ神田座ニ長十郎一座ノ演劇ヲ觀ル辰橋高時ナリ
 五月六日 育英社出動
 五月八日 午前九時ヨリ午後四時マテ帝室博物館表處館ニ於テ
 五月九日 育英社出動 森外三郎氏來宅ヲ育英社ニ來ル
 五月十日 此日妻ト共ニ帝國ヲ見ル女優團ナリ
 五月十一日 午後一時ヨリ四時マテ滿二十五年奉賀ノ爲メ參内ノ事

(陛下御婚儀)
 五月十二日 宅ニ於テ留守ス鏡及幸二女外出ノ爲
 五月十三日 育英社出動 午前十時社會事業(芝増上寺ニ於テ)
 五月十四日 中華民國楊草仙草書展覽會京橋相互館第五階ニ於テ
 五月十五日 當日ヨリ十九日マテ(前 〇時ヨリ后 〇時マテ)大隈會館
 ニ於テ京都名匠工藝展覽會 貴族院午餐會
 五月十六日 午前九時ヨリ午後四時マテ東京芝公園協同會館ニ不合
 理ナル同胞間ノ差別撤廢ノ爲會合ノ事 午後草鹿ニ行ク妻及茂同
 行夜ニ入テ茂及妻ト同行シテ歸ル
 五月十七日 午前坂本氏來宅貸金ヲ返濟
 五月十八日 午後前田伯訪問不在ニ付其夫人ニ面會ス 夜高木氏其
 夫人ト共ニ來宅
 五月十九日 (午後六時ヨリ銀行集會所ニ於テ談話會)差支 三々熟
 會 中濤谷河合氏ニ開會(午後五時半) 午前小學校長某氏來宅
 五月廿一日 午後三時ヨリ同四時半迄伊藤高橋兩家婚姻 (帝國ホ
 テルニ於テ)
 五月廿二日 丸山輝結婚 午後六時帝國ホテル 前田家御道具陳列
 五月廿三日 午時前後育英社出動
 五月廿四日 午後五時ヨリ京橋區南傳馬町富士見軒ニ於テ國策研究
 會 午前秩父宮御出發ノ同時ニ前田伯東京驛ヲ發ス(〇時〇分)
 五月廿六日 午後零時半ヨリ三時半迄代々木上原德川邸ニ於テ故朝
 倫侯ノ告別式
 五月廿七日 午後五時半吉田氏服部氏結婚(帝國ホテルニ於テ)
 五月廿八日 晚ニ松永ノ丸山茂助ヲ送ル

五月廿九日 宅ニ湯アリ之ニ浴ス
 五月三十日 育英社ニ行ク幹部皆缺席 銀行ニ行キ金ヲ請取ル
 五月三十一日 午後二時前田侯爵方園遊會 午前 〇―午後 〇金圭鎮
 畫陳列

六月一日 平山正氏來宅
 六月二日 學生來宅
 六月三日 午後前田家評議員(會)(五時ヨリ開ク) 育英社出動 夜
 丸山氏來宅
 六月四日 桑原氏來宅
 六月六日 育英社出動 午後六時學生會(明倫學館ニ於テ)
 六月七日 觀劇松竹座ニ行キ夜十一時過歸ル
 六月八日 午後三時澤柳氏送別(日本俱樂部) 午後六時對鶴館ニ於
 テ皇民會理事會
 六月十日 育英社出動ス
 六月十二日 午後一時高林寺ニ於テ早川氏追悼會 坂本氏來宅 午
 後四時半ヨリ井上一次君ヨリ招待晚餐ヲ受ク
 六月十三日 育英社出動 午後妻ト共ニ帝國劇場ニ行ク(一條大藏
 卿、辰橋、柿右衛門、併ニ二人袴ナリ)
 六月十五日 坂本氏來宅ス 金貳百五十拾圓ヲ貸シ與フ
 六月十六日 建築資料(前八―後五)
 六月十七日 育英社出動 妻ト幸ニ銀座ノ松屋ニ至ルニ付之ニ同行
 ス

六月十九日 午後六時半學士會事務所ニ於テ明治聖德紀念會講演
 六月二十日 育英社出動(手當 〇〇圓ヲ受ク) 此夜妻金澤行ニ付費
 勝寺ニ金五十圓ヲ托ス
 六月廿一日 育英社ニ午前十時ニ井上一次氏出席樺太ノ狀況ニ付談
 話アリ予特ニ出席之ヲ聞ク
 六月廿二日 上野精養軒ニ於テ午後六時ヨリ井上一次氏ヲ招キ晚餐
 會
 六月廿三日 午後六時談話會(銀行俱樂部) 歌劇寶塚
 六月廿四日 育英社
 六月廿五日 午後六時對鶴館ヲ評議員會
 六月廿七日 育英社
 六月廿九日 午後六時築地錦水ニ於テ岡田氏ヨリ招待

七月一日 上野精養軒ニ於テ午後五時ヨリ坪野氏追悼會 午後二時
 佛教青年會ニ於テ會員ノ一切經ノ外護者讚助ノ會合 午後育英社
 出動
 七月二日 午前宮内省天機伺 午後帝國ヲ見ル女優團併ニ支那人緣
 牡丹ノ劇
 七月三日 丸ビル美術館田中英之助氏遺作展覽會 午後二時地鐘祭
 (宮岡氏宅)
 七月四日 午後二時恢弘者講演會(九段借行社ニ於テ) 〇會費ヲ大
 東文化會ニ納ムル事 午後育英社出動
 七月五日 午後二時帝國ホテル日露交歡會

九月十五日 淺草ニ近藤省吾ヲ伴ヒ劍術ヲ觀ル
 九月十六日 育英社出勤
 九月十七日 午前九時ヨリ工藝品展覽會(商工獎勵館ニ於テ)
 九月十九日 午前九時ヨリ書道展覽會 育英社出勤
 九月二十日 午後五時内野教授等ノ爲歡迎會(大學山上會議室ニ於テ) 育英社學生會(午前十時出勤)
 九月廿二日 午後六時半開會館(神?)田學士會館ニ於テ
 九月廿三日 午前九時四十分賢所參拜
 九月廿五日 午前八時ヨリ午後五時マデ(上野公園美術協會列品館ニ於テ) 日本南畫展覽
 九月廿六日 午後四時本郷前田家評議(員)會 育英社出勤
 九月廿九日 午後五時半報德會三光町ニ於テ 15.30
 十月二日 正午伏見宮博信王殿下午餐會(霞ヶ關離宮ニ於テ)
 十月三日 育英社出勤 午後二時前田家秋季祭典
 十月四日 栗原秀月來宅 松野氏ト共ニ恭次郎來宅
 十月七日 午前十時故(一字不明)頂老師祥忌鎌倉圓覺寺ニ於テ十時
 十月八日 午後五時國民道德實踐會(華族會館)
 十月九日 繪畫展覽會午前九時ヨリ(上野櫻ヶ岡) 午後三時華族會館ニ於テ日露協會講演(八杉外語教授視察談)
 十月十日 育英社出勤

十月十四日 育英社出勤
 十月十五日 正午議長官舎ニ於テ佐藤尙武氏「ソツイエト露國ノ近狀」講演 午後三時春木座吉右衛門ノ熊谷及腕ノ喜三郎劇ヲ見ル
 十月十六日 帝展併ニ博物館展覽會
 十月十七日 賢所神嘗祭ニ參列
 十月十八日 明治神宮青年會ニ行ク(午後一時半)
 十月十九日 淺藤金英氏來宅
 十月廿一日 午後一時ヨリ國民實踐會發會式(青山會館ニ於テ)
 十月廿二日 午前八時ヨリ午後五時マテ坂本公園中外鑑賞會(北島町ニテ中外商業新報社催)
 十月廿三日 寶塚少女歌劇市村座見物
 十月廿五日 商工省工藝展覽會招待(三越ニ於テ)
 十月廿六日 午前十時ヨリ日本青年會館開館式舉行(青山ニ於テ)
 十月廿七日 午後五時華族會館無所屬會
 十月廿八日 育英社出勤 午後五時報德會講演 午前八時半ヨリ明治神宮觀技會開會式(内務大臣ヨリ招待)
 十月廿九日 清水澄氏來宅
 十月三十日 山本良吉氏來宅
 十月卅一日 後一時四十分御所參内
 十一月一日 午前ヨリ上野電車視察 學生會(前田邸ニ於テ) 午後五時半鈴木惣太郎結婚ヲ帝國ホテルニ於テ披露ス 前十時ヨリ上野竹ノ臺ニ上野神田驛間電車線開通式アリ

十一月四日 育英社出勤
 十一月五日 宮中參内
 十一月十日 午後帝國ホテルニ於テ久松氏婚儀 早川忠治氏祖母氏死亡ニ付行キ弔問 帝國「ホテル」卒倒ス 此日晚二木氏來診ス
 十一月十一日 午後二時帝國劇場全國新聞記者二十五年勤續二十五年祝賀會其他觀劇 育英社出勤 此日晚
 十一月廿三日 宮内省不參屆ヲ爲ス
 十一月三十日 四谷三河屋ニ至ル長谷氏出京ニ付祝意ヲ表スル也
 十一月一日 銀行集會所土岐氏ヨリ一々會トス

一月五日 今井氏ノ新年會ニ赴ク
 一月六日 田上氏ノ新年會ニ赴ク
 一月八日 學校始業 歩兵操練ニ加入ス
 一月九日 生駒氏ノ招ニ應ジテ其宅ノ新年會ニ赴ク
 一月十一日 岸井七郎入宿勉強スルヲ許ス
 一月十六日 平岡氏ノ新年會ニ赴ク
 一月廿三日 此日ヨリ毎週水曜日ニ Analytical Geometryノ講義ヲ開ク 本間氏ノ新年會ニ赴ク
 一月廿七日 永山鐵男氏ノ送別會ニ赴ク
 一月廿九日 大島氏ノ新年會ニ赴ク
 一月三十日 木村氏ノ新年會ニ赴ク

明治十九年

(大正七年の日誌初校中偶然に發見せられたるもの)

一月一日 新年參賀ノ爲メ出應ス本間、田上、今井ト共ニ寫眞ヲ取ル
 一月二日 專門學校ノ新年會ニ赴ク
 一月四日 本間、田上、今井、大島等及夫人數名ヲ招キ新年小集ヲ催ス

二月一日 陸軍士官中村氏ニ毎月第一、第三水曜ノ兩日ニ其數學質問ニ應スルヲ約ス
 二月二日 金澤俱樂部ニ入り入會金五十錢ヲ出ス 故關口先生建碑ヘ金三圓出スヲ約ス
 二月七日 早川千吉郎氏ニ信ヲ送り純三郎氏ノ方向ニ付起債ヲ勸ム 土岐氏ニ信ヲ通シ米林氏ノ方向ニ付意見ヲ陳ヘ及藤江氏留學ニ付辯解ス
 二月八日 武部氏ヲ訪フ
 二月十一日 出應紀元節ヲ祝ス 本間氏ニ到ル 服部氏ニ到ル
 二月十二日 金澤學校監視依頼ニ付堀尾氏ニ信書質疑ス 金澤ノ數學家鈴木氏ヲ餞別スルニ付之ニ赴ク 増野氏ヨリ金十圓ヲ借用シ

七月返濟ヲ約ス
 二月十三日 専門學校、師範學校及學務課ノ人鈴木、原、等ノ諸氏ヲ饒別スルニ付之ニ赴ク
 二月十四日 本間氏ノ來訪ニ會フ 藤田維正先生ノ賀筵ニ赴ク肴料トシテ半圓ヲ出ス
 二月十五日 大島氏ヲ訪フ
 二月十六日 鈴木氏遊學ニ付同氏ノ留別ニ赴キ送別ノ和歌ヲ贈ル
 ミゆきぢをけふぬミそむる旅のそら向ゆく末の遠くもあるかな
 二月十七日 鈴木氏等ヲ野町端ニ送ル 拂金 二十錢俱樂部 三十
 四錢八厘永山送別費 十四錢八厘時事新報
 二月十八日 土岐氏留守ヲ尋ネ三圓ノ爲替ス
 二月廿一日 長尾含氏來談ス幼稚園ニ入會ヲ約ス月金二十錢宛ナリ
 二月廿二日 森氏ノ病ヲ訪フ 中橋氏ニ書面ヲ送り早崎氏遺族弔慰ノ爲ニ集リタル金高五圓三十錢ナルヲ報ス 拂金十錢郵便切手
 二月廿三日 土岐氏ニ書面ヲ送り金十五圓ヲ出ス 拂金十五圓小池返納等 十八錢爲替料等
 二月廿五日 金澤學藝講談會ノ相談ニ赴ク
 二月廿六日 ベントン氏來ル書籍買入トシテ九圓ヲ渡ス 關口建碑ノ方ヘ三圓半ヲ出ス但半圓ハ土岐出金ナリ 本間氏ヲ訪フ 人見氏來リ教授ヲ懇望ス毎月第一水曜ニ質問ニ應スルコトヲ約ス
 二月廿七日 七十錢賄方ヘ拂ス 今井氏ヲ訪フ
 二月廿八日 齋田ノ雪門禪師ニ面接ス爲メ晝頃金澤ヲ出發シ今石勳ニ宿ス 拂金二圓七十錢

三月一日 雪ヲ踏テ齋田ニ入り雪門師ニ謁シ入門ス此夜座禪寺内ニ泊ス 拂金三十五錢
 三月二日 國泰寺ニ留リ參禪スルコト三回 拂金 二圓禪師ニ呈ス
 三月三日 禪寺ヲ出テ福岡ヨリ本多氏ニ別レ西明寺村ヲ尋ネ其名ノ來歴ヲ嘉右衛門及湯谷孫平ニ質ス土人ノ口碑區々ニシテ信ス可ラス一日時頼名ヲ匿シ妓ニ止ルコト三年ト温泉ノ縁起ニ見ユ又曰ク故ト西明寺ト名ル寺アリ今ノ五輪塔ハ其趾ナリト「イシツ、ミ」村ニ寺アリ其住持或ハ此事ニ詳ナルベシト云ヘリ 寒香亭主人妓ヲ誠ム 拂金 三圓 歸宅ス 武部氏大島氏來訪ス 土岐氏ヨリ信ヲ受ク
 三月五日 土岐氏ニ送信シ配偶ノ一條ヲ相談ス
 三月六日 碧巖錄提唱ニ參聽ス
 三月七日 俱樂部總會ニ赴ク途中ニ碧巖錄提唱ヲ參聽ス 雪野氏ヨリ信ヲ受ク
 三月八日 碧巖錄提唱ヲ參聽ス 雪門師ニ參禪ス 拂金 三十錢
 三月九日 夜碧巖錄講義ヲ聽聞シ其夜禪師ト談話シ十二時ニ至リ歸宅ス
 三月十日 夜大島氏來訪ス 近藤勘太郎逃亡ス
 三月十一日 午前十二時過車ヲ馳セ近藤ヲ追フ未明ニ今石勳ニ着シ之ヲ待ツコト四時間計リ來ラス車ヲ還ヘシ竹ノ橋ニテ之ヲ捕ヘ携テ歸ル 山崎氏ヨリ信ヲ受ク 拂金 三圓 此日學校缺勤ス
 三月十二日 課ヲ終ル後本間、田上二氏ト向山ニ散歩ス 斯波氏ニ

ヲ與フ 拂金 壹圓 西洋酒
 三月十三日 奥田氏來訪ス
 三月十四日 櫻尾氏來訪ス 市中ヲ散歩ス
 三月十五日 田上奥田大島ト向山ニ散歩ス 此朝駒澤氏來レリ桐生某ノ教訓ヲ頼ム應セス 得田氏西田某氏ノ父ト共ニ其教訓ヲ依頼ス
 三月十六日 岸井子ヲ携ヘ向山ヲ散歩ス 岸井孝次氏來訪ス 西田氏中島氏來リ向後學問ノ質問ヲ請フ其志ノ切ナルヲ愛シ毎月第一水曜ニ來問スルヲ許ス 近藤勘ノ父來リ其子ノ一身ヲ相談ス 小池先生ヨリ信ヲ受ク
 三月十七日 朝八時馬場氏ノ息女ニ途ニ觀フ 此夜結婚ニ付奥田、大島二氏ト武部氏ニ到リ相談ス初メ馬場氏ノ息女外ニ縁談アリテ今日ヲ以テ我諾否ノ期トス其縁談ハ奥田氏ナルヲ同氏語ル處理天ニ從ヒ成否天ヲ奉スルヲ約シテ歸ル 土岐氏ヨリ信ヲ受ク其信書ヲ落失ス
 三月十八日 奥田氏ト共ニ大島氏ヲ訪フ奥田氏馬場氏トノ縁成ルヲ告ク
 三月十九日 野町ノ小學校ヲ參觀シ宮北氏ノ息女ヲ見ル
 三月二十日 奥田、大島、森氏來訪ス四人ノ間ニハ往來訪問ノ際故ヲニ馳走セザルヲ約ス 丹上、紺吉來ル
 三月廿一日 田上、本間、今井、平岡大島ノ五氏ト白山神社ニ參詣ス 拂金 三十錢
 三月廿二日 向山ニ散歩ス
 三月廿四日 斯波氏ヨリ Wilson's Solid Geometry 來着ス

三月廿五日 大島、吉村二氏ト向山ニ散歩ス 土岐氏ニ信ヲ送ル 出金 九圓東京送金 十四錢爲替料等 三十錢向山茶屋拂
 三月廿六日 大島、奥田二氏ト天徳院、上野練兵場ヲ經テ田上村ニ下リ田井天神ニ詣シ鈴見ヨリ向山ニ上ル歸路大島氏好桃樓ニ西洋料理ヲ囓ス
 三月廿七日 近藤勘太郎逃走ス
 三月廿八日 本間氏來訪ス共ニ奥田氏ヲ誘ヒ向山春日山ヲ散歩ス 夜田上、今井氏來訪ス
 三月廿九日 奥田氏ト野田大乗寺内ヲ散歩ス 中橋氏ヨリ亡早崎氏祭資料トシテ金百二十圓ヲ送ル
 三月三十日 森卷耳氏滋賀縣出向ノ送別會ニ古今亭ニ赴ク 中橋氏ニ金子受取ヲ回答ス
 四月二日 武部、大島、奥田ノ三氏ト向山ヲ散歩ス
 四月三日 専門學校一同向山旗奪ノ遊ニ赴ク 拂金 十錢
 四月四日 森卷耳氏滋賀出向ヲ町端ニ送ル 學藝講談會ニ赴ク 平岡氏來訪ス
 四月五日 澤井廉氏送信ス 中橋德氏ニ信ヲ通ス早崎氏ノ爲メ義捐金ヲ以テ公債證書買入事件ニ就テナリ「ベントン」氏ヲ訪フ歸路山ノ尾ニテ本間、大島及堀達ニ出會シ東廓ニ遊ヒ深更ニ歸宅ス
 四月六日 土岐氏ヨリ信ヲ受ク
 四月七日 大島氏ヲ訪フ奥田氏同會ス
 四月八日 上原氏來訪ス之ニ勸學ヲ勸ム

四月九日 森卷耳氏着遊覽縣ヲ報ス
 四月十日 武部ノ招ニ應シテ古今亭ニ會ス
 四月十一日 奥田氏ヲ訪ヒ共ニ大島氏ニ到リ雅樂ノ合奏ヲ聞ク
 四月十二日 大島氏ト共ニ坪内氏ニ到ル
 四月十三日 向山ヲ散歩ス
 四月十五日 向山ヲ散歩ス 兼六園ニ月下櫻花ヲ賞ス
 四月十七日 夜大島氏來訪ス
 四月十八日 宇ノ氣村ニ桃花ヲ賞ス西田氏酒肴ヲ設ケ花下ニ張宴ス
 拂金 四十九錢人力車津幡茶屋休代
 四月廿二日 武部氏ヲ訪フ
 四月廿三日 奥田氏婚禮ノ祝宴ニ赴ク
 四月廿五日 大島、黒木氏ト能瀬山瀨ニ到リ雨中桃林ヲ賞シテ歸ル
 四月廿七日 勸業博物館ヲ觀ル 夜雪門禪師ヲ訪フ 禪家ノ規鑑
 溪澗流菜ノ人ヲ思フ可シ 或大徳李綱ヲ啓ク詞 李、大徳ヲ訪フ
 禮セス一見聞クニ如カスト怒テ歸ラントス師、李ト呼フ李應ス師
 曰汝何ソ耳ヲ貴デ目ヲ卑ムト李乃チ大道ヲ問フ師天地ヲ指シテ曰
 ク會スヤ曰不會曰月在青天水在ビヨウ李忽然大悟ス
 或大徳「チヨウモジユン」ニ使セシムルコトアリ使僧未タ道ヲ得
 ス行クヲ敢セス師命辭スルヲ得ス朋友道ヲ得タル者其使事ヲ助ケ
 テ共ニ行クコト五百里語テ曰ク汝ニ代ルヲ得サル者唯五事アリ
 曰何ソヤ曰着衣嚙飯、アシ、漫溺ト使僧大悟ス
 四月廿九日 奥田大島氏來訪ス 澤井廉氏、早川千氏送信ス
 四月三十日 武部氏ヲ訪フ同氏本間、田上、今井及余四人ニ對シ中
 學教授及縣下ノ公益ノ爲盡力スル様縣令ノ内意ヲ通達ス

五月三日 幼稚園ヲ參觀ス
 五月四日 大島氏ヲ訪フ
 五月五日 博物館ニ幼稚園幼兒ノ唱歌遊戲ヲ觀ル
 五月六日 澤井、小池へ送信ス 碧巖録ヲ聽聞ス
 五月七日 碧巖録ヲ聽聞ス
 五月九日 碧巖録ヲ聽聞ス
 五月十日 繪畫品評會ヲ觀ル
 五月十一日 早崎氏へ義捐金ノ目錄ヲ傳達ス
 五月十二日 土岐氏ヨリ信ヲ受
 五月十四日 澤井氏ヨリ信ヲ受ク澤井氏ニ早崎氏ヨリノ禮狀ヲ送達
 ス
 五月十五日 大島氏來訪ス 繪畫品評會ヲ觀 菅原白龍筆山水畫ヲ
 買フヲ約定ス 丹上、紺吉來ル
 五月十六日 朝五時出發内川ヲ過リ堂村ニ至ル村民ノ住居犬小屋ノ
 如シ彼自ラ樂ム處アル可シト雖モ我ヨリ彼ヲ觀シハ人間中甚可憐
 ノ者ノ如シ
 河瀬氏、眞館氏東京行ノ送別會ニ赴ク兩氏ハ金澤ニ高等中學ヲ置
 レンヲ政府ニ歎願スル爲メニ出發スルナリ
 五月十八日 繪畫品評會ニ赴キ玉章ノ山水、曾文ノ人物、月洲ノ山
 水、成美ノ山水、外二枚ノ花鳥ヲ買フヲ約定ス
 五月廿一日 田上本間二氏ト縣令ヲ訪ヒ高等中學ノ位置ニ付大學教
 授ニ親接依頼スル爲メ校長上京ノ必要ヲ進言ス

五月廿三日 好桃樓ニ武部校長上京ヲ送別ス 早川隨正君ヲ訪フ
 後藤和友氏來訪ス
 五月廿四日 菊池、寺尾、山川、矢田部ノ四教授ニ送信ス
 五月廿五日 土岐、雪野二氏ニ送信ス
 五月三十日 鞍ヶ岳ニ上リ山ヲ下リ鶴來ニ出テ順路歸宅ス
 五月卅一日 土岐氏ヨリ信アリ曰ク小生ハ官費大學院生徒ト爲ルヲ
 得ベシト菊池先生ヨリワザト通知アリタリト
 六月五日 東京ヨリ故早崎信太郎君遺族吊慰ニ關スル報告書ヲ送ル
 六月六日 學藝講談會ニ於テ蒸汽機關ノ話ト云題ヲ以テ講談ス 會
 後會員學士ト錦甚ニ會ス歸路東武ニ同伴シ終ニ脱出ス
 六月九日 加越能新聞ニ早崎信太郎氏略傳及其遺族吊慰ノ始末登錄
 ヲ依託ス
 六月十一日 寶勝寺ニ碧巖録提唱ニ參ス
 六月十二日 奥田氏ヲ訪フ
 六月十五日 中橋氏ニ早崎氏吊慰金ノ件ニ付送信ス
 六月十六日 土岐氏ヨリ信アリ 白(一字不明)ノ金ハ五圓五十九錢
 ナル事ヲ報ス
 六月十七日 武部氏歸校ス此夕同氏ヲ訪ヒ東京ノ景況ヲ聽ク
 六月十八日 文部省學務局長折田彦市氏ヲ訪フ
 六月十九日 折田氏ヲ訪甚ニ請待スル宴會ニ赴ク此日亦縣令ヲ請待
 ス折田氏辭シ歸ル後縣令ノ演技ヲ觀ル
 六月二十日 大島氏ヲ訪フ 小立野ヨリ田上村ヲ散歩ス

六月廿二日 折田氏專門學校ヲ回覽ス
 六月廿三日 朝折田氏出發ヲ送ル
 六月廿四日 田中館及ヒ土岐氏ニ送信ス 土岐氏ニ金十圓ヲ送ル
 六月廿五日 近藤まさき女ト結婚ノ約成ル
 六月廿六日 櫻井房記氏ヨリ信アリ育英社給費生募集試験ヲ依頼ス
 奥田、大島二氏參來庭前ノ螢ヲ觀ル
 六月廿七日 武部氏、今井氏ヲ訪フ
 六月三十日 大島氏ヨリ金壹圓ヲ借ル
 七月二日 田中館愛橋、及澤井氏ヨリ信アリ Burnside 三圓七
 十七錢ナルヲ報ス
 七月三日 澤井氏ニ送信ス 土岐氏ヨリ信アリ左ノ請取ヲ送ル
 一 七十錢碧巖録 一 壹圓數學物理學會費、十九年四月迄
 一 壹圓貳十錢十九年六月日附 一 壹圓久徵館五月分 一 三
 十錢西洋節用論
 七月七日 碧巖録ヲ參聽ス 壹圓ヲ洗心會ニ寄附ス
 七月九日 碧巖録提唱ヲ參聽ス
 七月十日 香村氏來ル Chitort ヲ貸ス
 七月十三日 育英社ニ文學生徒試験ニ關シ意見ヲ入ル 雪野氏ニ送
 信シ譯海講求ヲ依頼ス 文學生徒志願者ノ英學ヲ試験ス 森外三
 郎氏來ル 田中鉄吉氏來リ數學講義聽者ヨリ謝禮三十圓ヲ贈ル
 七月十四日 宴會費四十八錢ヲ田上ニ送ル 拂金 四十二錢唐墨一
 個及筆 九十五錢萬年筆 十二錢レモン 六圓母ノ遺錢 二十錢

西洋紙等
 七月十五日 育英社募集生徒ノ文典、和譯ヲ試験ス 近藤まさき氏
 ニ萬年筆ヲ贈ル 藤井鏡氏ニ唐墨ヲ贈ル 拂金 五十錢萬年筆
 七月十六日 育英社募集生徒ノ算數及和文英譯ヲ試験ス 拂金 壹
 圓七十三錢折田君宴會費
 七月十七日 大島氏ニ金壹圓ヲ返済ス 拂金 五十錢諸會費
 七月十九日 土岐氏ヨリ信アリ
 七月廿一日 辻文部次官ノ一行ヲ迎フル爲金岩ニ行ク 拂金 三十
 六錢人力車
 七月廿二日 辻文部次官ヲ山ノ尾ニ招待スル宴會ニ赴ク
 七月廿三日 辻文部次官專門學校ヲ巡覽ス 第一高等中學ノ生徒島
 田剛太郎氏來訪ス 拂金 七十二錢ベルムツトレモン
 七月廿四日 辻文部次官ヲ東末寺ニ招待スル宴會ニ赴ク 島田氏等
 ト生絲社銅器會社ヲ巡覽ス 拂金 四十錢宴會費 三圓土岐内へ
 七月廿五日 辻文部次官出發ヲ大樋ニ送ル 加藤惠證師ヲ招キ山ノ
 尾ニ談話會ヲ開ク者アリ之ニ參會ス 拂金 三十六錢宴會費等
 三圓三十五錢夏服代
 七月廿六日 ベントンヲ訪フ 土岐氏宅ヲ訪フ 拂金 五十錢餐費
 七月廿七日 土岐氏ニ送信シ留守宅ノ内情ヲ通ス 拂金 拾貳圓土
 岐氏ノ方へ
 七月廿八日 武部氏ヲ訪フ 片岡、田上、木間三氏ト好桃樓ニ會食
 ス
 七月卅一日 金子重氏來訪ス 徳久、楡根、武部、河瀬等諸氏高等
 中學設置ノ爲盡力セル勞ヲ慰スル爲好桃樓ニ會合ス、席上高等中

學資本金募集ノ事ヲ談合ス 拂金 二圓五十錢辻次官宴會費等
 蕨底聊カ餘金アレバ寄移(修)ノ心生シ餐費ヲ増ス故ニ今後若シ過
 テ無用ノ投財ヲ爲ス時アラハ此日記中拂金目下ニ餐費二字ヲ加フ
 八月一日 沼田、田上、武部氏來訪ス 滋賀縣ヨリ歸省スル沼田、
 金子、森三氏專門學校員等ト錫屋ニ宴會ス
 八月二日 朝倉、杉中、近藤常、吉田辰、早川庄、片岡等來訪ス
 櫻井房記、雪門禪師ニ送信ス 虎列刺貧患者救助ノ爲メ金貳圓ヲ
 投入スルヲ約ス
 八月三日 白山ニ登ル爲未明ニ金澤ヲ出發ス同行者ハ武部、田上、
 大島、上原、塚本五氏ナリ鶴來ニ午食シ女原ニ泊ス
 八月四日 早且女原出發白峰ニ午食シ一ノ瀬山田屋ニ泊ス
 八月五日 午前十一時登山ス晩景山上ノ室戸ニ泊ス山上寒甚シ火ヲ
 焚ク燻リテ眼ヲ開ク能ハズ途上見ル處俄鬼ケ峰ノ嶮アリ御花島百
 花ノ妍アリ五葉坂ノ清麗ナルアリ又虹霓ノ全半圓ト第二虹霓半圓
 ノ三分一ヲ見第二虹ハ赤色内ニ在リ通常ノ虹ト色ノ順序反對ス
 八月六日 午前四時御前峰ノ絶頂ニ上ル旭日東山ニ登ル壯觀言フ可
 ラス飛騨信濃等ノ高岳屹立ス大島氏ト別レ獨歩別山ニ上リ地獄谷
 ノ嶮坂ヲ下リテ午後四時山田屋ニ歸着ス
 八月七日 山田屋ノ客舎ニ開日ヲ消ス
 八月八日 一ノ瀬出發吉野村ニ泊ル
 八月九日 歸宅ス
 八月十九日 湯涌ニ散步ス 育英社第二類撰抜試験ヲ了ス

八月廿一日 大日本教育會ノ支會設立ノ相談會ニ赴ク
 八月廿三日 土岐氏母病死ス同氏ヨリ歸郷ノ旨送信ス 早川元次郎
 氏ニ送信シ師範學校聘用ノ内談ヲ通ス
 八月廿六日 育英社撰抜生徒意見ヲ東京ニ送ル
 八月廿八日 早川元氏内談承諾ノ旨返電ス
 八月廿九日 高等中學資本金募集ノ相談會ニ赴ク 土岐氏着澤ス
 八月三十日 土岐氏ヲ訪フ 雪野氏ヨリ諷海一部ヲ送ル
 九月一日 杉中氏來談ス
 九月四日 土岐氏ト共ニ小立野ヨリ淺野川ノ川邊ヲ散步ス
 九月九日 午後土岐氏ノ宅ニ談ス午後土岐氏自宅ニ招ク 拂金
 八圓土岐氏ニ渡ス
 九月十日 田上、奥田二氏ト二股深谷ニ運動ス
 九月十二日 「ベントン」氏歸澤ス兩根竹細工盆一個ヲ土産物トシテ
 贈ル返書之ヲ謝ス
 九月十三日 櫻井氏ヨリ信アリ坂井嘉太郎、高木亥三郎二子撰抜採
 用ヲ報ス
 九月十六日 松本、内田等ヲ招キ勸學ヲ勸ム
 九月十七日 山田巽氏來訪ス
 九月十九日 山中氏ヨリ金五十圓ヲ貸ル明年三月限り返済スル約ナ
 リ 午後「ベントン」氏ヲ訪ヒ宗教ノ事ヲ談ス
 九月廿一日 醫學士菅沼氏ノ送別會ニ山ノ尾ニ赴ク吾送別ノ辭ヲ朗
 讀ス

九月廿二日 田上氏ヲ訪フ
 九月廿四日 專門學校ノ當直室ニ奥田氏ヲ訪フ
 九月廿五日 山田巽氏、杉中氏來訪ス
 九月廿七日 杉中氏專門學校教諭ニ任セラレ其招ニ應シテ祝宴ニ赴
 ク 早川千氏 土岐氏ヨリ信アリ
 九月廿八日 早川千氏土岐氏ニ答信ス
 九月廿九日 拂金 二十二圓二十五錢雪野ニ返金
 九月三十日 拂金 七十錢菅沼送別會費
 十月四日 大學ヨリ近藤虎、長崎某氏來ル山ノ尾ニ會合ス 三圓六
 十錢山ノ尾拂金
 十月六日 金壹圓 右亡大學生野村九郎氏ノ爲ニ投ス
 十月十一日 九十壹錢五厘右早崎氏ニ渡ス
 十月十三日 宮ノ越浦ニ小學生徒ノ運動會ヲ觀ル 北間屋ニ田上、
 今井ト共本間ニ忠告ス
 十月十五日 武部氏ヲ訪フ
 十月十六日 野田山ニ散步ス
 十月十八日 金三圓ヲ丹上氏ニ貸與ス
 十月廿五日 早川元氏ヲ訪フ
 十月廿六日 土岐櫻井兩氏ニ通信ス 拂金 十五圓東京へ 六圓土
 岐内へ九十ヶ月分 三十五圓母へ 半圓幼稚園等
 十月廿七日 小池先生ニ送信ス
 十月廿八日 木間、田上、ベントン、三氏ト角瓶ノ技ヲ觀ル

十月廿九日 早川元氏來宅ス共ニ共ニ今井氏ヲ訪フ 眼鏡、帳トチ、留ベウ等東京ヨリ到來ス
 十月卅一日 大島氏ト向山ヲ散歩シ鶯谷ニ菊ヲ賞ス
 十一月一日 早川元氏ヲ好桃樓ニ招キ其歸縣ヲ賀ス
 十一月二日 土岐氏ヨリ信アリ 香村氏ヨリ信アリ
 十一月三日 出應天長節ヲ賀シ專門學校職員一同ト寫眞ヲ取リ〇武部君等ト好桃樓ニ「ペントン」氏ヲ饗應シ〇大樋端ニ河瀬氏等歸縣ヲ迎フ
 十一月四日 金三圓母ニ渡ス
 十一月五日 金四圓五十錢ヲ若林ヨリ受取り土岐氏ニ送ル 早川元氏奉職ノ祝宴ニ會ス
 十一月七日 今井氏男子出生ノ祝宴ニ會ス 此日長町三番丁十六番地ニ轉居ス
 十一月八日 金二圓母ニ渡ス 金壹圓八錢芳川内務次官宴會費 金壹圓二十錢田上氏ヨリ請取ル
 十一月九日 碧巖例會ニ參ス 大島氏來訪ス
 十一月十日 櫻井氏ヨリ信アリ 金三十錢七厘學校寫眞費等
 十一月十一日 雪野氏ヨリ信アリ
 十一月十二日 少林寺ノ菊ヲ觀ル 金三圓母ニ渡ス
 十一月十三日 近藤氏ヨリ道具來ル 川北朝鄰氏ヨリ數學協會設立ニ付キ意見ヲ送ル
 十一月十四日 此夜婚禮ス來客ハ近藤兩親、近藤子供四人、叔父澤

田、鈴木近藤三人、櫻尾、祖母、時雄等ナリ
 十一月十六日 小池、土岐、織田、河村ニ送信ス
 十一月十七日 雪野、坪野、山本、近藤仙ニ送信ス
 十一月十八日 早川千、森卷、金子、桑木ニ送信ス
 十一月二十日 江沼郡教育會ノ沼ニ應シ正午金澤出發大聖寺河崎ニ投宿ス
 十一月廿一日 江沼教育會場ニ臨ミ數學瑣話ト云題ヲ以テ演説ス 山代「クラ屋」樓ニ江沼教育會ノ親睦會ニ參會ス
 十一月廿二日 江沼ヨリ歸宅ス 學校同勤ノ諸氏妻學友等ヲ招待シ結婚ヲ披露ス
 十二月四日 妻ト共ニ兼六園ニ夜雪ヲ賞ス
 十二月八日 「ペントン」氏ヲ招キ妻ヲ紹介ス
 十二月九日 土岐氏ヨリ信アリ其弟ノ懲戒ヲ依頼ス
 十二月十二日 妻ト共ニ大島氏ヲ訪フ大島氏ヲ辭シ兼六園ニ月ヲ賞ス
 十二月十六日 碧巖録ヲ參聽ス 徳久書記官ヲ訪フ雪門禪師、納富介市席ニ臨ミ道話刻々新ニシテ夜一時ニ至ル
 十二月十九日 學藝談話會ニ地球ノ形體ト云フ題號ヲ以テ講談ス會後鶴屋ニ徳久書記官字「七」等ト歡會ス
 十二月二十日 山ノ尾ニ駒井氏ノ送別會ニ赴ク
 十二月廿一日 鶴屋ニ駒井氏ノ送別會ニ赴ク 徳久書記官ヲ訪フ師範學校教頭ノ内論ヲ辭ス

十二月廿二日 大島、平岡、奥田、杉中氏來訪ス毎二週間或ハ三週間ニ一回會合談話スルヲ約ス
 十二月廿四日 田上氏ヲ訪フ
 十二月廿六日 赤摩氏來訪ス
 十二月廿八日 上山田中二氏來リ兩氏外六名ヨリ謝金十二圓ヲ贈ル
 十二月廿九日 土岐氏ニ送信シ金十圓ヲ送ル
 十二月三十日 坂谷氏ニ送信ス

第五部 藏書目

一 廣島高等師範學校圖書館寄贈ノ分

書名	冊數	書名	冊數	書名	冊數
中生理衛生教科書	一	清正眞傳記 初編	六	明島屋月夜話	五
學術通俗講演集	一	朝夷巡島記	四〇	潤國秘鑑	五
庶民ノ育成事業	一	青砥藤網模稜案	一三	飯沼與望記	二
自治小鑑	一	東鑑操物語	五	伊賀上野仇討	二
書幅「忠孝」	一	長崎繪本黃鳥墳	六	鏡山實記	一
石橋「盡忠報國」	一	繪本龜山話	一〇	潮田開運錄	一
繪本「盡忠報國」	一	繪本三國妖婦傳	一五	加賀騷動記	三
澁葉巖張先生北伐賦	一	繪本梅花水裂	八	仙臺萩	二
聖武秘要記	一	繪本彦山靈驗記	一〇	吉岡女仇討	二
鷗亭物怪錄	一	長會我部物語	六	復讐淺田實錄	一
仁孝天皇御遺事	一	檀風物語	五	白石敵討女鑑	二
武家耳底記	一	武藏坊辨慶異傳	一〇	昨日波今日能物語	一
越中史料	一	淀屋形金鷄新話	〇	兼好法師物見車	一
微積分學	一	義經勳功圖會	〇	松之操美人酒生理	一
繪本烈戰功記	二	義仲勳功圖會	〇	山家清兵衛	一
繪本漢楚軍談	一〇				

一、廣島高等師範學校寄贈

相馬大作 前編	1	The Rural Life of Japan	1	Ferrers—Elementary Treatise on Trilinear Co-ordinates	1
南總里見八犬傳	1 三六	Our Relief Works and Charitable Enterprises	1	Forsyth—Treatise on Differential Equations	1
Lankester—Guide to the Gallery in the British Museum (Zoology)	7	The History of Relief Works in Japan	1	Carley—Elementary Treatise on Elliptic Functions	1
Armstroff—Evangelisches Religionsbuch	1	Kelland & Tait—Introduction to Quaternions	1	Routh—The Advanced Part of Dynamics for a System of Rigid Bodies	1
Hähnel u. Patzig—Deutsche Sprachschule	6	Tait—Elementary Treatise on Quaternions	1	Minchin—Treatise on Statistics	1
Hirts—Schreib- und Lesebüchel	1	Salmon—Modern Higher Algebra	1	Besant—Treatise on Hydromechanics	1
Rahl u. Allmann—Lesebuch für Brandenburg	3	Scott—Treatise on the Theory of Determinants	1	Jellet—Treatise on the Theory of Friction	1
Zalewska—Rechenbuch für deutschen Schulen	2	Salmon—Treatise on the Higher Plane Curves	1	Minchin—Uniplanar Kinematics of Solids and Fluids	1
Büttner u. Kirchhof—Rechenbuch für Siebenstufte Schulen	7	Amiot—Elements de géométrie	1	Lamb—Treatise on the Mathematical Theory of the Motion of Fluids	1
Sandt u. Trautwein—Rechenbuch für Berlin und Vororte	1	Frost—Solid Geometry, vol. I.	1	Ferrers—Elementary Treatise on Spherical Harmonics	2
Praveela se Programma se Obeyamistelenoim Zapeskamm Mookeskehr Gemnazig	1	Salmon—Treatise on the Analytic Geometry of Three Dimensions	1	Strutt—The Theory of Sound	2
Grotgger—Wo'na	1	Charles—Traité de géométrie supérieure	1	Godfrey—Treatise on Astronomy	1
Young Polish People Breaking the Fetters on the Hands of Poland	1	Townsend—Chapters on the Modern Geometry, vol. I.	1	Thomson & Tait—Treatise on Natural Philosophy	2
Fotograowat J. Krieger	1	Wright—Examples in the Methods of Modern Geometry	1		

Herbertson—The Geographical Teacher	2	Hue—Travels in Tartary, Thibet and China	1	Mallum in Parvo Atlas of the World	1
Morrell—Nature Study of Realistic Geography	1	Shoemaker—The Heat of the Orient	1	Environs of London (Geological)	1
Ordnance Survey Maps	10	Baedeker—London and its Environs	1	Manual of Etiquette	1
Grant—Scales, Characteristics &c. of Ordnance Survey Maps	1	do.—Paris and its Environs	1	Stier—Jena	1
Todhunter—Elementary Treatise on Functions	1	do.—Berlin and its Environs	1	Swan—Traveller's Colloquial German	1
Morse—The Trade and Administration of the Chinese Empire	1	do.—Great Britain	1	Swan—Traveller's Colloquial French	1
Wilkinson—Papers on Malay Subjects—History	1	do.—Northern France	1	Southern Cross—Tales of Malaya	1
Skat & Blagden—Eagon Races of the Malay Peninsula	2	do.—Southern France	1	The Two Dinners	1
Mempes—Peeps at Many Lands—India	1	do.—Northern Italy and Sicily	1	Beschreiben des Verzeichniss der Gemälde in Kaiser, Friedrich Museum	1
Hodson—The Meihels	1	do.—Italy from Alps to Naples	1	Strange—Japanese Colour Prints	1
Stack—The Mikirs	1	do.—Switzerland	1	Bruxelles—Musée Wirtz	1
Thomson—Lotus Land	1	do.—La Russie	1	Bonnet—Play Drill	1
Hamilton—Afganistan	1	do.—The United States	1	愛軒遺文	三
Martin—Under the Absolute Amir	1	Kron—La Petit Parisien	1	愛古堂漫稿	一
Wright—Handbook of the Philippines	1	New York Standard Guide	1	愛日樓文詩	四
Posewitz—Borneo	1	Reynolds—Washington Standard Guide	1	行脚非詩集	一
		Scale—The Rand-Mc Nally Guide to the Great Northwest	1	章軒遺稿	一
				葦杭游記	一
				愛刻書目	一〇
				愛刻書目外集	六
				維新大家文抄	三

維新大家文抄後編	三	炎餘鴻爪詩	一	外征紀事詩存	二
維新兩雄詩文	二	櫻陰遺稿	三	回天詩史	一
驛村遺稿	二	汪堯峰文選要	二	海南遺稿	一
同	二	粵谷遺稿	八	皆夢文詩	一
一六遺稿	一	櫻洲山人遺稿	二	下學通言	一
一枝文詩鈔	一	王遵巖文粹	五	峨々螺山人遺稿	一
聿修館遺稿	四	王心齋全集	二	學海畫夢	一
聿修錄	二	歐米游草	一	隔韓論	一
官伊路淵源錄	四	定王法論	一	學孔堂遺文	二
迂齋先生學話	一	甌北詩話	四	學古叢議	二
雨山遺稿	一	嚶鳴館遺稿	一	樂堂文稿	一
雲烟逸話	一	嚶鳴文抄	五	學否辨論	一
雲林遺稿	二	歐陽文忠公文集	一	樂廬庵詩文鈔	二
永嘉先生八面鋒	二	王陽明出身靖亂錄	〇	學菴通辨	一
官易學啓蒙通釋	四	王陽明先生文集	三	學菴通辨	一
再刊易經集註	二	王陽明奏議選	六	日本客遊詞草	一
亦奇錄	三	溫山文	四	鶴梁文鈔	一
越溪遺稿	一	海外異傳	二	花月新誌	一
燕雲楚水	一	我爲我堂遺稿	一	詩兒詩	一
燕山楚水紀遊	一	海紅園小稿	一	花竹堂詩文抄	一
遠思樓詩鈔	六	開口新話	一	何博士備論	一
燕薊從軍集	〇	懷古集	一	花風得意	一
燕寧風雅	一	懷士遺音	一	霞浦游藻	一
燕南記譚	六	外征紀事五十絕	三	蒲生君平遺稿	一
				灌園遺稿	一

環海詩誌	一	畏齋先生遺訓	一	鏡歌餘響	二
勸學編	一	畏齋先生雜話	一	共和策論	一
同	二	薇山遺稿	二	旭山樓筆叢	一
勸燮淫教徵信集	一	薇山文稿	一	虛舟遺稿	二
感習編	一	箕山文稿	二	其瀾遺稿	二
感習編	一	箕山文鈔	二	金華稿刪	一
觀旭軒遺稿	二	魏叔子文鈔	三	錦溪集 初編	一
觀旭軒文稿	三	歸震川文粹	五	今古八大家文鈔	三
註感興詩	一	熙朝文苑	七	古文章評解	三
感興詩師說	一	橋廳文集	二	錦山遺稿	一
寒山詩評釋	一	同	一	今書	一
寒山詩評釋	一	葵亭遺稿	一	錦城文錄	一
環翠樓詩鈔	一	官魏鄭公諫錄	四	金城柳影	一
賞堂存稿	二	毅堂丙集	五	近世詩史	二
觀風詩史	一	奇文欣賞	四	近世詩文	二
環碧樓遺稿	五	疑問錄	一	近世大戦記略	二
函峯文鈔	三	泣血錄	一	近世八大家文鈔	三
寒絲遺稿	二	官救荒活民補遺書	二	近世名家詩文	三
官千祿字書	一	十吸江圖志	一	近世名家小品文鈔	三
洪園詩集 初編	三	求志洞遺稿	一	近世名家文粹	六
洪園文集	三	義勇芳軌	二	近世名家遊記文鈔	三
義公行實	一	求放心說	一	官琴操	一
豈好辯	一	掠園詩文存	一	金旃餘光	一
鮮歸好餘錄	三	及門遺稿	一	金陵遺稿	四

金陵文鈔	二	吳陽遺稿	二	江月齋遺集	二
空谷遺稿	二	五龍文詩	二	鴻齋文鈔 初編	三
空洞遺稿	一	長齋文略	一	蘆山遺稿	四
寓若巖詩文鈔	二	長齋詩略	一	益齋社古文偶評	二
愚山樂哉集	二	今四家絕句	一	江山勝概	二
孔雀樓文集	二	今世名家文鈔	一	高山操志	二
驅豎齋詩文鈔	四	明編今世名家文鈔	一	香山遊草	一
東北雲井龍旗全集	四	今世名家文隨 初編	一	官黃山領要錄	一
群芳園遺香	一	金洞記勝	一	蓋齋錄	一
蕭嵐小集	一	再北遊詩草	一	孔子行狀圖解	一
敬字文集	一	邱陽遺文	一	高士傳	一
桂園遺稿	六	作文效讀	一	功須社詩文	一
桂館野乘桂館漫筆	一	篠山景德文稿	一	航西詩稿	一
警軒文鈔	一	左傳帶	一	黃石齋詩集	一
官禧古錄	三	棧雲峽雨日記並詩草	一	香草園小稿	一
馨山遺稿	一	正三王外記	一	鴻爪雜詩	一
馨山存稿	一	三家文鈔	一	皇朝金鑑	一
經史論存	一	三魏文鈔	一	才子皇朝精華集	一
警醒鐵鞭	一	山高水長圖記	一	皇朝戰路編	一
奎堂遺稿	一	刪笑府	一	皇朝名家文範	一
同	一	三體詩評釋 上卷	一	光緒名臣文粹	一
奎堂文稿	一	官三餘詩法箋注	一	香亭藏草	一
瓊牙餘瀟	三	山中人鏡舌	一		
雜助集	一				

懷安遺文	二	吳陽遺稿	二	刪訂古今文致	二
孝堂先生遺稿	二	五龍文詩	二	纂評韓柳文粹	三
江頭百詩	一	長齋文略	一	纂評謝選拾遺	三
臯都名勝詩集	一	長齋詩略	一	纂評古文真寶後集	五
航米雜誌	一	今四家絕句	一	三野遺稿	二
降魔日史	一	今世名家文鈔	一	三名士傳	一
紅蘭小集	一	明編今世名家文鈔	一	山陽遺稿	一
六石琴	一	今世名家文隨 初編	一	同	一
鶴松鴻鯉編	一	金洞記勝	一	評山陽詩鈔	一
廣陵雜詞	一	再北遊詩草	一	山陽小品	一
臯和表忠錄	一	邱陽遺文	一	山陽先生書後	一
古學先生文集	三	作文效讀	一	山陽先生題跋	一
古學先生詩集	一	篠山景德文稿	一	山陽文錄	一
穀山先生文集	一	左傳帶	一	柿園遺稿	一
穀堂遺藥抄	四	棧雲峽雨日記並詩草	一	紫海拾草	一
古今七才子詩文集	三	正三王外記	一	詩經集註	一
古今說海	一	三家文鈔	一	自娛集	一
古今文隨	二	三魏文鈔	一	佚采擇錄	一
五種遺規	〇	山高水長圖記	一	同	一
古桐餘響	二	刪笑府	一	詩山遺稿	一
官古文關經	四	三體詩評釋 上卷	一	芝山先生遺稿	一
官古文典刑	三	官三餘詩法箋注	一	官詩集傳通釋	一
本古文真寶前集	一	山中人鏡舌	一	官詩集傳名物鈔	一
鼓衍子文章	一			時習堂遺稿	一
語孟字義	二				

四書輯釋	一四	周易本義附錄纂註	四	詢齋文鈔	二
四書朱子本義匯參	一〇	周易本義辯證	三	春江文草	一
四書通旨	六	秋聲遺響	二	春山樓文選	二
四聲字林集韻	一	集古偶錄	一	春秋釋例	三
子叢摘芳	二	正修身叢語	二	春樵隱士家稿	一
七香齋文稿	一	秋水遺稿	二	春水遺稿	二
七書講義	〇	秋水存稿	一	春純正蒙求	八
實字解	三	秋聲窓詩抄別集	一	春臺先生文集	三
同	一	秋聲窓文抄	一	稱謂私言	一
助字詳解	一	習靜樓遺稿	三	松塢文抄	一
虛字解	一	秋邨遺稿	三	小雲樓稿	一
同字訣總索引	一	聚亭詩鈔	二	注小學句讀	一
十竹軒遺稿	二	秋燈讀史	二	小學書欄外書	一
詩傳遺說	三	縱堂文鈔	一	小學本注	一
第一兒童教養講習錄	一	周南先生文集	一	彰功帖	二
自得堂文鈔	二	聚分韻略	一	韶齋遺稿	二
指南錄	三	朱舜水全集	一	牀山遺稿	二
司馬文正公傳家集選	六	首書七武	二	象山先生詩鈔	二
謝菴遺稿	一	朱竹垞文粹	一	疊山先生批點文章軌範	二
嚼齋遺稿	二	朱文公易說	一	小山堂文詩鈔	二
謝疊山文鈔	二	儒門空虛集語	一	涉史偶筆	一
五經註義	二	春雲樓遺稿	一	涉史隨筆	一
周易經傳	八	春嶽遺稿	一	小舟集	一
周易本義通釋	七				

紹述先生文集	二五	懷夏漫筆	四	水滸諸家文鈔	三
小說字彙	一	振起篇	三	齊家遺範	一
小說精言	五	懷齋文鈔	三	聖學	三
松雪洞遺稿	二	新策正本	三	星巖絕句刪	一
昭代詩文	四	泰山遺稿	二	星巖先生遺稿	一
小竹齋詩鈔	一	泰山集	五	省臺錄	一
涉澗集	三	新選近世六大家文	六	靜寄軒集	一
松鶴文鈔	一	新選三體詩	二	同	七
松墩遺稿 前編	一	新選名家詩文	三	正氣歌俗解	一
松南遺稿	一	新選名家文鈔	二	清狂遺稿	一
少年餘響	四	同	二	青谿書院全集	二
笑府	一	神典	一	省軒文稿	三
尙不愧齊存稿	四	親燈餘影	二	靜軒文鈔	四
尙左小史	一	清名家小傳	四	靜香閣詩文雜稿	二
遺遙遺稿	一	清名家文鈔	四	靖康傳信錄	三
松嶺餘韻	二	清名家文粹	四	省齋遺稿	三
解笑林廣記	一	新蒙求	一	官誠齋詩話	二
小蓮殘香集	二	新論	三	成齋文	一
諸葛孔明異傳	七	隨園文鈔	二	青山文鈔	一
諸葛孔明傳	一	隨園文粹	三	正志齋稽古雜錄	一
諸葛丞相集	一	翠巖文集	六	靜勝樓遺稿	一
恕軒文鈔	三	翠巖文集	一	靜處山房集	一
書集傳纂疏	七	醉古堂劍掃	四	征清軍中公餘	一
書傳輯錄纂註	六	彗星考	一	官省心雜言	一

一、廣島高等師範學校寄贈

征清詩史	一	洗心洞詩文	二
聖蹟圖	一	善身堂一家言	二
青萍詩存	一	鷹藻集	一
青楓一葉	二	潛中紀略	一
官青門賸稿	四	箋註桑華蒙求	三
精里集抄	〇	剪燈新話句解	一
積齋遺稿	三	先憂文編	一
頌水文草	一	宗海先生遺稿	一
頌水詩草	一	壯悔堂文集	一
昔昔昔秋	一	宋學士文粹	三
世說訂正	二	蒼官餘韻	二
節菴遺稿	二	宋元明清名家文鈔	二
節齋遺稿	二	叢語	一
拙齋小集	四	宋三家詩話	一
拙存園叢稿	三	艸三集	五
雲泥爪痕	一	補莊子因	〇
拙堂紀行文詩	二	莊子虞齋口義	一
拙堂文集	六	官宋十五家詩選	六
官說文解字真本	〇	漱石庵詩鈔	一
切問齋文鈔	三	宗忠簡文鈔	二
潛菴遺稿	三	曾文正文公文鈔	二
譚海淵淵	一	曾文正文公奏議鈔	二
仙壽山房詩文鈔	六	曾文定公文抄	三
洗心洞割記	二	雙峯文鈔	一

貽厥編	一	中庸解	一
耐軒詩草	二	中庸古註	一
台水遺文	二	忠貞軌範	一
太一先生遺稿	一	聽雨山房詩鈔	一
大統歌訓蒙	一	超海游紳	一
竹原遺稿	四	聽訟叢案	三
它山存稿	四	明愷慈錄	四
他山文鈔	一	陳白沙文抄	三
探奇小錄	一	陳龍川集要	六
端山先生遺書	四	陳龍川文鈔	四
澹處遺稿	一	校正議	三
談水話山	二	追蹤錄	一
談	二	譚居詩存	二
且堂遺稿	一	鐵研餘滴	四
竹雨山房文鈔	三	鐵心遺稿	一
竹堂文鈔	二	鐵捷遺稿	三
竹堂游記	六	鐵槍齋詩鈔	二
竹林寤語	一	鐵槍齋文鈔	四
雅川遺稿	二	鐵擊遺稿	三
知非子影	二	貧陰集	五
中興鑑言	一	天后傳	一
中洲文稿	六	咕噪餘音	一
籌辦中華財政國草案	一	天放存稿	一
		天民遺言	一

滿清游草	一	一	一
漫遊文章	五	一	一
同	三	一	一
三浦春江先生文集	三	一	一
明季遺聞	四	一	一
鳴鶴餘音	一	一	一
名家詩錄	二	一	一
名家文鈔	一	一	一
名花有聲畫	一	一	一
鳴原堂論文	二	一	一
明治英傑遺稿	二	一	一
明治回天集	二	一	一
明治五大家文選	二	一	一
明治諸大家文選	四	一	一
明治八大家文	三	一	一
明治百家文鈔	五	一	一
明治文抄	三	一	一
溧北文稿	三	一	一
毛川遺稿	二	一	一
木齋遺稿	二	一	一
問亭遺文	四	一	一
夜航詩話	一	一	一
野山賦文稿	一	一	一
游燕今體	一	一	一
猶賢臆測	二	一	一
熊耳先生文集	四	一	一
幽室文稿	二	一	一
幽囚錄	六	一	一
有真樓家乘	一	一	一
有真樓文集	一	一	一
遊仙窟鈔	一	一	一
猶存遺稿	一	一	一
幽討餘錄	一	一	一
中憂憤餘情	一	一	一
有味齋叢書	一	一	一
酉陽雜俎	一	一	一
俞寧世文集	一	一	一
邀月樓存稿	一	一	一
陽齋詩文稿二篇	一	一	一
葉山古錦	一	一	一
陽明學真髓	一	一	一
吉田松陰先生文稿	一	一	一
餘芳遺稿錄	一	一	一
歐禮記陳氏集說補正	一	一	一
蘭室先生詩文集	一	一	一
藍田遺稿	一	一	一
李旰江文抄	一	一	一
陸象山文鈔	一	一	一
陸宣公奏議	二	一	一
履軒幣帶	四	一	一
李孫文集	六	一	一
李忠定公集鈔	二	一	一
李忠定公奏議選	一	一	一
立庵遺稿	一	一	一
栗園先生詩存	一	一	一
栗園詩稿	一	一	一
栗園文鈔	一	一	一
栗園餘稿	一	一	一
立軒存稿	一	一	一
栗山堂詩集	一	一	一
栗山文集	一	一	一
柳子新論	一	一	一
劉誠意文鈔	一	一	一
劉戡山文抄	一	一	一
榴葉遺稿	一	一	一
留丹稿	一	一	一
了齋遺稿	一	一	一
良寬道人遺稿	一	一	一
蕺水存稿	一	一	一
兩評名家文抄	一	一	一
綾瀨先生遺文	一	一	一
蒙園遺草	一	一	一

歷劫詩存	一	一	一
櫻齋小品	一	一	一
藥水遺稿	二	一	一
歷代名媛詩文	四	一	一
歷代名家文鈔	三	一	一
烈士詩傳	二	一	一
老谷遺稿	六	一	一
老子釋解	二	一	一
浪迹小草	一	一	一
狼蹙錄	三	一	一
朗廬文鈔	三	一	一
六雄八將論	一	一	一
同	一	一	一
魯齋文集	一	一	一
論語墓註	二	一	一
論語墓註	二	一	一
渡邊智義文抄	五	一	一
赤穂義人逸事	一	一	一
阿陽忠功傳	五	一	一
有磯遺稿	二	一	一
有馬家勇功記	一	一	一
家宣公御遺訓、家齊公御事	一	一	一
家宣公御遺訓、御系圖	一	一	一
家康公御一代記	一	一	一
郁離子	二	一	一
池田家履歷略記 卷二、四、五、	二	一	一
遺言類記	三	一	一
伊勢國御百部市右衛門子 孝子萬吉傳記	一	一	一
一滴集(隱秘錄)	一	一	一
稻垣子華孝狀	一	一	一
田舎繁昌記 初編	一	一	一
渭水聞見錄	一	一	一
伊吹物語	一	一	一
岩淵夜話 別集、乾坤	一	一	一
同	一	一	一
尹文子、鬼谷子	一	一	一
梅の由兵衛物語	一	一	一
越前家御行狀記	一	一	一
江戸政記	一	一	一
江戸繁昌記	一	一	一
同 第六 繁昌後記	一	一	一
江戸名勝詩	一	一	一
鹽松紀行	一	一	一
燕窩風雅	一	一	一
奥羽舊事	一	一	一
鴨東四時雜詞	一	一	一
奥游日記	一	一	一
奥平家系譜	一	一	一
奧富士物語抄出	一	一	一
落穂集	一	一	一
落穂集靈嚴夜話	一	一	一
落穂集續編	一	一	一
但州於夏物語	一	一	一
翹楚傳	一	一	一
大磯紀勝	一	一	一
大阪繁昌詩	一	一	一
同 後編	一	一	一
溫公家範	一	一	一
溫知政要	一	一	一
梅菴叢傳	一	一	一
可觀小說	一	一	一
岳忠武王集	一	一	一
同	一	一	一
岳忠武公精忠錄	一	一	一
勝政勝則傳略記	一	一	一
勝彌集書 第一、三、五卷	一	一	一
金澤名勝題詠集	一	一	一
養順先生文集 初編五、八卷	一	一	一
蒲生君威墓表	一	一	一
正齋 兩先生遺稿	一	一	一
甘雨亭叢書	一	一	一
感詠一貫 初編一二編	一	一	一

觀延政命談	一五	續近世先哲叢談	二	孝子傳 <small>(孝子萬吉、一太郎)</small>	四
兩山紀勝	一三	近世日本外史	二六	孝子傳 <small>(政太郎合傳)</small>	一
菊隱偶筆	一一	續近世日本外史	二五	孝子萬吉略傳記	一
義公隨筆	一一	近世日本政記	一	皇朝言行錄	一
義人遺事	一一	近世烈士傳	一	興風集	一
木曾紀行、東海紀行	一一	空翠雜話	一〇	興風後集	一
岐阜雜詩	一一	虛初新志	二	稿本飛彈史談	一
仰止錄 <small>(昭國公遺事)</small>	一一	熊野雜誌	二	黃梁一夢	一
翹楚篇	一一	熊本俚談	二	御金言記 <small>(本多平八郎忠勝開書)</small>	一
映中記遊	一一	續群書類從第一三、一六二	二	國史要	一
橋北十七名花譜	一一	棕閣詩文存	一	國本論	一
玉露叢	一一	奎堂詩存	一	古語記	一
東銀街小誌初編	一一	稽德篇	一〇	護國女大平記	一
銀家遺事	一一	言行錄輯釋	一	古今武家盛衰記	一
欽家遺稿	一一	兼山麗澤秘策	一	古今武家盛衰記	一
近世逸事	一一	謙亭筆記	一	古文眞寶 <small>(後集)</small>	一
近世逸史 <small>(一)</small>	一一	謙德公御夜話	一	良齋史論	一
近世外史	一一	謙德公御夜話	一	西京傳新記 <small>(一、四編)</small>	一
近世佳人傳 <small>(初編、二編、三編)</small>	一一	憲廟實錄 <small>(拔書)</small>	一	近世碎玉話	一
近世義烈傳	一一	元和元知二拾年 <small>(文政八、西二)</small>	一	薩肥傳信錄	一
近世孝子傳 <small>(並烈女傳)</small>	一一	止元年々記 <small>(延命院略記)</small>	一	三王外記	一
近世史談	一一	晃山紀勝	一	三王外記補註	一
近世人鏡錄	一一	晃山紀勝、松島紀行	一	續三王外記	一
近世先哲叢談	一一	公實嚴秘錄	一	山海經	一

三國志	二〇	諸葛孔明傳註	二	西京傳新記 <small>(一、四編)</small>	一
三忠傳附考	一一	初月樓文話	一	近世碎玉話	一
四英獄憲唱和集	一一	尙齋先生小傳	一	薩肥傳信錄	一
四王合傳	一一	莊內物語	一	三王外記	一
史館茗話	一一	昇平日新錄	一	三王外記補註	一
自警蒙求	一一	松雲公御夜話	一	續三王外記	一
事語繼志錄	一一	神君規矩鈔	一	山海經	一
同	一一	新斥繁昌記	一		
四書纂疏	一一	神祖御遺狀 <small>(百ヶ條)</small>	一		
紫灘遺稿	一一	盡忠錄	一		
士道要論	一一	神德集	一		
上海繁昌記	一一	東新橋雜記	一		
拾遺未定傳	一一	新武家閑談	一		
秋琴遺響	一一	眞武良正系	一		
板從政名言	一一	誠病論附錄 <small>(拔書)</small>	一		
巡越餘錄	一一	睡餘漫筆	一		
殉難前草	一一	趨庭所聞	一		
殉難遺草	一一	杉田觀梅記	一		
殉難後草	一一	するかみやけ <small>(駿河土産)</small>	一		
殉難拾遺	一一	駿州義夫八助紀事	一		
勝間記	一一	征韓雜誌	一		
諸家深秘錄	一一	西京雜記	一		
諸葛丞相集	一一	清狂詩鈔	一		

一、廣島高等師範學校寄贈

大學衍義	二〇	月瀨記勝	二	評唐宋八大家文讀本	五
大君言行錄	三	名詰將棋百番	一	橙堂遺稿	一
第五才子書水滸傳	一〇	都流の毛衣	八	東坡先生年譜	一
大織冠公傳	一	同	五	東藩日記	一
泰清公遺事	一	鶴の毛衣 小野包督買歌集	一	遠山奇談	一
擬泰西人上書	一	觀貞政要	一〇	東遊日錄	一
大東世語	五	貞丈家訓	一	徳川家見聞録	一
大東婦人貞烈記	四	孫子十家訓	一	徳川慶勝様御事蹟略記	一
大日本美術圖譜一四	四	天橋遊紳	四	讀杜心解	一
同 解説	四	傳習錄附古本大學	一	土佐物語	一
高杉晋作其他	一	天明炎上記	一	利家公御夜話等	一
高山正之傳	一	道菴遺稿 初、坤	二	利常様御咄之記附録	一
續武家盛衰記	二	踏雲遊記、三日二山遊記	一	土津遺事	一
他山遺稿	一	官唐鑑	一	土津靈神言行録	一
他山の石(女論)	一	東京寫真鏡	一	土陽遊草	一
多武峰二十六勝詩	一	東京新誌 初篇	一	豐橋四時樓詠	一
譯 海	一	東京新繁昌記 初篇	一	佩弦齋外集	一
丹江記程	一	新東京繁昌記 初篇	一	浪華四時雜問	一
官 齋德錄	一	桃源遺事附録	一	南紀遊草	一
中興武家盛衰記	一	東湖遺論	一	南庭餘韻	一
長嘯餘韻	一	東照宮御遺訓	一	南部根之詞	一
直入先生系傳	一	東照君島津家御成の次第	一	南遊雜錄	一
千代もと草	一	陶靖節集	一	南遊志	一
守備 兩神公御遺事	一				

新瀉繁昌記	一	武家閑談	二	北海遊草	一
二十一回猛士傳	一	同	七	北總詩史	一
二十二史言行略	一	續武家閑談	〇	官 牧民心鑑	一
日光紀遊	一	武家叢談	五	成振殿東軍ノ遺稿ヲ論	一
續日本外史	六	同	五	シ武土道ノ感嘆ニ及ブ	一
日本外史補	四	武語	一	本朝處初新誌	一
日本外史補編	四	續武將感狀記	〇	大日本史孝子傳	一
日本處初新志	二	婦女勇義錄	一	本邦續々史記	一
續日本政記	六	扶桑隱逸傳	一	前田利家卿夜話	一
日本立志編	六	續扶桑隱逸傳	三	松尾多勢子遺芳帖	一
樺坪遺稿	二	扶桑名將傳	三	松平物語 拔	一
白山遊記	一	物子年表	二	窓の須佐美	一
葉隠(肥前論語)	一	武德安民記	一	同	一
箱館戰爭と大野藩	一	同 附録	六	都繁昌記	一
塙檢校傳	一	武德大成記	二	名臣言行録外集	一
瀧祖盛烈記	一	同 武邊談	〇	三好監物忠節録	一
微業録	三	武野燭談	一	明史三傳	一
日暮硯	一	同	八	むさしあぶみ	一
秘書卜傳百首	一	武陽禁談	五	武知物語	一
常陸帶	一	古内主膳傳	一	命期集	一
肥長電信録 初編	二	文照院様御遺談	一	明君家訓	一
第三世微妙公御遺事	二	朝野群載	一	名臣言行録 前後集續集別集	一
微妙傳	二	一大命跡平壤誌	二	明和風土記	一
武隱叢語	三	碧血餘痕	一	最上義光物語	一
	合	慕夏堂文集	一	森白高傳	一

一、廣島高等師範學校寄贈

籙天集	一	幼君補佐の心得	一
山鹿素行傳	一	陽廣院様御夜話	一
山鹿素行傳(略傳)	一	横濱八景詩畫	一
湯淺元順先生隨筆	一	横濱繁昌記 初編	一
遊燕詩草	一	吉田矩方傳	一
有真樓家乘	一	吉宗公澁谷遠江守之柳菴夜話外二	一
有真樓文集	一	陸秀夫論 其他	一
遊中禪寺記	一	板六 箱	一
遊豆記勝、東省續錄	一	柳下集	一
遊豆小誌	一	柳橋新誌	一
夢路日記	一	柳橋新誌	一
夢路の記	一	柳橋竹枝	一
合	五	東柳巷新史	二
		柳北奇文	二
		兩江市誌	二
		聊齋志異	二
		官歷代君鑑	二
		評歷史靖獻遺言	二
		列婦傳(有不爲齋叢書甲集ノ内)	二
		列婦傳	二
		阪谷先生文稿	二
		我宿草	二
		和論語抄	二
		以上計三八六種 一、一二四册	二

二、第四高等學校寄贈ノ分

日新館叢書	一	乘獨譚	一
北越史料叢書	八	半日閑話	一
長周叢書	六	茗話記	一
草木谷叢書秋田のむかし	三	武家評論記	一
飛騨遺業合府	一	故事閑書	一
仙臺文庫叢書	三	老人雜話	一
武邊叢書	三	竹園雜志	一
		耳囊	二
		雜誌筆記	二
		遺老物語	二
		下谷集	二
		退私錄	二
		談海集	二
		常山樓筆餘	二
		妙心寺史上卷	二
		肥後本妙寺	二
		南禪寺偉觀	二
		東叡山造立案	二
		壬生地藏尊緣起	二
		沙石集	二
		切支丹來朝實記	二
		耶蘇天誅記鈔書	二
		關邪管見錄	二
		五月雨抄	二
		安政武鑑	二
		雲上示正鑑	二
		天保武鑑	二
		豐國名士鑑	二
		江戸六ヶ所高札寫	二
		古今人物年表下卷	二
		垂統大典技錄等	二
		薩藩土風沿革	二
		柳營年中行事	二
		會津日史	二
		千代田城大奥	二
		要隘辨志拔書	二
		鍋島家集書	二
		迎鑾紀事	二

雜誌筆記	二	武道小倉袴	二
武得隨筆	一	九州奇談	一
鳩巢雜記	一	鳩巢不忘抄	一
閑窓雜話	一	阿部眞忠譚	一
泊酒雜話	一	近世江都著聞集	一
常話雜記	一	加州田宮實錄	一
剪燈隨筆	一	上杉家政錄	一
常用集雜記	一	兒鑑	一
武門大和大葉	一	近世實話	一
駿臺秘書	一	桑龜問答	一
榊原康政公御書翰寫	一	士道要論	一
白川公傳心錄	一	筑紫遺愛集	一
蕃山先生書簡集	一	忠孝君御家訓	一
見聞評百集	一	柳營夜話	一
本佐錄	一	忠孝錄	一
正信記	一	愛媛縣教育史稿	一
正信集	一	聖堂略志	一
徒然珍話	一	伊勢神宮	一
諸書雜抄	一	熱田神社問答雜錄	一
江戸眞砂六十帖	一	熱田神宮年中神樂定日儀式	一
野翁物語抄書	一	住吉神社要誌	一
龍溪雜話	一	政國神社誌	一
雜誌筆記	一	久能山東照宮寶物解題	一
諸家雜書拔萃	一	大佛及大佛殿史	一
		上杉謙信公と林泉寺	一

國朝舊章錄	三	南總武田軍記	一	藤澤戰史考證	一
金澤墓誌	一	近世紀聞	二	聖代實錄	二
津輕古今雜記類纂	一	菅領鎌倉九代記	三	防長遺芳	四
島根藩舊藩美蹟	一	東遷基業	四	津島物語	七
續泰平年表	一	熱田史料寫置帖	一〇	奧羽史料	一
配所殘筆	一	天保明治水戸見聞實錄	一	由舊錄	一
仙臺古談	一	東武實錄	一〇	江戶舊事考	三
諸國圖會年中行事大成	六	松平崇宗開運錄	三	慶安小史	一
高名感狀記	一	三河物語	三	元治甲子禁門事變實歷錄	一
渡邊幸庵對話記	一	武德安民記	六	懷舊記事	一
東都叢事記	一	磐城史料	一	三河記脫漏	三
水藩烈士記事本末	五	磐城紀事補遺共	六	島原一揆始末記	一
鎌倉九代後記	一	越中古城軍記	一	幕府始末	二
甲子戰爭記	一	大内氏實錄	一	御親征行幸中行在所四誌	一
加越能隱密錄	三	講史資料古老遺筆	一	寬明事跡錄	一
北越太平記	一	筑波太平記	一	家光公毛利秀元御茶會饗應次第	一
勢州軍記	一	諸記錄拔書	一	厭蝕太平樂記	一
島原始末記	一	三河後風土記正說大全	一〇	元寬日記	一
仙井正實根元記	一	見聞秘抄	一	考島原記	一
越後關前之堂卷	一	慶安記略	一	大阪御陣加陽撰功記	一
佐竹様御打物並南部家覺書	一	大輿實記	一	元延實錄	一
寒燈推語	一	元正間記	一	武德安民記	一
續王代一覽	一	元正間記見獨集	一	安明間記	一
朝鮮物語	一	彰義隊願末	一		
信州川中島五度合戰	一				

安明間記	二	戊辰始末	二	見聞雜談	二
大阪夏御陣覺書	一	和賀殿古來之事	一	仙臺戊辰史	一
關ヶ原拔書記錄	一	常野紀聞	一	山内史略	一
供奉記	一	戊辰北越戰爭記	一	井伊直孝公御物語之覺	一
難波戰記實錄	一〇	幕小末史	一	大奥の女中	一
大阪日記	一	東國關戰見聞私記	一	柳營秘語	一
小田原記	一	戊辰出羽戰記	一	享保柳營記	一
關原軍記本末	一	開國起原安政紀事	一	參河後風土記	一
世事叢叢	一	京都守護職始末	一	つたへ草	一
寬明當代記	四	仙臺志料	一	西島氏覺書	一
寬明摘要記	七	仙臺志料	一	石岡道是覺書拔萃	一
越後軍記	二	寶曆干大根	一	色夫錄	一
兵家紀聞	五	元就軍記	一	實水實記	一
廢絶錄	六	仙臺藩戊辰殉難小史	一	關前戶日記	一
天保錄	三	藤澤三十三年錄	一	駿府吹事錄	一
北條五代記	四	御上洛記	一	東藩私史零本	一
寬明日記	一	元寶說錄	一	栗野遺史	一
弘安文祿征戰偉績	一	伊賀上野後讎記	一	仙石家風聞書	一
府城藩屏錄	一	大阪夏御陣覺	一	仙石家一件風說書	一
清正朝鮮記	一	雨夜物語	一	寸蟲大望記	一
豐太閣征外新史	一	幕末實戰史	一	油井實記	一
極秘錄	一	加賀藩勤王紀事	一	餘吾物語	一
烈公遺文抄書并世家等	一	說夢錄	一	吉屋物語	一
元延實錄	五	近世四戰紀聞	一	朝鮮記	一
				越後記大全	一

四海太平記	一七	紀 雜談	一	立齋舊聞記	二
理慶尼の記	一	三朝逸事	一〇	館林城主記	一
慶長年中卜齋記	一	徳川傳記	一〇	橋山遺事	二
先賢遺寶	一	遺老物語	一	仰景錄	一
雨窓紀聞	二	慶長小説	一	氏郷傳	一
麥叢錄	二	浪花瀉大筒夢物語	一	孝公行實	一
東家戰記	二	關東關西血氣物語	一	尾張名家誌	二
上野戰爭實記	二	安明問記	一	本朝女鑑	二
續今日抄	六	北川覺書	一	武家秘鑑抄	二
近世太平記	二	天滿水滸傳	一	名將家譜	二
丁丑亂概	二	高橋太郎右衛門問書	一	尾陽侯記	二
後見草	二	祖父物語	一	上月城	一
異本中山實秘錄	一	諸士軍談等	一	越前人物志	一
北條五代志	一	近古金城遺事	一	尾城始君記	一
南朝遺史	一	義公黃門仁德錄	一	福井侯行實	一
本朝稽古篇	一	赤穂誠忠武鑑	一	仙臺藩祖成蹟	一
土州山内家老人之覺書	一	加賀羽二重	一	土津遺事	一
南行錄	一	大久保彦左衛門物語	一	播州姫路城主拾遺源朝臣忠次碑銘	一
奥州會津合戦	一	忠誠後鑑錄	一	正保野史	一
武家教令	一	義人錄講設抄	一	續撰清正記追加語集	一
米澤雜書	一	鯉嶋野の露	一	伊達家世臣傳記	一
明治太平記	一	正平の御はらから	一	岡崎物語	一
但石實記	一	仙臺人物史	一	山内御家傳記	一
志摩軍記	一	近世名匠談	一	榊原康政傳記	一

一豊公御武功記	一	池田家履歷略記	一	名和氏紀事	一
本朝名女傳	一	清和源氏新田松平家年譜	一	土井家舊記	一
二公舊事	一	系譜部類	一	小笠原家譜私錄	一
龍溪公御行狀	一	千葉家系譜	一	水野家記	一
徂徠事蹟	一	將軍御外戚傳	一	御家譜略書	一
黒田如水碑	一	牧野家家史	一	乾徳公略年譜	一
古將啓運記	一	大河内系圖	一	國君御家傳記	一
高山公御傳記	一	酒井家系譜	一	柳營婦女傳系	一
三名家略年譜	一	御家譜參考周覽	一	信興公御年譜	一
高祖父輝宗曾祖父政宗祖父忠宗記	一	加賀美系譜	一	威公年譜	一
澤野藤記	一	本多家譜	一	吉徳公略御年譜	一
前田家系譜	一	山下世譜	一	俳優市川家之譜文	一
御家譜	一	酒井兩家系譜	一	諸家武功覺書	一
前田家由來	一	對州宗氏始祖系圖	一	武家名鑑	一
鍋島直茂公譜	一	津縣系圖略	一	越叟夜話	一
滝野御家之記	一	明珍系譜	一	白石秘書	一
片響記	一	景憲家傳	一	武家耳底記	一
黒田家譜	一	井伊年譜	一	駿話本別集	一
御家譜	一	藤原姓内藤氏信成傳	一	諸士會談記	一
津陽古記抄	一	前田勃興志	一	諸士傳秘錄	一
横山家記錄	一	和漢儒家系圖	一	武家昔話	一
建慶錄	一	井家新譜	一	薩摩士風	一
我家我藩の歴史及補遺	一	村井氏家譜	一	諸將名言記	一
武家中興三代實錄	一	元和一統志	一	御名君之錄	一
池田家譜	一				

本多平八郎開書等	二	要語普錄	三	愚聞雜記	一
享保武陽開華錄	一	後燈殘話	二	武門諸説拾遺	六
神祖行實附錄	四	慶長談話本別集	一	酒井因幡守致開書寫	二
仙臺藩祖尊皇事蹟	一	太閤起亡飯沼始末錄	一	諸將名言記	一
仙臺藩祖尊皇事蹟附錄	一	功名唱	六	歷代名君要覽及名臣要覽	八
良將達德鈔	一	兵家茶話	六	米澤藩士叢譚	一
武家七德前編	〇	續兵家茶話	三	南龍君御言行錄	三
武家七德後編	〇	東照宮御遺訓附錄	一	武林隱見錄附尾	一
備國 芳烈公君則	八	家康公御遺訓	二	享保秘錄	一
有斐錄	一	寄功錄	一	明君德光錄	一
吉備烈公遺事	一	古老雜話	二	明君享保錄	一
芳烈公遺事	一	武家故事談	七	仰高錄	一
日本智叢	六	銀臺遺事及附錄	三	武臣雜話	一
武家舊事	一	近世名臣諫諍錄	三	大人雜話	一
玉話集	一	銀臺遺事	四	景靈夜話	一
近代珍説要秘錄	一	淺川開書	二	古話集	一
明君文武蹟	六	道齊開書	三	功もの語	一
護國諸家高名記	一	志士清談	四	隨聞雜錄	一
武公遺事	一	遺德談林	一	本朝名臣言行錄	一
故老實歷水戸史談	一	武家大秘錄	一	柳營雜書	一
秋澤温古談	一	穆公遺事	一	智叢書	一
擊攘錄	一	松定公遺事	一	金玉詞林	一
寬永昇進錄	一	中野圓心上書	一	翁物語	一
見聞集	一	明徵錄	五	好古堂隨筆	一

御高名話	一	柳原忠次言行錄	一	巖路誌	一
武經餘談	四	水野左近一代武功覺書	一	春日井郡志	一
明君白川夜話	三	金玉詞林	一	因伯紀要	一
南越雜話	一	逸史	三	土佐紀要	一
村井名兵衛覺書	三	野史纂略	五	日光山名跡誌	一
利家卿物語	三	大日本維新史	一	日光驛程見聞雜記	一
武邊談開書	三	武德編年集成	一	高岡開闢由來記	一
利豐筆記	一	續日本史	一	佐倉風土記	一
加納五郎左衛門行狀	一	昭代記	〇	有馬湯山道記	一
徳川時代將士言行雜記	六	南山史	三	美作略史	一
諸將名譽錄	一	保建大退打聞	三	房總志料	一
掃葉雜談	二	長崎三百年間	一	米澤ヨリ江戸マデ道中記	一
集美錄	三	阿波國史談	一	熱田町舊記	一
翁物語	〇	肥後國史略	一	若越寶鑑	一
智叢秘錄	五	鹿兒島外史	一	上野國志	一
茶飲物語	一	津輕藩史	五	古今類聚常陸國誌	一
頼宣公遺事	二	出雲私史	一	下總國舊事考	一
隱便名話	一	秋田沿革史大成	三	越前名蹟考	一
老談一言記	一	西尾私史	二	京羽津根	一
鳩巢傳話	一	伊亂記	一	野山名靈集	一
柳營故話記	一	高崎藩近世史略	一	信濃奇勝錄	一
春宵雜話	一	三河風俗	一	上野名跡志	一
竹館遺事	一	豪風雜記	一	新撰陸奥風土記	一
耳 糞	三	因伯珍談	一	泉州志	一

前橋風土記	一	續江戸砂子	五	狂歌今昔物語	二
姫路誌一斑	一	仙臺叢書封内風土記	五	歌上關之記	一
下野國誌	二	加府事跡實錄	一	吉野拾遺	三
會津温故拾要抄	四	勢陽五鈴遺響	一	長慶院御歌籠のしら玉	一
長崎土産	一	北畠拾遺	二	賀茂季慶家集	一
小田原城	一	幽齋道之記	一	事實文編抄錄	一
但馬考	一	鑿暉日記	一	皇朝靖敵遺言	三
伊豫温故錄	一	丙辰紀行	一	丙丁烟戒錄	二
遠江國風土記傳	一	晃山紀行	一	昭代逸事初集	一
房總紀要	一	白雲日記	一	牛島隨筆	一
近江名跡案内記	一	鹿島詣の記	一	春臺先生隨筆	一
筑後志	一	み山路の日記	一	三勇傳	一
本朝奇跡談	一	須我笠の日記	二	儒林傳	一
東遊奇談	五	鎌倉紀行	一	亡友錄	一
江戸名園記	一	長明道の記	一	篋名山房雜著	一
福山志料	二	加州金府御城之圖	一	梯亭初稿	二
德島縣郷土史	一	戊辰若松城下明細全圖	一	放公詩話	一
三原志稿	一	加藤保科兩家舊城圖	一	瓊弦齋雜著	二
江戸砂子	八	蒲生若松城下明細全圖	一	月瀨梅溪十六勝地眞景圖	一
北海隨筆	一	栗殿古戰場圖	一	入阪神社扁額集	一
京の水	一	狂歌奇人譚	六	附位先賢遺墨陳列目錄	一
佐渡誌	二	志士名譽	一	水戸先哲遺墨帖	一
米澤古誌類纂	一	芭蕉翁續詞傳	一	射學正宗國字解	一
彦根山由來記	一	蓬萊園記	二	無刀流劍道書	一

日本弓道大系圖	一	Wolstenholme, J.—Mathematical Problems.	一	Price, B.—A Treatise on Analytical Mathematics.	一
射法本紀略説	一	Watson, H. W., & Burbury, S. H.—A Treatise on the Application of Generalised Coordinates to the Kinetics of a Material System.	五	Price, E. J.—The Elementary Part of a Treatise on the Dynamics of a System of Rigid Bodies.	一
山崎曉々嶽合戦評論	一	Ferrers, N. M.—Mathematical Papers of the Late George Green.	一	Ibbetson, W. J.—An Elementary Treatise on the Mathematical Theory of Perfectly Elastic Solids.	一
井諫記	一	Chrystal, G.—Algebra.	一	Fouriers, J.—The Analytical Theory of Heat.	一
劍術珍勝記	一	Clifford, W. K.—The Common Sense of the Exact Sciences.	一		
井伊直政記	一	Stokes, G. G.—Mathematical and Physical Papers. 2 vols.	五		
井伊家諫書	一				
武功吟味集	一				
武備見聞雜記鈔	一				
武備目録	一				
舊幕府	五				
藤澤セミナリ演習録	五册				

三、石川縣立圖書館寄贈ノ分

報國募錄	一	藤田翁言行錄	一	加能紀要	一
朝鮮大丘一斑	一	藤澤通志	五	名古屋史要	一
樽太地誌	一	石川縣志要	一	福岡縣案内上編	一
越前國丹生郡立待村誌	一	富山縣紀要	一	防長志要	一
南部史要	一	德島縣誌略	一	廣島縣案内	一
橋口文藏遺事錄	一	西白河郡誌	一	高野山二十一勝記	一

洞荷神社縁起附笠間案内紀	一	皇國經典	一	東洋道德演會筆記	一
穴守洞荷神社縁起	一	水戸藩史料	一	神前奉告の辯	一
別荘土御門神社誌	一	高知藩教育沿革取調上	一	大和民族の天職	一
神島祭神御事蹟	一	治國壽夜話秘書	一	武林名譽錄	一
伊都岐島八景	二	話 園	一	倉橋島志	一
神道唯一問答	二	ありやなしや	一	正保土錦茂孔聖大道會草案	一
赤穂義士忠臣規矩順從錄	六	青山閑話	一	北投温泉誌	一
安蘇史	一	近響要録初編	二	硯堂叢書	一
安蘇郡史	一	柳塘雜譚	二	杜鵑啼血帖	一
徳島縣治一斑	一	新發田偉人叢話	一	明治崎人傳	一
北甘樂郷土誌	一	評江戶外史 一―九	一	根南志具佐 <small>北州烈女傳古傳 木伊波傳傳その話</small>	一
木曾路	一	三徳集	一	龍溪小説	一
常山紀談	二	昔物語 乾	一	伊波傳毛乃記	一
栗殿森敷香物並反魂塚縁起	二	六臣官暇雜記	一	大日本國誌 <small>安房卷三上中下</small>	一
香取新誌	一	鶴鳴餘韻	一	近世西東略史鈔	一
倉梯山適風	一	隆涙口碑序	一	見聞秘談抄三四	一
瀨戸略誌	一	松菊餘影	一	秋乃夜すが良	一
宮城縣温泉小誌	一	武藏武士	一	麗水難地續編	一
昔隨筆	一	名將 時代の武士	一	閑窗懷話	一
校正草茅危言	一	越藩史略 一二	一	安都免章	一
愛國偉績 續愛國偉績	一	新渡米法	一	拾圃集上巻	一
愛國叢談	一	訂改 日本之陽明學	一	田村郡郷土史	一
復古夢物語	一	附説 水戸義公	一	多可滿都	一
讀史餘論	一	登山之心得	一	科野名所集	一

浪華異變記	一	金華山小誌	一	日本漂流譚	一
浪華狂痴記事抄	一	環齊記聞	一	勉教錄	一
三山雜集	一	札廻夢	一	御行實老譚	一
第三 庄内物語	一	種々の筆記	一	舊記略鈔	一
元治夢物語 (開國史談)	一	標準清濁大平論	一	朝金剛山探勝記	一
鷄 肋	一	新田氏郷土史論	一	甲信紀程	一
改正東海舟程全圖	一	沼津雜誌	一	糖部五郡小史上巻	一
臺灣歷史歌	一	飛彈案内	一	舊高知藩教育沿革取調下	一
懷堂松崎先生遺墨	一	府朝事略	一	近代公實嚴秘録卷一	一
幕末之外交史	一	家都等	一	鑿古錄	一
信府統計 <small>古城記之一、二、三、</small>	一	日本立志編	一	寤眠錄	一
臺灣鄭氏紀事卷之上下	一	水日記	一	護史問話	一
新編會津風土記	一	明治歴史ノ裏面	一	日本外史前記	一
亂婚傳	一	明治三十七、八年 投感狀錄	一	匏庵遺稿	一
國史隨義	一	君則寫	一	擊壤餘錄 義禮習信四卷	一
新撰東西年表	一	振武餘光	一	敵 討	一
鴨綠土産寫真帖	一	校正箱根七湯志	一	西南征討志 <small>附錄一</small>	一
皇國賢臣諫諍錄	一	有馬温泉誌	一	本朝言行錄	一
金刀比羅宮神境案内記	一	須磨誌	一	肥後の勤王	一
東京名勝畫詞	一	州熱海誌	一	薩英戰爭	一
續東京名勝畫詞	一	熱海日記	一	千代田義憤物語	一
補遺東京名勝畫詞	一	養老泉志	一	城申義憤物語	一
和漢年契	一	大磯誌	一	道淡路常磐草	一
		熱海温泉圖彙	一	駿河名勝遺蹟 <small>一名名所の志るべ</small>	一
				波山始末	一

三、石川縣立圖書館寄贈

多武峰縁起	二
濟勝餘典	二
三山紀略	二
巖島みやげ	二
庄内文庫第四編餘目安保軍記	二
庄内文庫鶴岡奇雜談	二
若松市街全圖	二
萬石騒動	二
山形縣地誌提要上	二
水城雜誌類編却外三項所載	二
成憲摘要	二
松島と金華山	二
勝騎太郎長崎修三郎開書	二
上毛榛名詣	二
三浦紫昌記	二
祖志一六	二
濱田港	二
伊豆大島の事情	二
敦賀名所記	二
朝鮮事情	二
三州史料	二
雙葉乃菜	二
澎湖風土記	二
阿里山の森林	二
樺太森林調査書	二
滿洲花江奥森林調査書	二
秋田の森林	二
南部樺太森林調査書	二
鹿角志	二
甲斐名勝志五卷ノ中一卷	二
尾張様御上使へ御祈之書付	二
墨水遊覽誌	二
鹿深遺芳錄	二
福傳誌	二
姉拾山考	二
藤南血涙史	二
甲陽軍鑑	二
尊王實記	二
訂日本外史纂論	二
帝釋天紀記	二
誠集錄卷四、七	二
古今人物年表	二
日韓合邦小史	二
明治殉教繪史	二
春秋月報白井直理遺雜遺蹟	二
外交餘勢斷腸記	二
秋田藩戊辰勤王始末	二
水府小言一名勤王國粹談	二
尊攘私記	二
櫻田門	二
青山神社改築記念號	二
會津資料叢書(槍原軍物語)ノ二	二
之役 館林藩一番隊奥羽戰記	二
栗山 奉上書四冊合本	二
海防策	二
雜波戰記 一八	二
將門純友謀叛伏誅語	二
洗冤史論	二
明治年中行事	二
天保十三年和蘭加比丹風説書	二
紅葉山神靈記	二
上書并論策	二
問答十策	二
鎖國論	二
四戰紀聞(川三方頭)	二
千曲之眞砂 一、一〇	二
香取神宮小史	二
東照神社略記	二

註 神社之記	二
高野山眞景大全圖	二
惠那神社誌	二
太宰府名所誌	二
明治四十二年神宮遷宮史	二
伊奈波神社史	二
府 松崎天神鎮座考	二
東京府豐多摩郡神社誌	二
神社 顯聖記	二
愚雜記	二
總葉概録	二
武士道叢書	二
泉岳寺境内之圖	二
永平寺概要	二
鬼子母神	二
高野大士略縁起記	二
鑑甲新論	二
鳩原猷可錄	二
大坂物語	二
三河物語	二
人間抄	二
朝日の免く見	二
明訓一斑抄	二
信濃國淺間山大境日記	二
彈左衛門由緒寫	二
本 本源論	二
大野山由來記	二
紫雲山中山寺記	二
四天王寺由緒沿革記	二
大雄山誌	二
山寺名勝志	二
智山通志	二
寺名神社縁起抄	二
中臣神社縁起抄	二
嵯峨御尊縁起記	二
大谷派本願寺名所圖會	二
高田派本山名圖會	二
高田派本山名圖會	二
黒本尊縁起	二
雜抄	二
三國 善光寺如來縁起	二
傳 玉興記	二
大將軍七代記略 卷一	二
御實地附録 一、三	二
羽尾記	二
爲高麗國在庫之間 云々ノ石版	二
傳家錄	二
相州戸塚復讐事實書留	二
松田盛衰記	二
天明邪正太平記	二
農民蜂起與附屬	二
再生記	二
文政卯實聞記	二
日蓮宗 各本山名所圖會	二
近世事情	二
日露戰爭紀念錄	二
明珍家系	二
三州史料第三三四	二
中國名勝第一種黃山	二
中國名勝第二種廬山	二
中國名勝第三種普陀山	二
中國名勝第四種西湖	二
再日韓古蹟	二
獨逸の實力	二
近世の日本	二
近古名流手蹟	二
時局地方經營資料	二
講話 日本ノ未來觀	二
巖手縣贈澤郡要覽	二
旭川區概覽	二
北上川改修工事概要	二
工業地圖	二
名勝案内	二
南滿洲寫真帖	二

南滿洲寫真大觀	小濱のみな止	英國風物談
遊覽地案内	平泉名勝誌	地方資料附錄
臺灣生蕃種族寫真	寺泊名勝	時局紀念事業ノ概觀
明治天皇興國史	靜之窟	戰時に於ける地方經營
我獨逸觀	圓南叢話	時局ト國民ノ風化
愛國婦人會史	平泉志	野邊地戰爭記聞
西南漫遊記佐渡みまび	館林叢談	足利學校事蹟考
書通不詳	御嶽探勝案内	故郷追憶
正編 北海史論	朝鮮統治三年間成績	營溪事略
青森縣史談	平壤要覽	團兵記略 一―四
皇陵史稿	嵩江孔聖大道會涌章	常陸反忠記
猪湖探勝	奧羽私史	渡邊斧松
播磨多錢身飢	題名不詳	長野土產附 信濃名所案内
霧嶋山幽冥記	名君文武蹟之粹	題目不詳(墨田西九町立碑)
滿洲觀	津輕のしるべ	墨水雜詠
巖島誌	猶秘錄抜粹	船舶新編 小磯編上
東京 在原名勝史蹟	題名不詳	内見書
成田山全景	坂本名譽錄	青森縣に於ける明治天皇の御遺蹟
下總御料牧場要覽	久世條教	身延攻め
安房郡牽牛案内	莊内白石氏筆記	慶應義塾五十年史
千葉縣安房郡々勢要覽	宮城縣管内古戰場誌	千載一遇
總武線單室觀圖繪	伏見 乃木將軍舊邸之記	石川縣重要物産案内
安房國清澄寺略縁起	常野職記	支那の現在及未來の大勢
	北越名流遺芳	露國之實際經綸

地方自治要鑑	伊香保案内	大城府名所舊蹟案内
三十七 地方經營大觀	上世史	長江史蹟
征韓論實相	近時宇内大勢一斑第一、二編	航南私記
史熊本敬神黨前編	勸業諮問會答申並建議書	岡山縣名勝誌
青森縣治要覽	水河と飢饉	水戸名勝誌附大田及三濱
旭櫻雜誌	羅生門之焚札	湖 南
諸國見聞記	西洋歴史年表中等	上 海
有馬温泉誌	韓國事情要覽	福岡縣名勝人物誌
再筑波山	大陸修學旅行記	陸奥評林
筑波誌	日本に製鐵事業發達促進の急務	幕末裏面の活動
信濃古牧考	大教特教及刑の執行猶豫に關する禁酒法案	松山 愜世餘聞
長良川鶴洞の記	石川縣育成院狀況一斑	俗簡雜輯
彌彦神社附國上と良寛	出身 戰死病者人名簿	奧羽資料下卷
逗子案内記	普佛戰爭と獨乙一班教育	近藤勝之丞切腹之事
いよのゆ	授賞審査要旨(帝國學士院)	於四ツ谷驛町壹丁目(現之敷附一)
戊辰私記	朝鮮京城文庫編錄志	元祿十五年本多出雲様御預並御在所へ
懷住事談	御服之碑	差遣候一件
義舉錄 卷ノ上々	唐土歷代州郡沿革圖	幕末喪亡論
臺灣資料	竹園軍記上中	國事昌披問答
濱田地圖	義勇新誌	支政神異記上
黑龍會滿韓新圖	富士史	新見正路筆記
東磁紀行	飛彈國中案内	中嶋先生見聞錄
蒙古土産	宮城縣互理郡史	征韓論分裂始末
訂後太平記(帝國文庫第十五編)		薩藩雜新小記上

遼陽一覽	奉天鐵嶺概況	木村咄	秋田縣史上古部	津輕一統史	高田仲繩遺墨	處置宜論	太宰府紀念編	靖獻事蹟	東都落穂集	洗心洞割記	傳疑小史	景山公建白	忠孝類說	名山史料	忠士筆記	松島真景全圖	最新松島寫真帖	最新遊覽案内	最新仙臺案内	櫻田始末	水澤の栞	見聞寶水記	神戶酒港兵庫之都		
一	一	一	一	一	三	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
佐賀征討戰記	西征紀略	岩手縣地圖水澤名所案内	尾崎忠言錄	見聞隨筆	本能寺戰記	宮津御城由緒記	廣島獨案内	文政神靈記上	楠正成金剛山居	銷夏再綴	將軍御外戚傳	牛込神樂坂散討	極内密申上三覺	武家必携泰平年表	輦輅の躰	松島大觀	松島案内	東北鎮護鹽神社全圖	宮城縣誌	歸厚錄	金隆發甲捲談				
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
題名不詳	東京土産	建言書	八丈島	大戦と戦後の新局面	仙北温泉遊記	西洋史年表歌	鎌倉將軍家譜	京都將軍家譜	織田信長譜	豐臣秀吉譜	韓國鐵道線路案内	遠を津川	宮城縣温泉小誌上	北清の栞	鹿岡城弘前案内記	成田山通志	鏝阿寺小史	太田勝景誌	足利誌要	日支共同經營論	櫻川事蹟考	臺灣統計要覽	理番概要		
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

禪太の話	赤崎源助京都に被越伏見原様寺に御見	に就話	御仕向四奉行に御書付之寫	奉恩錄	砲卷十種	靈山在御事蹟靈山城碑	福島縣名勝舊蹟抄	東伯郡誌	長岡の史的回顧	山陰道昔話	舊露治時代諸規則翻譯抄	時局の教育に及せる影響取調	三十七 援護事業誌	三十七 地方經營大觀	向 鶴	北小路俊光日記抄	西域紀事	硝雲彈雨一斑	封 事	微 衷	佗山之石	安藤公一伴之寫	齋鑑集	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
西南鎮靜錄	修善寺村誌	丁巳之旅	大宰管内志	鷹山公世紀	三州志	薩隅日記地理纂考	聖武秘要記	The Scottish Mountains	Handbook to City and University	The Old Quadavargie (?)	The Size of Germany	History of Mary Stuart, Queen of Scots	The Banqueting Hall	The Scottish Kourst (?)	Romantic Edinburgh	遺聞錄	嚴嶋舊記	橄環錄	夢見錄	葛藤別紙原	閑散餘錄	紀事短篇原文叢		
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
太平開書	明石名勝略記	茂々文岐編	六合叢談	魯西漫遊記程	新國紀行	岩井實記	終北錄	東奧紀行	關の家津登	後樂園真景及詳誌	嚴嶋誌	栃木縣誌前編	京都名勝誌附地圖	扶桑皇統記圖會	靖獻遺言訓蒙疏義	靖獻遺言講義全	日本勤王篇	君臣言行錄	攝津國名所大繪圖	公政秘談錄	靖獻遺言講義	神風遺談	蒙賊記	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

成嶋邦之丞語 將軍家に申し上候書付部	一	東湖先生遺蹟	一
南部百性共集會一卷	一	大日本武德會記要	一
堀田屋御家置並過假ニ付百性困窮之事	一	朝鮮在留内地人所有地分布圖	一
九六騒動記 一一四	一	醜遇御桶	一
俣園一件	一	日米興業會社の購入せんとする地所の 圖面	二
大久保加賀守殿元臣將淺田鐵殘敵討一件	一	六無齋遺墨	一
鳥居甲斐藩著其外一件	一	鹿兒島征討錄	一
森岡買物語	一	十年征討軍團記事	一
元正聞記之内四拾七人夜討の事	一	防長正氣集	二
喜多岡勇平遭難遺蹟	一	大日本中興先賢誌	二
尊王實記	一	松の縁	一
功名咄	一	山陽外史	一
中朝事實	一	香取郡誌	一
德島縣郷土地誌	一	京都府誌	一
題名不詳	一	史料通信叢誌	一
同	一	福井縣人樺太經營史	一
同	一	滿洲及樺太	一
同	一	樺太事情	一
淺草御藏小揚岡兵衛云々書附	一	福岡縣案内	一
題名不詳	一	鹿兒島縣勢要覽圖	一
正標註日本外史 一一二附圖一	一	日向移住案内	一
駿河舞	一	佐賀縣案内	一
腹式呼吸の話	一	鹿兒島縣案内	一
木道生産の趨勢北海道	一		
		大分縣案内	一
		肥後の菊地氏	一
		戊午の遊	一
		喝 几	一
		越中名勝案内	一
		日本名勝地誌第一編第八篇	二
		南海鐵道案内	二
		中國鐵道名所案内	二
		奧羽線案内	二
		四國名所誌	二
		南滿洲鐵道案内	二
		京畿道々勢一斑	二
		石川郡誌の概要	二
		茨城名所案内	二
		山形美やげ	二
		秋田縣案内	二
		岩手縣案内	二
		岩手縣勢要覽	二
		信州案内	二
		鹿島郡誌	二
		能登誌	二
		石川縣案内	二
		宮崎縣教育一斑	二
		北海道空知郡下富良野村々勢一斑	二

亞麻製造繪葉書	一	湯嶋土産 一一六	一
湯の川温泉繪葉書	一	東海濱嶋英賊	一
北海道繪葉書	一	大日本神祇史	一
御路町々是調査項目案	一	征韓評論	一
札幌博物館案内	一	鐵道旅行案内	一
勸業統計御路町役場	一	近海の伊豆七島	一
御路支應拓殖要覽	一	伊東のしをり	一
函館區統計	一	修善寺鎮泉誌	一
旭川町勢一斑	一	北豆小誌	一
社會記錄	一	日光新誌	一
福府義倉記録寫	一	伊豆の海	一
義倉財團略誌	一	騒動根源記通夜物語	一
義倉大意	一	佐竹騒動記	一
北海道廳立感化院一覽	一	現今の札幌	一
義倉定規	一	松江市統計書	一
感恩講處務規程	一	京都案内	一
感恩講兒童保育院處務細則	一	佐賀案内	一
同 兒童心得	一	久留米案内	一
同 教科課程	一	大坂案内	一
感恩講圖卷	一	松山市統計要覽	一
感恩講慣例義解	一	松山案内	一
伊達忠臣錄	一	金澤市誌	一
藤井記	一	水戸案内	一
伊達忠臣錄私評	一	松江のしるべ	一
		唐津名所案内	一
		金澤及其附近	一
		よねざは	一
		青森案内	一
		京都名勝帖	一
		名古屋案内	一
		鳥取案内	一
		西蝦夷日誌初篇	一
		蝦夷年代記	一
		北島誌	一
		東蝦夷日誌五編	一
		唐太日記	一
		北蝦夷餘誌	一
		山口縣地圖	一
		熊本縣管内圖	一
		廣島縣地圖	一
		月德閉里程實地測圖	一
		大日本臺灣全圖	一
		北海道新圖	一
		奈良縣地圖	一
		石川縣能美郡略圖	一
		中等 大分縣地理教科書附圖	一
		秋田縣全圖	一
		岡山縣高梁附近地形圖	一

白耳義と歐洲戰爭	一
シペリヤの土地と住民	一
富山縣案内	一
愛知縣紀要	一
山形縣案内	一
若越小誌	一
吉野林業全書	一
吉野名勝誌	一
内外新報 一―三五	一
伏見桃山	一
京城勝覽	一
文政年間江戸圖面	一
不知松前噺	一
加利保兒紀事	一
八州 漂流始末聞書	一
按察檢校家筋之由來	一
二物考	一
寛政日記中山問答	一
御山のしをり	一
科野佐々禮石	一
信濃地名考	一
さよの中山ゆめ毛邊語	一
白石 山脈縱横記	一
土人教化論	一
水穂秘策	一
雨夜の友	一
天保十二年土佐藩人記外拾記	一
明治六年御觸之寫	一
御觸之寫	一
戊辰年初夏御觸の寫	一
卅年手控蕪葉集	一
桃節雜集	一
題不詳	一
同	一
同	一
御書付寫	一
町奉行達之覺	一
一橋中納言様云々	一
營中見聞誌	一
辰四月總督府(奥羽各上揚中立廻)	一
慶應三年書付寫	一
珍說集	一
勅書	一
文化三年八十三ヶ島に異國船渡來云々	一
書付	一
鄂羅斯國上書並本邦答書	一
寫シ(櫻田事件)	一
井伊掃部頭殿檢死之一件	一
水花忠勇傳	一
斬姦趣意書寫	一
合衆國大統領之書翰三通同欵差彼理之	一
書札三通俗解	一
櫻田井水錄	一
井伊殿一件風記	一
含光堂雜錄目風錄	一
含光堂雜錄卷之五	一
伊豆半島	一
野澤溫泉誌	一
訂有馬溫泉誌	一
草津溫泉療法	一
本佐錄考	一
亞墨利加合衆國測量船ヨリ書付和解	一
長州侯上書	一
島津和泉上京伺	一
長州 永井雜樂上書	一
長崎肥土四藩上表寫	一
題名不詳	一
水府公獻策	一
秘書	一
見聞隨筆	一
照國公感泊錄	一
文久七卿落由來略記	一

筑前舊志略	一
肥前國誌前編	一
日光名勝案内記	一
高野のしをり	一
朝鮮の物語集	一
東北地方振興策(附地圖)	一
伊東案内記	一
赤松武傳	一
近時紀略 一―四	一
山崎一聲二編 一―四	一
同 上下	一
伊豆七島說	一
水戸城前編之上下	一
南島紀事	一
南島紀事外編	一
明君家訓	一
白川侯御教書寫	一
元白川侯臣下に命令之寫	一
白川侯御存寄書御書付之寫	一
告示編	一
國本論	一
みかけあふ起	一
水戸黃門公示賜郡臣條令	一
木佐錄	一
岐阜みやげ	一
北武八志	一
日本傳説集	一
米澤藩蕪葉錄	一
湯田川溫泉誌	一
書題不詳	一
皇國神典至要錄	一
閑谷叢史	一
小館城由來記	一
福岡縣附近の史蹟	一
香川縣史前記(附地圖)	一
湯河原溫泉療養法	一
密書 奈良名勝巡覽記	一
日本 橋立みやげ	一
三 橋立みやげ	一
吉野名所記	一
平城坊目遺考(上下附錄)	一
修善寺案内記	一
鹽原名勝記	一
後光明天皇外記	一
仁孝天皇御遺事	一
寶許明鑑	一
鳥城志	一
松本郷土訓話集第一編	一
津久波根遠呂志	一
龍宮夢もの語り	一
嶺南江誌	一
岩越線新發田線村上線鐵道建設概要	一
遼東志書	一
滿洲地誌前編	一
潜龍遺事	一
安福 藩幸遺蹟	一
小楠公梓弓詠	一
關城詩歌	一
行在或問	一
南山義烈史	一
兒島誌	一
風説都の錄	一
閑聞集	一
足利藩御家傳私記	一
大内記實錄	一
松瀨古保麗葉	一
本佐錄補翼	一
鶴岡昔郷談	一
三國通覽圖説	一
皇朝史畫摘註	一
本國史眼	一
神皇正統記	一
源平拾遺	一

讀史贅儀	二	同	七四—一〇五	1	Glasgow	1
風説萩之枝折	一一	同	一〇六—一四四	1	The Foreign Policy of Sir Edward	1
草偃和言	一	同	一四五一—一七八	1	Gray	1
近世史書(再編一、二、三、再編三上中)	八	同	一七九—二二二	1	American Verdict on the War	1
溫和政要勸蒙(上中下)	一	同	二二三—三四三上	1	Pan-Germanism	1
再版臺灣志	一	同	民族志 一一二	1	A Dishonoured Army	1
朝鮮見聞録	二	同	禮安志 一一五	1	British and German Finance	1
西湖佳話	四	同	海軍志 一一六	1	The Friendship of America for Japan	1
朝鮮歴史地理(一、二卷)	二	同	通志 一一〇	1	Why U. S. are at War ?	1
滿洲歴史地理(一、二卷)	二	同	兵志上、下、食貨志	1	India and the War	1
秀頼事記	三	本朝通鑑	刑志完 一一四	1	Pompei	1
近世野史(初編一、二、三四五)	三	A Concise Guide to the Town and	1—17	1	The Destruction of Poland	1
米澤精古叢書	一	University of Cambridge	1	1	Surveying and Exploring in Siam	1
水野記(附録上、十一、下、中、下、員)	二	The Visitor's Guide, Aberdeen	1	1	Views of Skyside	1
論議記事	一	German Life in Town and Country	1	1	Viewst Granite City	1
旭山樓筆叢(一、八)	一	Photographic Views of Chicago	1	1	Germany	1
題名不詳(表書坤共二)	一	Burma, a Handbook of Practical	1	1	Liverpool	1
神州萬代記	三	Commercial (?)	1	1	[外ニ外國書十部書名不可讀ニ付キ目錄ニ	1
名話記中	一	A Speech Delivered	1	1	ハアレドモ列擧ヲ省ク]	1
憤機論夢物語(乾)	五〇	Germany and the German Empire	1	1	行程略圖鑑	1
大日本管轄分地圖	一	South Parts of Chicago	1	1	瀬田問答	1
市町村新舊對照一覽地圖	一	H. Trovadore	1	1	松菊山人元祿五年ノ旅日記	1
現代滿洲國外拾八圖面	一七	L. Egypte	1	1	江戸附近略圖	1
大日本史(一—三四)	一八	The Prisoners of War Bureau in	1	1	我日 江戸名園記	1
同	一八	London (?)	1	1		

水邊往邊方	五	竹園軍記(下)	1	1	親鸞聖人略傳	1
風説夢物語	五	八條彈正丑親王行狀	1	1	日光郡邸の枕	1
寶曆年間泉別飛田村孝之事説	一	源平拾遺	1	1	水越雜言	1
川尻先生事蹟	一	竹園雜誌追加	1	1	續神算算法	1
石田先生事蹟	一	二世の國實の尋	1	1	社盟算譜	1
大道庵隨筆	一	軍談種本	1	1	三忠傳	1
榮松記	二	三河物語	1	1	白林下藏書宛成功傳	1
追遠錄	一	大河法師任宅	1	1	臺灣鄭代征韓略紀事共抄錄	1
花千草	六	松蔭日記	1	1	漫錄	1
阪城激文	一	歐米通俗教育の實際	1	1	紳書	1
飯田筆記	一	嘉永御興日記	1	1	世話事雜集	1
赤穂義人録後話	一	歌林雜話集(一、二)	1	1	竊盜雜鈔	1
白川流話	一	白石先生新錄	1	1	神妙錄	1
大岡忠相事	一	紀士雜談	1	1	雨夜の燈火	1
御邑古風談	二	娘陽暉物語	1	1	廿日草	1
隨筆良民傳	一	伊呂波御歌談	1	1	雨夜の燈火	1
董風雜話	一	林鏡談	1	1	告志籠	1
倭歌勳功集	二	習善堂雜鈔	1	1	大道士會錄	1
風説集	一	滄浪寶言の自在鍵の垣衣	1	1	宇佐問答	1
公侯著聞集	一	日親上人德行記	1	1	藤樹先生文事	1
摘腹雜錄	一	承陽大師御傳記	1	1	學故政	1
事物集	一	日象德行記	1	1	明倫緒言	1
韓川筆記	一	道本開山雄譽上人傳記	1	1	麓農道の記	1
天滿宮故實	二	明忍和尚行業日記	1	1	先考家訓	1

現在貞綱行狀	二
謎物語	一
梅窓茶話	一
おはつ女はなし	一
野芹	一
同	一
深志先蹤錄	一
増田甚の助物語	一
三家概覽	一
寸間語	一
佐々木宮本記	一
寛永共術論	二
龜第慈母物語	一
賊禁秘談	一
武邊談聞書	一
政徳篇	一
忙間雜記	一
辨道書	一
獨語	一
太平策	一
智計雜談	一
源氏百人一首	一
隔なるあまり	一
太平秘覽	一
近衛忠熙公傳	一
金澤此川仇討語	一
村松三太夫逸事	一
辰巳知達物語	一
二川隨筆	一
武家教訓書	一
徳川季世雜記	一
奇説著聞集	一
高山寺利生記	一
萩の下葉	一
千年濃松	一
上月記付信濃官之傳	一
元祿三流傳	一
三傑遺蹟	一
懷土錄	一
聞書	一
東山先生語錄	一
金龍山海潮音記	一
京都繁榮記	一
徳本上人言葉之菜	一
參問契寶鏡三昧纂解	一
千里一鞭	一
二十三問答	一
太平夜談抄	一
近江聖人小傳	一
似我語非	一
金澤大火事記	一
護國談餘	一
井底蛙談	一
理慶尼真跡	一
故事聞書 前	一
金澤文庫 雙卷	一
徂徠先生政談	一
三季物語	一
可成談 乾	一
藤樹叢話	一
文政六未年四月廿二日締切	一
近説風聞雜誌	一
夢物語	一
女鏡	一
螺物語	一
大石物語	一
野夫談	一
義士實錄	一
義士雪冤	一
赤穂義人録補正	一
義人道草	一
石泉參酌	一

續宇津志江乃花	一
康俊公	一
塵塚物語目錄	一
砂金目謎草	一
歌川繪師傳	二
鴉奇物語錄	二
和調 故事談	一
安永森鏡邪正錄	三
中増婦傳	四
室町繁榮奇談	一
新鏡美談	一
血屋舖辨疑錄	一
社民騒動記	一
破地土等集	一
仙童虎吉物語	一
心耕錄	一
明和旭添俚諺	一
齋藤略傳記	一
任松希談	一
無題記 公行實	一
本阿彌光悅傳	一
秋の草	一
加州敵討	一
高田善藏	一
金府孝の夢	一
去來抄合卷	一
常山詠草	一
教報轉輪記	一
武將傳	一
微妙公御夜話	一
四季物語	一
西行物語	一
中村忠直君御家及御國預並略傳	一
長沼宗敬傳	一
木佐錄	一
告志篇	一
吉川親吾堂惟足先生傳記	一
叢話金粉初篇	一
小栗略録起 一一五	一
善光一生記	一
朱森語	一
光祿物語	一
こがねくさ	一
松屋叢語	一
赤穂記	一
寛永小説	一
鷓鴣物語	一
たわゝまつばなし(?)	一
御家格考	一
妙海語	一
盤井物語	一
義臣三原秘録	一
桂川地蔵記	一
誓神翁	一
芭蕉翁終焉記	一
豐臣勤功記	一
日清戰爭實記	一
國家學要論	一
元寛日記	一
無刀流劍道書	一
南越夜話	一
想山著聞奇集	一
國華萬葉記	一
武功吟味集	一
智囊	一
柳營秘鑑	一
維新前後	一
飛州志	一
上野志料集成	一
○秋田男鹿名勝誌	一
飛鳥山十二景詩歌並碑	一
現代文藝叢書第十一篇	一
寛花雜花	一

普遍への復歸と報謝の生活	1		
新武術流祖録	1		
平易なる皇室論	1		
北海紀行	6		
萬葉集古義	1		
道のわく	1		
明治孝節錄	4		
明治大帝尊明治美談	1		
夢路日記	1		
琉球談 琉球年代記	1		
パステル歴游畫集	1		
劉向古列女傳	2		
參訂劉向列女傳	3		
新續列女傳	3		
假名列女傳	4		
大東列女傳、本朝列女傳	2		
朝鮮國寶大觀	1		
日本古建築叢華	1		
歐洲戰爭寫眞帖	1		
英國博物館所藏スタイン寫本寫眞帖	1		
古都名木記	1		
青嵐隨筆	1		
近古懺悔系列傳	1		
トランソンの手引	1		
西銘講義其他	1		
留魂錄、風俗遺草	1		
御世一人一首傳	4		
歎涼和歌集	1		
安藝孝子傳	3		
有節錄	1		
庄内孝子貞婦事跡	1		
孝女傳	1		
慈民小傳國字解	1		
河間邑孝子要吉傳	1		
城入幡孝女傳	1		
駿州入助行狀聞書	1		
孝信清九郎物語	1		
駿州義夫八助記事	1		
善行小錄	1		
尾婦女善行錄	1		
明治大家文鈔	4		
鈴木遺稿	1		
靜齋遺稿	1		
Demolins—Anglo-Saxon Superiority	1		
G. S. Hall—Adolescence	2		
Album von Berlin	1		
American Hellenic Commercial Co-operation	1		
Waldstein—Aristodemocracy	1		
Walter Crane—An Artists Reminiscences	1		
A. I. Henty, Curiosity & Fine Art Dealer	1		
Alleged German Outrages	1		
Austrian Life in Town & Country	1		
Belgium & Germany	1		
Buchan, Illustrated	1		
Biographical Dictionary of Eminent Scotsmen	3		
British Malaya	1		
The Book of Ceylon	1		
Companion to Wood's Algebra	1		
Cassell's French-English	1		
The Camp School	1		
The Church in England	1		
The Christian Conquest of Asia	1		
China Mission Year Book, 1919	1		
The Crimes of England	1		
Carpenter—Civilization: its Cause and Cure	1		
Chambers's English Dictionary	1		
Carpenter's Geographical Reader	1		

Canterbury, The Cathedral & See Cambridge	1	Edinburgh	1	The Idea of Good as Affected by Modern Knowledge	1
City of Manchester	1	T. Suzuki—Essays in Zen Buddhism	1	E. R. Turner—Ireland and England	1
Announcement of the College of Law, 1908-1909	1	The Eton Calendar Michaelmas School Time, 1908	1	Java, Sumatra, and the Other Islands of the Dutch East Indies	1
College of Literature and Arts	1	The Foreign Language School Question	1	Malay Language	1
Cairo of Today	1	Reports Federated Malay States, 1906	1	Petersdorff—Königin Luise, von Ferman	1
La Canal Maritime de Suez	1	France	1	The Kogoshui, or Gleanings from Ancient Stories	1
Templar—Bridge	1	George Watson's College for Boys	1	A Study of Shinto, the Religion of the Japanese Nation	1
Die Denkmaler der Siegesallee	1	German Atrocities in France	1	London Day Training College, Southampton Row	1
Prospectus of the Department of Education, University of Manchester	1	Guide to Colombo	1	Selections from Lafcadio Hearne	1
A Defence of Classical Education	1	Harrow and Harrow School	1	London, 24 Artistic Photographic Studies	1
A Defence of Aristocracy	1	Horace Mann School	1	S. Webb—London Education	1
English & Malay Vocabulary	1	All about Hawaii	1	J. Morley—Life of Gladstone	5
Alleged German Outrages	1	Historic Town Winchester	1	Livre—Souvenir	1
An Illustrated Guide to the Building of Eton College	1	The History of Relief Works in Japan	1	Les Thermes de Caracalla	1
Entrance Scholarship Questions	1	J. S. Keltie—History of the Scottish Highlands	2	J. Dewey—Letters from China and Japan	1
An Elementary Treatise on Kinematics and Kinetics	1	History of the Eastern Church	1	Ia Provence	1
An Elementary Treatise on Electricity	1	Goralming and its Surroundings	1		
		Murray's India, Burma, and Ceylon	1		
		E. Carpenter—The Intermediate Sex	1		

The Land o' Cakes and Bither Scots	1	Emerson's Representative Men	1	Kingcraft in Scotland	1
H. E. Fosdick—The Meaning of Faith	1	The Revival in Manchuria	1	Scotland, Historic and Romantic	1
Must We Fight Japan?	1	Reports on Elementary Schools	1	Tours in Scotland	1
The Mastery of the Far East	1	The Rural Life of Japan	2	Sir A. Geikie—Scottish Reminiscences	1
A Guide to the Marischal College Buildings of the University of Aberdeen	1	St. Paul's School	1	Ramsay—Scottish Life & Character	1
Mount Vernon, the Home of Washington	1	St. Michel	2	Thomas Carlyle—Hero Worship	1
Manchester	1	Speech of His Excellency Signor Antonio Salandra in the Capital of Rome	1	Traditions of Edinburgh	1
The Malay Peninsula	1	Syllabuses of Religious Instruction	1	The Victoria University of Manchester	1
Notes on the Cathedrals, Winchester	1	The Scottish Clans & their Tartans	1	University of Illinois Annual Register	1
Our Relief Works and Charitable Enterprises	1	Hand-Book to Singapore	1	The University of Chicago	1
Poland for the Poles	1	The Story of Cambridge, Oxford	2	Versailles, Ses villes d'Arts celebrates	1
S. Parkinson—Elementary Mechanics	1	The Story of the University of Edinburgh	2	The Visitor's Guide to Kandy & Nuwara Eliya	1
Leo Tolstoy—Popular Stories and Legends	2	Short Stories & Anecdotes	1	Venice	1
A Popular History of the Free Churches	1	Stanley's Memorials of Canterbury	1	What Happened to Europe	1
Picturesque Hongkong	1	The School and Society	2	Westminster Abbey, its Story and Associations	1
Peeps at Many Lands, Jamaica, Siam, South Seas	3	The Student's Handbook to the University and Colleges of Cambridge	1	Winchester College	1
		Sir William Wallace, the Herd of Scotland	1	Pictures, drawn with Pen & Pencil	1
		Souvenir of Trossachs and Loch Lamond	1	American, German Fatherland, Land of the Pharaohs, English, Italian,	

Sea, French	7	繪本爲朝一代記	1	宗教と行刑	1
一九二四年米國移民法制定及之ニ關スル	1	西行法師一代記	1	金屬材料の研究	1
日本交渉經過	1	聖德太子御一代記	1	鐵及び鋼の研究	1
右公文書英文附屬書	1	花鳥早引漫畫	4	漢蒙兩族鬪爭史前	1
同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約並	1	對山畫譜	2	日本書紀私鈔	1
議定書概要	1	奇特百歌德	1	モンペイ最後の日	1
佛文平和條約文	1	通本三國志	75	Paradise of the Pacific	2
The Treatment of Prisoners of War in England and Germany	1	新編水滸繪傳	90	The World's Work	1
獨逸文	1	東瀛地圖	3	The Strand Engraving Company(?)	1
〔書名不可讀〕	1	五〇年後の太平洋	1	The School and Society	1
一休禪師御一代記	1	鋼の燒入	1	The University of Chicago	1
		選舉大學	1	Horace Man High School	2
		〔八一五頁〇秋田男鹿名勝誌以下ハ廣島高等師範學校ノ部ニ入ルベキガ誤入セルナリ〕			
四、日本青年館寄贈ノ分〔此部誤寫極メテ多シ〕					
繪本楠公記 三編 一一〇	二〇	大日本國開闢由來記 首卷及六卷	七	忠臣銘々畫傳 續發	一
繪本拾遺信長記	二三	繪本義經一代實記	五	北條盛衰記	七
北條時頼記圖會	一〇	繪本保元平治 (内題保元平治圖會)	五	前々太平記	一〇
平家物語圖會	一二	源平盛衰記圖會	六	前太平記圖會	六
信長記	八	一休諸國物語圖會 同拾遺	八	中國太平記	一
義經記	八	椿設弓張月	三〇	續太平記觀首編 及年表圖年	一〇
扶桑皇統記圖會 前編	六	赤穂義士傳一夕話	一〇	北國太平記	一五

赤穂藩集 <small>（武士一夕話）</small>	一八	梧陰存稿	二	加藤高明傳	一
東國太平記	一八	婦女鑑	二	古河潤吉君傳	一
殘太平記	二二	武藏夜話	三	高木兼寬傳	一
年山紀聞	二六	武將感狀記 <small>（内題近代正說碎玉話）</small>	三	男爵本多政以君傳	一
近世時人傳	五	名將言行錄	五	東郷元帥評傳	一
續近世時人傳	五	續名將言行錄	一	加賀松雲公	一
近世先哲叢談及續近世先哲叢談	四	續々皇朝史略	七	瑞龍公世家	一
近古史談	二	鶴の毛衣	一	天德夫人事略	一
近世叢語及續近世叢語	一六	江戶榮德川源氏	二	淳正公事略	一
增補元明史略	八	常盤物語り	四	前田利長觀	一
榮根譯	二	酒井忠勝公年譜 <small>（言行錄抄）</small>	一	高山公	一
朱子行狀	一	蒙求詳説	一	俠客全傳 <small>（文藝叢書第五冊）</small>	一
津輕藩祖略記	一	純正蒙求箋本	一	但馬聖人草庵池田先生評傳	一
大統歌	一	箋註續蒙求校本	三	横尾東作翁傳	一
三字經	一	蒙求拾遺	三	瀧和亭小傳	一
國史略、續國史略、及後編	一	德川太平記	三	柴野中將傳	一
烈祖成積	一	文庫 鎌倉顯曜錄、北條九代記	四	海舟遺稿	一
日本政記	一	本朝通鑑 <small>（首卷）</small>	一	和氣公二葉の楓	一
近思錄	一	實事譯 <small>（四十編）</small>	二	箕山濱野先生行實	一
近世日本外史及續近世日本外史	一	清國西太后	一	高橋博士	一
金澤名勝題詠集	一	唐宋節義家傳	一	嗚呼田中增藏君	一
拙堂文話及續文話	一	杉浦重剛先生	一	石川丈山 <small>（尚古）</small>	一
		河野盤州傳	一	軍人乃木大將ノ偉影	一
				劍聖宮本武藏ノ其平常心	一

幕末三俊	一	近世名人、達人、大文豪現代附録	一	日本史籍協會叢書	一
鯨海醉侯	一	明治大帝附明治美談	一	安達清風日記	一
河井繼之助傳	一	古事記通俗講義	一	朝彦親王日記 <small>（上卷）</small>	一
蜂須賀達庵	一	古事記詳説	一	會津藩應記錄 <small>（第一）</small>	一
幕末之江川坦庵	一	朝鮮併合史	一	岩倉具視關係文書 <small>（第一）</small>	一
秋木家譜	一	見聞の幕末外交物語	一	維新日乘纂輯	一
彰義隊顛末	一	古琉球	一	大久保利通日記	一
山鹿誌	一	箱館戰爭ト大野藩	一	大久保利通文書	一
講大家 明治ノ英傑	一	葦年物語抄本	一	講奏、加勢備忘 <small>（第一、第二）</small>	一
高山彦九郎先生傳	一	日本ノ海運	一	遣外使節日記纂輯 <small>（第一）</small>	一
河竹默阿彌	一	海軍及海軍要覽	一	五卿帯在記録	一
子爵清浦奎吾傳	一	江戸年代記	一	再夢紀事	一
近衛霞山公	一	歐亞ニ使シテ	一	續再夢紀事	一
加藤高明	一	名所圖繪	一	昨夢記事	一
青山餘影 <small>（田中光顯伯小傳）</small>	一	和田豐治傳	一	坂本龍馬關係文書	一
井上明府遺稿	一	泥舟遺稿	一	三條實萬手錄	一
鴻爪痕	一	外の濱風	一	所司代日記	一
靈泉集	一	眞木和泉守遺文	一	澁澤榮一潘佛日記	一
嵐山全集	一	東湖全集	一	鳥取沖田家文書 <small>（第三）</small>	一
青淵回顧錄	一	橋本左内全集	一	藩制一覽	一
杉阪遺稿	一	梁川星巖翁附紅蘭女史	一	百官履歷	一
伊藤公全集	一	小楠遺稿	一	戊申日記	一
同天 清河八郎	一	現代宣譯佛敎經典叢書	一	於ケル明治天皇	一
清河八郎遺著	一	續羣書類 <small>（自二十三編及補遺）</small>	一	山鹿語類	一

神まつて	日本帝國統計年鑑	孔林聖跡帖	五
溫泉案内	南滿洲鐵道株式會社十年史、第二次十年史	南滿洲鐵道沿線寫真帳	四
お寺まゐり	年史	斗牛帳	三
羽越線案内	校正翁草	國士の聲	二一
日本北アルプス案内	大藏經	東宮行啓紀念寫真帖 <small>第四高等學校</small>	五五
十和田湖、田澤湖案内	日本立志編	前田農場及林業所	三
スキーとスケート	江戸名所圖會	Present Day Japan	二〇
南滿洲鐵道旅行案内	皇朝史略、續皇朝史略	Honolulu, Hawaii	四
庚申北海雜誌	通鑑摩要	諭 仰	一五
加藤清正公畫寶帖	宋元通鑑	聖德皇太子	四八
原首相記念帳	綱鑑易知錄	途上偶感	二四
先哲遺芳	明鑑易知錄	詔書支義	六
金陵勝觀	山陵遙拜帖	家庭學校農場訪問記	一
天龍峽寫真帖	乃木院長紀念寫真帳	普選準備臣民翼贊之道	一
蜂須賀農場要覽	異體同心錄	大詔衍義	一
北海道寫真帖	日本及各國殖民地圖表	飽のひらき	一
仙臺市勢一覽	南米日本人寫真帖	大邱中學校要覽	一
明治太平記	平壤名勝	復興事業進捗狀況	一
鐵舟居士ノ眞面目	Solercational Choser(?)	復興事業進捗狀況	一
華陽全集	大谷 大遠忌記念帳	國家ノ現狀ト近キ將來	一
福島正則	北海道帝國大學創基五十年紀念寫真	朝鮮論	一
日本帝國文部省第五十二年報 <small>四十六、四十九、五十一年</small>	東北帝國大學醫學專門部在學紀念	カヲ見々中等教育改革論	一
第三十九、四十三、四十四、四十五回	宮崎縣寫真帖	平和條約並議定書	一
	北海道鐵道一千哩紀念	山口高等商業學校一覽	一

外務省公表集	少年の群	失業統計調査報告	五
東京ノ都市計畫ヲ如何ニスベキカ	少年道徳論	御陵參拜ノ栞	二〇
北海道概況	弘むべき道	貴族院議員會々議錄	四
北海道移民ノ現狀及其保護其獎勵法	歐米青少年訓練ノ狀況	貴族院議員先例錄	三
故男爵伊集院彦吉君追悼誌	帝國及列強ノ陸軍	外國上院制度	一
榮養研究所彙報	帝國陸軍ノ現狀ト國民ノ覺悟	貴族院議員事務報告	四
明治聖德紀念學會紀要 <small>廿三卷</small>	勞農露國ヲ如何ニ見ルベキカ	國際勞働總會報告書	二
廣島高等師範學校第二臨時教員養成所一覽	金解禁問題早わかり	貴族院議員氏名表	五
個人所得稅便覽	歐米ノ鐵工業研究機關ニ就イテ	日本社會學院年報	一
生活改善之栞	政治教育講座 第一卷	Dramatic and Other Recitations	一
不當廉賣取締ニ關スル各國ノ法令並資料	Group Theory of Sequence of Numbers	Mother's Magazine	一
金澤醫科大學十全會雜誌	國際時報 第三卷 一七二〇	Scotch Education Department Informations	5
東京朝日新聞小觀	東北數學雜誌 第三卷 一七一四	Suggestions for Consideration	1
通信事業五十年史	海外時報	Reports from Those Universities(?)	1
大阪毎日新聞社誌	日本數學物理學會誌 第二卷 一七三三	Board of Education, of Welsh Department	1
關東廳事務要覽	日本數學物理學會記事	Report of Executive Committee	1
關稅定率法	東北帝國大學工學報告	Report of Pestalozzi-Fröbelhaus II	1
都市計畫要覽	簡易保險局統計年表	Geschichte des Friedrichs—Werderschen Gymnasiums, zu Berlin	1
簡易保險事業要覽	社會政策時報	Report of School Board for London	1
海外各地在留本邦人職業別人口表	東洋文化	Festschrift von Berliner Krippen	1
朝鮮殖産銀行十年史	地學雜誌		
トラビスト	地質學雜誌		
農村振興之根本策	勞働統計局實地調査報告		
日本綿布之世界的地位			

Verein	1	On the Convergency of the Analytic Elements	1	S. E. D. Memorandum on Nature Study and the Teaching of Science in Scottish Sch.	1
Revue Pédagogique, Nouvelle Série	1	Sur les courbures des courbegauches dan [?]	1	S. E. D. Memorandum of the Study of History in Scottish Sch.	1
Parents' Review	1	Congruence of Circles in Non-Euclidian Space	1	S. E. D. Regulations for the Preliminary Education, Training and Certification	1
Amliche Berichte aus den Königlichen[?]	1	On the Solution of Partial Difference Arbeiten aus dem Anatomischen Institut der Kaiserliche Japanischen Universität zu Sendai	3	Fifty First Reports for the Year 1907	2
Thrifte Pamphlets for the Use of Teachers	1	The Tourist	1	The Japan Exporter	81
Christian Social Union	2	The Nineteenth Century	11	Teacher's College Announcement (Columbia Univ.)	1
Westminster Cathedral Chronicle	1	Educational Review	21	Announcement, Chicago Normal Sch.	1
The Medical Temperance Review	1	The Nineteenth Century and After	1	Parliamentary Debates, House of Commons	1
Prevention of Cruelty to Animals	1	The Nation's Pictures	29	Scotch Educational Department Memo.	3
Moral Instruction and Training in School	1	The Nation's Pictures	29	Education (Scotland)	2
Education Committee Informations, City of Liverpool	3	The Nation's Pictures	29	Secondary Education, Scotland	1
The Problem of Moral Instruction League	1	Paradise of the Pacific	4	Education in Hungary	1
Report of the Committee on Alleged German Outrages	1	London County Council	6	Regulations for the Training of Teachers for Elementary Sch.	1
Pamphlets Concerning Schools, Societies, and Others	70	The Science Reports of the Tohoku I. Univ.	5	Report on Higher Education in the State of N. Y.	1
The Wyke Lamist	1	The Far East	6		
American School Peace League	1	Board of Education	5		
東京帝國大學理科報告(地質學)	1	Education (Scotland)	2		
		Memorandum of the Teaching of Arithmetic	1		

Course of Study in Arithmetic, P. S. of the District of Columbia	1	History	1	The Treatment of Prisoners of War in England and Germany	1
Course of Study of English, P. S. of the District of Columbia	1	The War, its Causes and its Message	1	Some Notes on Japanese Minerals	1
The International Journal of Ethics	1	Lycée Janson de Sailly	1	Frobel Society of Great Britain and Ireland	1
Course of Study in History, P. S. of the District of Columbia	1	The Reinterpretation of Easter Bulletin, General Engineering Congress	1	King's College, Aberdeen	1
The Organization of Education in London	1	L'Ecole Coloniale	1	Organize the World	1
Regulations made by the Council	2	South Manchurian Railway	1	Ecole Municipale Turgot	1
Scholarship and Training of Teachers Handbook	1	The Visitors' Guide to Kandy and Nuwara Eliya	1	Hanstead, University College School	1
The Royal Technical College Glasgow Ann. Rep.	1	Moral Instruction League	2	Edinburgh Provincial Committee for the Training of Teachers	1
Zur philosophischen Grunlegung der natürlichen Zahlen	1	On the Rotation of Celestial Bodies	1	Oriented Circles in Non-Euclidian Space	1
Work with Boys, How to Start	1	The Unemployed, Cause and Cure	1	Manchester Grammar School	1
Labour and Drink	1	Selbstbiographie des Dr. Adolf Schottmüller	1	On Secondary Undulations of Tides	1
The New Paganism and New Piety	1	The Tramp Ward	1	Report of an Inquiry into Working Boys	1
The Organization of the Hungarian Therapeutic Institute	1	Festbericht über die Hundertjahrfeier der kgl. [?]	1	After Care of Physically Defective Day Nurseries for the Children of Working Mothers	1
Histoire de la Philosophie	1	Unterrichtsplän für die kgl. Blindenanstalt	1	Hayden, Jahreszeiten	1
La Sagesse du Docteur Bon Linme	1	Univ. of Illinois Bulletins	4	Rapport a M. le Ministre de l'Instruction Publique	1
Hungary, a Short Outline of its	1	" Summer Session	1	The Teachers' Guild of Great Britain	1
		Glasgow Provincial Committee for the Training of Teachers	2		

and Ireland	1	酒井忠勝公年譜并言行抄	1	大阪繁昌雜記	1
The Museum News	1	牧野貞喜	1	追遠日錄	1
Bulletin of the Metropolitan Museum of Art	1	仰高芳蹟	1	日本忠臣錄	1
Pestalozzi-Fröbelhaus, II.	1	忠愛公略傳	1	賢良公子御夜話	1
Popular Stories and Legends	1	忠正公御事蹟設論略記	1	一燈談	1
Bulletin of Univ. of Illinois	2	阿部伊勢守正弘公傳	1	國寶將門記傳	1
Bulletins Concerning Various Schools 30	2	豐國公年譜	1	諸家說話	1
教育調査會(特別委員會)速記錄 ^{第七十七、七十八、七十九號}	5	豐臣四將傳	1	關流算法七部香	1
國際聯盟	1	右大臣織田信長公系譜	1	本朝法華傳	1
女子學習院沿革略	1	贈從三位前田治脩卿事略	1	龍澤創建東嶺慈老和尚年譜	1
臺灣教育概論	1	武州川越善行錄	1	泊如和尚傳	1
武功實錄	1	安藤孝子傳	1	龍泉景川禪師行狀	1
武士道	1	生野銀山孝義傳	1	神子禪師年譜	1
渡邊推庵記	1	石門三師事蹟略	1	洪川禪師年譜	1
日本百將傳一夕話	1	加藤清正傳	1	東叟慈眼大師御傳記	1
細川頼之補傳	1	聖德太子御傳	1	傳行大師傳記	1
院莊作樂者	1	長崎夜話神	1	東叟山寬永寺元大師緣起中	1
伊達行朝勤王事略	1	新田公御略傳	1	獨妙禪師年譜	1
小御門神社御由來記	1	文恭世子遺事	1	兩大師傳記	1
菅公一千年	1	仙臺藩祖實錄	1	兩大師利生記	1
天滿宮御傳記	1	土津公事蹟略	1	日蓮上人御傳記	1
寶曆治水工事藤慶義士殉節錄	1	阿部伊勢守正弘公傳	1	藍嶺家列傳	1
		近世名家遺文集	1	藤城烈士傳並遺稿	1
		櫻堂國師遺稿	1	赤穂義士傳一夕話	1

事語總志錄	1	大東烈女傳	1	藤岡翁小傳	1
月照上人履歷書	1	烈女傳	1	仙臺士鑑	1
海南義烈傳	1	日本烈女傳	1	仙臺史傳	1
維新百傑	1	野藪談話	1	筑紫帶	1
近世偉人傳	1	富田高慶翁傳	1	圓覺院樓御傳十五ヶ條名分大義說	1
大東婦女貞烈記	1	松岡先生年譜	1	厚覽草	1
繪本保元、平治物語	1	醫聖永田德本傳	1	西鄉隆盛傳	1
事斯語	1	梅里小傳	1	大饗親川路利良君傳	1
明和風土記	1	三宅董庵小傳	1	山岡鐵舟	1
山田長政傳	1	淺田宗伯翁傳	1	後藤象次郎	1
教祖井上正鐵大人實傳	1	山縣大貳傳	1	由利公正	1
佐久間象山大志記傳	1	假名世說	1	報德教卜片平信明翁	1
肥長電信錄	1	桑揚庵一夕話	1	海舟言行錄	1
熊本十日記	1	積翠閣話	1	偉人伊能忠敬	1
佐賀電信錄	1	石田先生事蹟抄錄	1	明治天皇御製歌集	1
仁恕辭	1	千年山御傳略	1	德島縣學事一覽表	1
備忘錄	1	俳諧名家全傳	1	奧羽史料人物傳	1
大鹽平八郎之傳	1	追遠餘錄	1	砂糖標本詳解	1
恕齋隨筆	1	大久保利通傳	1	講演案	1
武野燭談	1	文久物語	1	南洲翁逸話	1
福山先生一代記	1	籌算完壁	1	倭歌勳功集	1
二宮尊德翁略傳	1	植松有信遺文	1	二老略傳	1
伊吹物語	1	石黒信由蹟一斑	1	半世物語	1
本朝烈女傳	1	草山貞胤翁	1	玉瀧叢話	1

兩大師傳記	二	傑人大久保利通公	一	神壁算法解	四
日本義烈傳	一	武將言行錄	一	栞窓漫筆	二
吉岡長太夫小傳	一	松尾芭蕉	一	林氏雜纂	一
栞窓漫筆	一	明治餘光	一	偉人研究	一
Nelson's Encyclopedia, vol. 1-25	1	數學教科ニ就イテ	一	身延山圖經	一
Philips' Handy Volume Atlas of the World	1	市川團十郎	一	越翁夜話	一
近藤重藏、間宮林藏	一	白隱和尚言行錄	一	木戶松菊	一
藝苑叢語	二	故習均履歷略故山日記	一	鐵舟言行錄	一
浮世繪名家評傳	一	小早川隆景傳	一	勝海舟	一
加藤弘之自叙傳	一	天保物語	一	海舟先生	一
長齊補傳手簡精華	一	註劉向列女傳	一	海舟年譜	一
蓼水五十年忌辰舊懷稿	一	皇朝名臣傳	一	權田直助翁評傳	一
本朝孝子傳 中	三	甲子殉難士傳	一	天龍翁金原明善	一
近古式事談	三	責而者草 一、二、三	一	幕府末勤王烈士手翰	一
義等雨談	一	日本偉人昔咄	一	尾上菊五郎自傳	一
記主禪師行狀繪詞傳	三	先哲叢談	一	小島蕉園傳	一
武者物語	一	繪本英雄鑑 三、五	一	岡田寒泉傳	一
篋底雜誌	一	元治夢物語	一	栗山先生ノ面影	一
木内惣五郎一代記	一	源平盛衰記圖會	一	小原鐵心傳	一
安藤忠死錄	一	劉向列女傳	一	伊東玄朴傳	一
他山遺稿	一	由來記	一	前者六無齋遺草	一
現今教育の研究	一	近世禪林僧贊傳	一	山中鹿之介末路	一
市俄古學苑	一	和漢高僧傳	一	佐川官兵衛君父子ノ傳	一
		勸事算法	一	大慈公義源公御事蹟略	一

勝海舟	一	關口開先生小傳	一	著作堂一夕話	三
關口開先生小傳	一	萬原旬當日記	一	藤樹先生文武問答	一
千葉正中傳	一	沈思錄	一	藤樹精言	一
三島中洲先生年譜	一	我が思ふ所	一	義經記	一
近江名所圖會 一、二、三	三	朝日ノ御景	一	國ノ姿	一
責而者紳拾遺	六	西郷隆盛傳	一	近世奇蹟考	一
大谷寺誌	一	桃水和尚傳贊	一	浦賀崎人傳	一
寶珠山全圖	一	先春洞雜鈔	一	履霜錄	一
身延山記	二	桃洞雜鈔	一	弘法大師年譜	一
蒙求圖會	一〇	入江森名所圖繪	一	佛家人名辭書	一
近世見聞南紀往生傳	三	隨々草	一	校訂直田三代記	一
責而者紳	四	餘身歸	一	大學或問	一
永平高祖行狀摘要	一	大勢三轉考	一	古今要覽稿 (時令部)	一
日蓮宗祖實略傳	一	武家忠臣記	一	古今要覽稿 (姓氏部)	一
日扇上人年譜	一	信州善光寺如來略緣起	一	古今要覽稿 (神祇部)	一
海外講教日持上人遺蹟ニ就イテ	一	山寺攬勝志	一	官幣大社吉野宮御傳記	一
諸嶽開山榮山佛慈禪師行實	一	身延山根元記	一	奈智深山誓文覺	一
南隱老師追憶	一	觀瀑圖誌	一	豐臣秀吉言行錄	一
續日本高僧傳	一	夜譚隨筆	一	新田相州	一
祖父恩	一	思齋漫錄	一	元春略譜	一
新調繪入柳多留	一	雨窓閑話	一	山家遺事	一
繪草紙	一	良齋閑話續	一	白川樂翁公傳	一
柳 樽	一	文天祥	一	贈從二位島津齊彬公略傳	一
懷德堂五種	一	言 海	一	松平春嶽公履歷書	一

孝信清九郎物語	一	東北帝國大學所藏狩野氏荷田藏書	二
和州清九郎傳	一	痴婆傳	一
販賣古本目錄	一	葉 隱	一
筑前國宗像郡孝子正助傳	一	南白江藤新平遺稿	一
燈心屋孝女傳	一	禪學辭典	一
浪花忠孝傳	一	繪本太閤記	一
孝子傳	一	麗玉百人一首 吾妻錦	一
集義和書類抄	二	櫻井異傳	一
近世奇蹟考	一	女諸浴勝綿	一
猿著聞集	五	南北太平記圖會	一
六道士會錄	五	大和日記	一
正顯論集	一	肝要工夫錄	一
鍋島論語葉隱	一	武家叢談	一
新選沙石集	一	西郷南洲言行錄	一
阿波孝子傳	七	阿波孝子傳	一
名家手簡	一〇	益軒十訓	一
近世遺墨	二	近世名醫傳	一
追贊一話	一	世界智計談	一
鍋島論語葉隱	一	繪本義經一代實記	一
明治家學文鈔	四	風流志道軒傳	一
櫻鳴館遺草	六	金毘羅參詣名所圖會	一
戰陣詩文	五	和泉名所圖會	一
新說明清合戰記	五	阿波名所圖會	一
健甕勝敗記	五	北越雪譜	一
		四國靈驗記圖會	三
		二宮翁卜諸家	一
		二宮尊徳卜其風化	一
		報徳學内記	一
		泰西學家卜二宮尊徳翁	一
		遺物展覧品目錄	一
		大久保忠貞侯卜其遺事	一
		温故而知新	一
		菅家世系錄	一
		護身寶典	一
		流芳蹟墨	一
		婦女鑑	一
		古老物語	一
		武邊咄聞書	一
		北越奇談	一
		近世奇人傳	一
		佛家奇人談	一
		續佛家奇人談	一
		天保山名所圖會	一
		最近ノ自然化學	一
		内觀の人類進化説	一
		勅語衍義	一
		三國名勝圖會	一

江戸大節甲海内藏	一	ベルグソンノ哲學	一
出征軍隊慰問ノ急務	一	松屋筆記	一
假面劇コマス	一	古今要覽	一
本邦工藝ノ現在及將來	一	續々群書類從	一
洛西嵯峨名所案内記	一	新群書類從	一
二宮尊徳翁五十年記念帳	一	新井白石全集	一〇
大久保侯卜二宮翁	一	近藤正齋全集	三
二宮翁夜話	一	伴信友全集	三
二宮翁教訓道話	一	菅政友全集	一
報徳記	一	玉 葉	三
農業卜二宮尊徳	一	高麗史	三
第四回乃木會講演集	一	源注餘瀟	一
本朝烈女傳	一	夫木和歌抄	一
長沼澹齋先生行狀記	一	夫木和歌抄 索引	一
最明寺殿教訓のふみ	一	燕石十種	一
近世教育史綱	一	續燕石十種	二
函數論	一	長門本平家物語	一
中等幾何學教科書	一	神田本太平記	一
獨逸補習學校制度	一	瀧頂記	一
壯丁讀本	一	集古十種	一
計算常用表	一	國書刊行會出版目錄附日本古刻書史	一
忙閑雜記 卷一四一—一六	一	山鹿語類	一
忠烈美譚	一	赤穂義人墓書	一
報恩編海語政教論	一	同 補遺	一
		甲子夜話	三
		甲子夜話續篇	一
		近世文藝叢書	一
		曲亭遺稿	一
		黒川眞頼全集	一
		事實文編	一
		史籍雜纂	一
		神道叢説	一
		日本詩記	一
		明月記	一
		正續明良洪範	一
		萬葉集古義	一
		通航一覽	一
		令集解	一
		商業叢書	一
		新燕石十種	一
		文明源流叢書	一
		近世風俗見聞集	一
		官武通紀	一
		遠近橋	一
		武江年表	一
		宴曲十七帖附諸曲末百番	一
		丹鶴叢書	一
		丹鶴圖譜	一

參考太平記	二	上田秋成全集	二
參考保元平治物語	一	譚海	一
吉川本吾妻鏡	三	百家隨筆	三
言繼卿記	四	鼠璞十種	二
系圖綜覽	二	伊能忠敬	一
戶田茂睡全集	一	妙好人傳	一
海錄	一	孝明天皇御遺德	一
列侯深祕錄	一	先皇聖蹟	一
信仰叢書	一	昭憲皇太后陛下ノ御高德	一
武術叢書	一	佐野伯耆傳	一
日本書畫苑	二	豐後風土記	一
雜藝叢書	二	相馬日記	一
德川文藝類聚	二	安西法師往生記	一
解題叢書	一	豫州安西往生記	一
群書備考	一	聖德太子	一
近世佛教集說	一	金玉均	一
田能村竹田全集	一	二宮尊德翁五十年記念帳	一
柳營婦女傳叢	一	日本社會學院年報	一
民間風俗年中行事	一	コスモ 永續スベキ平和ノ基礎	一
江戸時代文藝資料	一	二葉ノ楓	一
滑稽雜談	一	松ノ葉	一
本朝文粹	一	皇后陛下ノ御聖德	一
三十幅	一	坤德	一
竹橋餘筆	一	但馬偉人平尾在修	一
		歷代御詠集	二
		昭憲皇太后御聖德錄	一
		坂城御戰附錄	一
		臨時教育會議要覽	一
		弘前城主越中守津輕信政公	一
		榎本武揚	一
		海舟先生水川清話	一
		續海舟先生水川清話	一
		三條公履歷	一
		皇祖神武天皇	一
		船津傳次平翁傳	一
		丸山作樂傳	一
		近世醒世蒙求	一
		科學概論	一
		物理學實驗法教科書	一
		南白江藤新平遺稿	一
		南洲翁論所逸話	一
		山田長政傳	一
		大津正則傳	一
		夢路日記	一
		西山尙義遺書	一
		近世義烈傳	一
		鎌倉太平記	一
		教子鑑草	一

贈正五位乾十郎事蹟考	一	幸福ト長壽	一
幾何學新教科書	一	政治ト民意	一
日本輿地通志畿内河内國	三	學事施設ニ關スル私見	一
修養禪話 木戶義公	一	櫻原宮御傳略記	一
德川家光	一	佐藤信淵翁傳	一
祐天上一代記	六	高山公	一
伊東七十郎	一	關口開先生小傳	一
古川古松軒	一	興國ノ偉人新井白石	一
民政家監公事蹟歷	一	丹羽思亭	一
代官竹垣翁事蹟考	一	大愚良寛	一
和漢軍譯	一	販賣古本目錄	一
本覺大師傳	一	美山濱野先生行實	一
山陽外史小傳	一	田中大秀翁	一
楠正成殉難傳	一	堀保巳一先生	一
天滿水滸傳	一	第十二世守田勘彌	一
諸國物語圖會拾遺	一	仙臺藩人物叢誌	一
是デモ武士カ	一	勝海舟傳	一
石崎反永先生傳	一	荒木寛快先生小傳	一
佛教史論第一佛典結集	一	紀文	一
日露戰役殉國諸烈士追悼會記事	一	近藤守重事蹟考	一
津輕信政公事蹟	一	安東省庵	一
ニクブン文典	一	大田天亭	一
倫理哲學講話	一	加越能三州奇談	一
眞理純正哲學ノ解案	一	鐵舟居士の眞面目	一
		陣幕久五郎通高事蹟	一
		播磨の濱づと	一
		加賀松雲公	一
		本與錄	一
		殺身成仁通事吳鳳	一
		兒玉藤岡將軍逸事	一
		佐々木高美大人	一
		贈正五位坂谷朗盧事歴	一
		利豐日記	一
		懷舊夜談	一
		時局ニ關スル教育資料叢書	一
		時局ニ關スル教育資料	一
		教育と活動寫眞	一
		英國盲人保護委員會報告書	一
		殉難錄稿	一
		殉難錄稿總目錄	一
		赤木忠春大人傳	一
		良辨僧正御傳記	一
		聖岡禪師傳	一
		賞昭國師遺稿集	一
		充治園の雲影	一
		吞龍上人	一
		尾形光琳傳	一
		近世禪林言行錄	一

關州名話	二	島原人物誌	一	聖德太子小觀	一
古典集圖 八十三號八十四號	二	仙臺藩人物叢書	一	き遊れと乃露	一
開益堂書目	一	本朝醫人傳	一	但馬聖人	一
儒家理想學認識論	一	自持言行錄	一	圖書手工科教授習	三
宗教道德の必要	二	現代青年の宗教心	一	藤岡東圃追憶錄	一
今昔較	二	峨山禪師言行錄	一	兼松濠洲翁	一
三山路雜起	一	近世先哲叢談	一	鈴水遺稿	一
隅田川叢記 續	一	無難禪師法語	一	家庭學校	一
渡邊崋山	一	正宗國師免專使稿	一	如是觀偈	一
澤島傳	一	際蘭漢譯師注心經	一	熊澤先生事蹟考	一
平野國臣傳記及遺稿	一	拈古題辭	一	蕃山先生略傳	一
明治天皇御傳	一	粉川寺雜起	一	熊澤伯繼列傳	一
藤陰舍遺稿	一	設道歌評話	一	蕃山先生年譜	一
那珂通世遺書	一	日本名人傳	一	蕃山考	一
明治大帝畫譜御逸事集	一	古今人物誌	一	津田永忠君年譜	一
玉の御聲	一	蕪福岡藩黒田一菴老	一	先師澹齋長沼君行狀	一
皇朝御紀 古神道大義	一	竹本彌津大緣	一	藤樹先生年譜	一
眞澄鏡井上通女	一	山陽評傳	一	朱舜水	一
名婦傳	一	白石先生年譜	一	萬字棟建設概要	一
柴野栗山之書簡	一	山陽外傳	一	配所殘筆	一
跡見花談先生傳花の下みち	一	仙臺藩參政三好清房	一	生死透脫禪ト武士道	一
樽尾明惠上人傳記	一	吉岡良太夫小傳	一	靜齋遺稿	一
偉人野中兼山	一	醫院座神高倍神考	一	淚滴餘韻	一
先哲百家傳	一	清國西太后	一	西國立志編	一

卯辰山開拓録	一	白蟻叢書	一	近三十六家集略傳	二
朝鮮教育論	一	列仙傳	一	武家華族名譽傳 初篇	二
金栴和歌集	一	宇治川兩岸一覽	一	久光公記	二
源實朝七百年祭協賛記念	一	淀川兩岸一覽	一	武市半兵太傳	二
野村翠東尼	一	羽陽叢書	一	和漢研事	二
日本烈女傳	一	細川靈感公	一	風流志道軒傳	二
敬神崇祖憲政自治大精神	一	故田崎東略傳	一	治國之實 川村瑞軒記	二
義公叢書	一	溫知堂雜著	一	教祖井上正鐵大人實傳 下	二
烈婦の面影	一	稻川遺芳	一	河野三郎 人名傳	二
清少納言と紫式部	一	櫻堂遺稿	一	近世正義 人名傳	二
春日局	一	尾張敬公	一	三小言	二
井上通女全集	一	順聖公事蹟	一	旅の巻	二
山鹿誌	一	日新館童子訓	一	品川子爵追悼錄	二
兼六公園記	一	其中堂發賣書目	一	太田道灌	二
尾山神社昇格慶賀會記事	一	島津日新公	一	帝國青年の歌	二
舊藩祖三百年祭記事	一	樂翁ト須多因	一	贈位先賢小傳	二
金城勝覽圖記	一	神ノ訓	一	明治天皇御百首	二
鹿島記	一	妙好人傳 初篇	一	奇蹟 集古隨筆	二
金澤城ノ沿革並舊藩同藩ノ兵制防備及藩	一	妙好人傳 四篇	一	余の入道したる次第	二
政概要	一	續妙好人傳	一	三年間の經過	二
加賀山代温泉誌	一	妙好人傳 三篇下	一	ほんや	二
加賀山中温泉餘書	一	海舟年譜	一	調島 蒼海閑話	二
眞木和泉守遺文	一	海舟遺稿	一	玉山 兩先生略傳	二
東湖全集	一	誠拙禪師歌集	一	名將言行錄	二
				偉人日記	二
				明治天皇御製講解	二

紅團詠草	國民講演 第二編	古書籍目録	高瀬神社誌	社會的國民教育	學校教育	國民高等學校ト農民文明	靜修書目答問	空也上人繪詞傳	善導大師行狀記	群書一覽	圓光大師御傳記	武勇雜談集	皇朝二十四孝	今體名家文抄拾遺 一、二、三、四、五、	老人物語	寓 簡	今體名家小傳	英國教員諸協會閱見書類	新著聞集	明治孝節錄	文明餘響	元勳談	南洲月照投海譚
近世豪傑譚	御大典拜觀所感	明治豪傑譚	維新風雲錄	竹田と岸山	維新物語	繪本楠公記	檜根草	老土語錄	西行撰集抄	近世佳人傳	名節錄	忠孝人龍傳	玉露童女行狀	梅能由無情ものがたり	女郎花五色石臺	逆巻浪夢の夜嵐	はちす花	追憶錄	實録 やまとこゝろ	山内一豊夫人若宮氏傳	おろつこ文典	射術提要	
先正傳	筑前志士傳	日子山義僧傳	象山翁事蹟	高山正之傳	忠節錄	櫻田烈士傳	祐天大僧正御傳記	時 鑿	高山の平	殉難士傳	風雲際會繪傳	春日潛菴傳	仰景志	關邪小言	下野烈士傳	眞宗教理と政教大本	日本弘道會四十年誌	デモクラシー私議	圖書館書籍標準目録	英、獨、佛、米中等學校學課々程概要	主食改善	關口開先生小傳	小學校教員俸給ニ關スル報告
一	一	一	一	一	一	一	一〇	六	六	六	三	五	一	一	一	一	二	二	一	一	一	一	一

國家思想ニ基キタル公民的教授	教育と活動寫眞	八大詔勅ト小學教育	偉人史叢 欠本	偉人史叢臨時發刊	坂本龍馬	坂本龍馬	竹内式部君事蹟考	筑前良民傳	八幡孝女傳	尾三善行錄	若州良民傳	澗口健齋公	坂本龍馬	坂本龍馬略傳	頼山陽ト其母	血ト涙ノ人	世々のあと	バルカン旅行談附錄	バルカン旅行談	小樽ノ古代文學	神聖遺訓研究ノ急務	經濟立國主義	大日本國民ノ魂
心霊ノ説明	川端玉章	頼山陽	常盤物語	烈公行實	蒲生君平翁傳	腹式呼吸ノ話	姉小路公知傳	和算ノ方陣問題	日本社會學院年報	山陽 言行錄合卷	春日局	三婦女善行錄	山縣大貳	駿州八助行狀聞書	駿州義夫八助紀事	懿民小傳國字解	河間村孝子要吉傳	戰時記念事業ト自治經營	劍法至極詳傳	鐵及鋼ノ研究	鍛刀之業	兵營ノ回顧	我建國ノ根本精神ト戰時ノ歐米列強
自覺ニ於ケル直觀ト反省	志士沖貞介	石川縣育成院諸規則	佐久間象山	象山先生實錄	藤田東湖傳	楠公夫人傳	橋本左内	佐久間象山	自治ト民權	人鷹考	名家香山記	千坂高雅事蹟之大略 前編	山城國久世郡宇治檣島 (行狀記)	塙檢校傳	鳩巢小説	野口幽谷小傳	子守教場要覽	時代ノ宗教	桃源遺事附錄	西山偉績	支那教育狀況一斑	劍道教範	歴史ノ教授
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

秀郷事實考	一	東巡錄	二
退食問話	一	鳳歸日乘	一
義人遺事	一	みくるまのあと	一
閑聖漫錄	一	柿本人麿歌集	一
大石内蔵之介十八ヶ條御吟味之事	一	御垣ノ下草	一〇
多門赤穂筆記 堀川氏ノ日記	一	三女歌集	一
義士夜討高名咄	一	鶴乃毛衣	一
義士四十七人裝束之事	一	高嶺乃由紀	一
山東京傳	一	梶園紀行文草	一
皇朝名臣傳贊 一、五	二	幽齋公歌集	一
許々路過阿登	一	道歌集	一〇
贈正一位鳥津齊彬公記	一	通道歌集	一
關山 太祖略傳	一	吉備孝子傳	一
佐藤庄司家傳	一	阿津免草	一
十符通管馬	一	隨筆紀程	一
湯あみの日記	一	東蝦夷夜話	一
野中兼山先生傳	一	美登毛能數	一
等象齋介石上人略傳	一	繪本楠公記	一
象堂遺芳	一	夢想兵衛胡蝶物語	一
萬飾北齋傳	一	信長公記	一
龍和亭小傳	一	大谷家づゝし	一
しのぶ草	一	白藤源太談	一
開卷百笑	一	江戸紫徳川源氏	一
近世越佐人物傳	一	日聞雜談	一
字音かな遣ひ	一		
文覺上人昔々物語	一		
陸路廻記	一		
筑紫紀行	一		
關の秋風	一		
大正中等修身	一		
國民道德教科書	一		
唐土名妓傳	一		
荏戸太華翁	一		
淨土十祖畫像略傳	一		
古事談	一		
門跡傳	一		
濃北寶曆義民錄	一		
佐倉 義民傳	一		
西岡孝子行狀聞書	一		
佛教概論	一		
櫻老年譜	一		
實行傳	一		
北蝦夷圖説	一		
皇國武術英名錄	一		
平太郎事蹟談	一		
護法賢聖傳	一		
續本朝往生傳	一		
大日本大聖傳	一		

安積長齋詳傳	一	川柳名句撰	一
過海大師東征傳	一	入船狂歌集	一
上人 勤王護法錄	一〇	開家内喜多留	一
繪本楠公記	一	書名不詳(水滸傳會)	一
德行談	一	九想詩繪抄	一
想軒漫筆	一	史傳部類	一
眼橋新話	一	公慶上人年譜	一
治政概要	一	文章叢話	一
宇治拾遺物語	一五	近世孝子傳	一
相撲ト芝居	一	續諸家人物誌	一
一盃奇言	一	しのぶ草	一
新編柳傳	一	桂の落葉	一
滑稽二日酔	一	二女和歌集	一
萬紫千紅	一	夢物語	一
新編柳傳	一	こゝろの力	一
松歌居士追福會	一	合戦 見聞奇談初篇、三篇	一
福壽草	一	幽亭馬琴	一
柳傳繪草紙	一	思索ト體験	一
千紅萬紫	一	小學科ニ化學教材ノ研究並實驗法	一
一枝笠	一	楠木正成公	一
柳風力くらへ	一	恩師乃木院長	一
川柳類纂	一	東條琴臺	一
川柳五百題	一	聖武天皇論	一
狂句の栞	一	由比正雪	一
福翁自傳	一		
海舟 永川清話	一		
河村瑞賢	一		
神祕主義ト現代生活	一		
新宗教論	一		
眞理之本源	一		
鐵窓ノ廿三年	一		
水戸義公	一		
時代ト教育	一		
兒王大將傳	一		
大鹽平八郎傳	一		
河竹默阿彌	一		
靈泉集	一		
明惠上人語錄	一		
大僧正慈隆	一		
懷良親王	一		
東西兩奇士	一		
イートン學校及ビ其校風	一		
北村季吟傳	一		
加茂眞淵ト木居宣長	一		
蓮月歌集	一		
廣島高等師範學校一覽	一		
承陽大師御略傳及御和讃	一		
解頤錄	一		

屠蘇危言
 秋田鐵山專門學校要覽
 信仰之餘瀝
 恩師乃木院長
 嗚呼乃木將軍
 佐倉 木内惣五郎實錄
 義農作兵衛
 福山乃今昔
 青山御所ノ陛下
 市川左團次
 泊翁西村先生
 蒲生氏郷
 久光公記
 滿英 教育勅語譯纂
 乃木會談演集
 日本偉人言行資料
 藤原源作翁
 西川正義
 福澤先生ト小川武平翁
 藍香翁
 佛道手引草
 近松門左衛門
 分國教授原義
 善行錄

二四三

中村正直傳
 賴香坪先生傳
 橋中佐
 泥舟遺稿
 御祭草紙
 遠城謙道傳
 偉人黒住宗忠
 承陽大師御傳記
 西條 佐久間大尉
 足利尊氏
 井伊大老實傳
 第末之 江川坦庵
 偉人 江川坦庵
 東北帝國大學理學科大學要覽
 教育統計摘要
 太田灌灌ト江戸城
 長曾我部元親
 古集辭世集
 大給龜崖公傳
 二宮翁傳
 黒住宗忠
 備俠龜井南冥
 大聖二宮尊徳
 鐵牛
 伊豫善行錄

有栖川宮
 巨人荒尾精
 南島偉功傳
 横尾東作翁傳
 畫聖雪舟
 尋常小學國語讀本編纂趣意書
 尋常小學修身書卷一、卷二編纂趣意書
 尋常小學算術書、第一、第二學年教師用修
 正趣意書
 學校衛生參考資料 第二輯
 尋常小學讀本修正趣意書
 尋常小學讀本修正趣意書
 尋常小學地理書修正趣意書
 尋常小學理科書修正趣意書
 佐竹義宣公
 夏期休暇中ノ體育的施設ニ關スル意見
 大禮ノ要旨
 小栗栖香頂略傳
 柳北全集
 淺野長政公傳
 校註明倫歌集
 丸山教祖一代記略 上
 勤儉貯蓄ニ關スル資料
 大正四年高等學校大學校轉入報告
 附試驗報告
 嶺山全集

二

岩崎彌太郎
 通 吉備公傳
 北條時宗
 大關肥後守增裕公略記
 白隱禪師傳
 西行法師傳
 轉地療養餘事
 學制改革論
 大學制度ノ根本問題ニ關スル獨逸語學
 ヲヨシスル氏意見一編
 大學教育法改善案
 府立大阪醫科大學成立ノ由來
 大學管見
 夏期講話
 山鹿素行
 黒田如水
 偉人幽齋
 加藤清正公傳
 清正公
 宗教要覽
 傳實世凱
 細川幽齋
 教育私見
 天文大觀
 敬神崇祖憲政自治大精神

鍋島圓叟公
 鯨海辭侯
 幕末三俊
 埋丸木
 能久親王事蹟
 堀田閣老傳
 武田信玄事蹟考
 源九郎義經
 蜂須賀義庵
 地下者ノ學制改革案
 伊達正宗
 護良親王御傳
 毛利元就
 大學制度ノ改正ト獨創的研究ノ獎勵
 水野越州
 學商福澤諭吉
 全國高等女學校ニ關スル諸調査
 日本、英國及世界
 歐洲戰下列強ノ青年
 早稻田大學理工科問題ノ真相
 肅親王
 教育調査會經過概要
 女子教育研究調查報告集 第一輯
 學制問題ニ關スル議事經過

臨時教育會議要覽
 臨時教育會議(總會)速記録
 大學令案ニ就キテ
 全國育英事業施設概要
 全國公立私立中學校ニ關スル諸調査
 偉人史叢 第二、三、六、七、九、十九卷
 井伊掃部頭始末
 圖書館書籍標準目錄(大正六年)
 山鹿素行先生
 在外邦人ノ教育ニ關スル調査
 上宮太子實錄
 河井繼之助傳
 元田先生進講錄
 獨逸國民ニ告グ
 列強ノ少年義勇團
 歐米大學ノ觀察
 家康ト直弼
 井伊大老ト開港
 前將軍トシテノ慶喜勳
 學校ト戰爭
 高松凌雲翁經歷談
 西川吉輔

一九

追遠錄	---	義所島山先生傳	---	恩輝軒主人小傳	---
圖書館教育	---	伊藤公實錄	---	懷舊紀事	---
伏見義民錄	---	孝子伊藤公	---	阿部正弘事蹟	---
井戸明府	---	印度雜事	---	於杼呂我中島井動醫傳	---
幕末 齋藤彌九郎傳	---	北米合衆國及加奈陀ニ於ケル醫學教育	---	佛教哲理	---
劍聖宮木武藏	---	鍋島閑叟	---	帝國憲法述義	---
宮木武藏	---	小笠ノ光	---	蓮如上人	---
天保義民錄	---	増補故事熟語辭典	---	土方伯	---
九十九集	---	榮西禪師	---	朗虛全集	---
文語 對照語法	---	源頼朝	---	化學工業博覽會報告	---
口語 對照語法	---	山中幸盛	---	乃木院長紀念錄	---
花柳病講話	---	日蓮上人	---	西山田方谷	---
大鹽平八郎	---	宗良親王	---	瑞草 鹽 尻	---
歌ものかたり	---	小學校ニ實業的陶冶ノ實際	---	稽徳篇	---
實説日蓮一代記	---	薩摩義士錄	---	廣瀬中佐詳傳	---
大遣訓	---	空 海	---	新主義數學	---
森先生傳	---	高木三郎翁小傳	---	素行子山鹿甚五左衛門	---
大原蘭學	---	兒島高德	---	五山詩僧傳	---
石田三成	---	傳教大師	---	公府桂太郎傳	---
直江山城守	---	法然上人	---	國家ノ研究	---
土生支碩先生	---	愚禿親覺	---	名將言行錄	---
關老安藤對馬守	---	水戸烈士傳	---	群書類從	---
政治家トシテノ桂公	---	日本帝國文部省 第四十三年報	---	徳川慶喜公傳	---
嘉悦氏房先生傳	---	帝國學士院第一部論文集	---	阿波名所圖繪	---
萩原之樂先生略傳	---				

大和名所圖繪	七	Gr. Vay Peter—Fiele, Japan Gyutieny (?)	1	Whitakers Almanack	1
攝津名所圖繪	一一	English—French Division	1	Faith in Man	1
松陰先生遺著 二三篇	一一	Women as Barmaids	1	University of Aberdeen	1
橋本左内全集	一	Life of Gladstone	4	Cricket	1
軍人勲論及戊申詔書英譯	一	Hamburg's Twentieth Century Geography Readers	1	Bridge	1
續古神道大義	一一	The Vision of Unity	1	Thomas Carlyle	1
西洋哲理 上	一	Public Schools Winter Sport Club Year Book	1	Famous Men	1
家庭ノ頼山陽	一	Plan d'études	1	Student's Life and Work	1
東行先生遺文	一	Tu seras citoyen	1	Golf	1
吉田松陰	一	Standard Puzzle Book	1	Manchester	1
國學者傳記集成	一	Children's Care Committee	1	Godalming and its Surroundings	1
佐々木老侯昔日談	一	Representative Men	1	Nelson's (?)	1
續高僧實傳 上	一	The Spirit of Christ's Teaching	1	East Indies	1
大日本人名辭書	一	Shorter Catechism	1	Anglo-Saxon Superiority	1
佐倉惣五郎	一	Rugby Football	1	Calendar	1
再花洛名勝圖繪	八	Prisoner Aid Department	1	Guide to the Pergamon Museum	1
播州名所巡覽圖繪	五	Bye-Laws	1	Short Stories and Anecdotes	1
近江名所圖會	四	Mittelhungen	1	The Use of the National Forests	1
都名所圖繪	六	L'Université de Paris	1	Work while ye have the Light	1
先哲叢談	五	Sketches of Ceylon History	1	Tolstoy on Life	1
清河八郎	一	Riverside Literature Series	2	Popular Stories and Legends	2
Carpenter's Geographical Reader	1			Manners for Men	1
St. Paul's School	1			Atlas and Guide to London	1
				The Comedies of Shakespeare	1

Scouting for Boys	1	In-door Games for Winter Evenings	1	Annual Report of the One Hundred and Twelfth Session	1
Seiyo Rekishu Banashi	1	King's College, Aberdeen	1	Seventeenth Annual Report	1
The Zen Sect of Buddhism	1	Our Relief Works and Charitable Enterprises	1	The Correct Guide to Letter Writing	1
Speech of H. S. Signor Antonio Salandra	1	The History of Relief Works in Japan	1	French Conversation Grammar	1
The Rural Life of Japan	1	Report of the Commission on Industrial and Technical Education	1	City of Manchester	1
The Text-Book on Morals	1	Report of the Board of Education	1	The Histories of Shakespeare	1
An Address on Morals as Taught in Japanese Schools	1	The Tohoku Mathematical Journal	1	Public Schools Book	1
Alleged German Outrages	1	Papers on Moral Education	1	An English Vocabulary	1
The Navy and the War	1	Moral Instruction in Elementary Schools	1	Pinkie and the Fairies	1
Poland for the Poles	1	Record of the Proceedings	1	The Edinburgh University Calendar	1
After a Year	1	The New Book of Etiquette	1	University of Illinois	4
German Atrocities in France	1	A Dead Man's Diary	1	German Conversation Grammar	1
The True Pastime	1	The Revival in Manchuria	1	Official Register of Harvard University	1
Germany's Methods of Naval Warfare	1	The Ohio State University (catalog)	1	The New York Public School	1
Thrift Manual	1	Paris	1	The Land o' Cakes and Scots Briller	1
Geographical Cleanings	1	A Detective's Reminiscences	1	The Story of the University of Edinburgh	1
The British Share in the War	1	Daily Mail Year Book	1	Hand-Book of Christian Ethics	1
Submarines and Zeppelins in Warfare and Outrage	1	The Reformer's Year Book	1	City Superintendent of Schools	1
German Universities	1	Board of Education of the District of Columbia	1	Resurrection	1
Causes of Truancy	1			The Year's Work in Classical Studies	1
				Outlines of Pedagogics	1

The Place of Industries in Elementary Education	1	Oxford Essays	1	Short Half	1
Report on Moral Instruction	1	High School Manual	1	Essays and Tales	1
Moral Instruction Series	2	Königin Luise	1	Notes on the Cathedrals	1
The History of Twelve Days	1	The Ethics of Nature	1	Murray's Hand-Book of Travel Folk	1
London Education	1	States-Man's Year-Book	1	Kelly and Walsh's (?)	1
Westminster Abbey, its Story and Associations	1	High School Dictionary	1	Bursting the Bonds	1
History of the Eastern Church	1	Hyakunin Issyu	1	Thirteenth Annual Report	1
Suggestion in Education	1	General Nogi	1	Bradshaw's (?)	1
Nature Teaching	1	A Book of Golden Deeds	1	The Eton Calendar	1
Moral Instruction and Training in Schools	2	Harrow and Harrow School	1	Thirty-seventh Annual Report	1
The Children's Book of Moral Lessons	4	The Work of Children's Care Committees	1	Education in Japan	1
Round the Fire Stories	1	Heyrod Street Lad's Club	1	Sir William Wallace	1
The School and Society	1	Religion and Morality	1	Scottish Life and Character	1
Christianity and the Progress of Man	1	Wise Sayings and Beautiful Thoughts	1	The Moral Instruction of Children	1
America to Japan	1	Shorter Catechism	1	Administration of Public Education in the United States	1
The Student's Hand-Book to Cambridge	1	English and Malay Vocabulary	1	Stanley's Memorials of Canterbury	1
University Administration	1	Hymns of the Kingdom	1	History of Education	1
Psychologie de L'Education	1	Calendar	1	The Aberdeen University Calendar	1
L'Education avant Montaigne	1	Secession	1	Supplementary English Dictionary	1
		The Salvation of Croesus	1	Janus Vesta	1
		Winchester College	1	Student's Hand-Book	1
		The Scottish Clans	1	Introduction to Ethics	1
				Liverpool Education Committee	1

The Glasgow and West of Scotland Technical College	1	The Annual Charities Register and Digest	1	Tricks	1
Oxford University Calendar, 1909	1	J'accuse	1	Compte rendu	1
Calendar for the Session 1908-9	1	Chambers's English Dictionary	1	Higher Education in the Administrative County of Middlesex	1
Dictionary of Phrase and Fable	1	Adolescence	2	Picture in Colour of Oxford	1
The Cambridge University Calendar	1	Cambridge	1	Biographical Dictionary of Eminent Scotsmen	3
Prentice's Manchester	1	The Stories of the University of Edinburgh	1	History of the Scottish Highlands	1
Cassell's French-English	1	The Victoria University of Manchester	1	Report on the Federated Malaya States	1
The School and Society	1	Worthies of the World	1	Church of England Schools	1
The American Commonwealth	2	Diplomatic Documents—European War	1	Education (Religious Instruction in Council Schools)	1
A Short History of National Education	1	An Artist's Reminiscences	1	The Philippine Review	1
A History of Winchester College	1	With the Compliments of the Author	1	Versailles	1
Das pädagogische Seminar	1	K. Honda [?]	13	St. Michel	1
Record of the Proceedings [?]	1	Horace Man Schools	1	Book and Papers on Religious Instruction Schools	1
Paper on Moral Education	2	Live Souvenir	1	Search Light	1
Educational Commission to U. S. A.	1	The Imperial Japanese Mission to the United States, 1917	1	Catalogue of European Books in the Tohoku Imperial University Library	1
The Demonstration School's Record	1	海舟日記	1	Edinburgh Merchant Company	1
Theory and Practice of Teaching Art	1	小兒試視力用畫本	1		
Annual Register of the University of Chicago	1	風俗習慣ト隨神ノ實修	1		
British Malaya	1	西郷隆盛傳	1		
History of Education in the United States	1				

A Dictionary of Arts, Sciences and General Literature	25	日光山志	5	住吉名所圖繪	5
The European Conversation Book	1	木曾路名所圖繪	7	嚴島繪馬鑿	5
朝鮮總督府中央試驗所報告第三回	1	淡路名所圖繪	5	和山海名物圖繪	5
伊香保志	3	備中國名勝圖繪	2	西國三十三ヶ所名所圖繪	1
常山紀談拾遺	二五	關嚴島圖繪	1	尾張名所圖繪	7
善光寺道名所圖繪	五	美濃寄觀	2	紀伊國名所圖繪	三
常山紀談	五	二十四堂願拜圖繪	1	山海名畫圖繪	五
武藏野話	三	河内名勝圖繪	六	甘雨亭叢書	五六
		鹿島名所圖繪	二	新編水滸畫傳	九〇

五、前田侯爵家へ寄贈ノ分

御能番組 寫本	六	寶生流改訂雛子謠本	二	同上無表紙	一四
無外題	一	附屬本挟ミ一箇	一	遺形書 <small>以下狂言ニ關スル巻</small>	一四
無外題	一	萬野流大鼓手附	一	狂言裝束附間裝束附風流附	五
謠曲秘傳書	一	謠曲小鼓の栞	三	加茂ノ御田	一
無外題	二	寶生流小謠集大成	一	鏡御裳灌御田	一
無外題	一	正 行	一	大社神子神主	一
くせまひ拔書	一	兼六園	一	和布刈鱒揃	一
當流謠指南抄	一	謠曲歌占註釋	一	白樂天鶯娃	一
謠曲手引八拍子	三	謠曲摺上	一	江の島道者	一
寶生流謠曲	四二	寶生流謠曲一番寶本表紙附	一〇	江の島道者長方	一

白髯道者	嵐山猿聲	八島那須與市	朝長儀法	夜討會我大藤内	芭蕉應答	半部立花	船辨慶船唄	春日龍神町積	觀世流道成寺間	觀世流翠月間	石橋間	兩番履	諸流間古書	間囃子會集	狂言囃子會集	一増流狂言會集唱哥	
風流	寶生流脇セリフ	狂言并間作物入用書	弄乃梅	裝束附小舞語	無外題	泣あま比丘定枕もの狂共	きろくだ	初日三番受	千歳三番三	蘇羅う傳變詞	こんくわるア	座禪	座禪太郎冠者詞	座禪女之詞	小舞	替間	狂言調頭附
喜多流道成寺白波渡之船唄	間狂言形附	遠キ間裝束附	半部立花供養	間(嶋能三番目難能之部)	間(難之部)	喜多流道成寺間	諸流道成寺間履	鬼争	笑祖父昆布々施唐樂共	花葉集(一名間裝束附)	難誌能樂	家笛集	諸流名寄	諸拍子附	假面譜	太鼓頭附	太鼓頭附譜目錄

六、宮城縣立圖書館へ寄贈ノ分(冊數ナシ)

新時代の教育

綴方教授法精義

學校教育の倫理的・心理的基礎及其實際

現代教育主義の弊及其救済法
 歐米最近の學校教育と理科教授
通俗講話 火及火災
 國民物理學

大禮記念通俗講演集
 佐藤信淵ノ農政學說
 初等幾何學及同講義第一卷
 宇宙之進化

化學的食養の調和
 小兒期ニ於ケル主要ナル皮膚病
 炎瘡錄
 獨逸國土地抵當銀行視察報告書

七、日本棋院へ寄贈ノ分

圍棋神髓	坐隱談叢	爛柯堂碁話	打碁と要領	圍碁布陣戰術秘鑑	布石攻合置碁必勝法	舊幕府御秘藏碁戰	圍碁互先布石攻合法	創定大斜定石法	互先二子配陣と攻合	圍碁大斜百變	布陣挑戰法	打碁妙手	圍碁の定石	方圓精華
圍碁妙選	碁道教本	置碁石立圖解	布石精要	定石通解	碁立指南大成	碁立四角大成	圍碁日開誌	碁傳記	信敬公御筆碁經	發陽論	日蓮聖人十厄勢碁譜	棋譜支覺	坐隱默語	方圓軌範
玄々例星	安田秀策寫本棋譜	校訂玄々碁經	玄々碁經俚諺鈔	圍碁自在	收枰精思	國技觀光	古今案秤	圍碁妙傳	弈圖	弈筌	竹破間寄	弈範	弈範附錄	新撰碁經大全

六、宮城縣立圖書館寄贈

七、日本棋院寄贈

古今當流新碁經	二	佳致精局	四	碁立道悅密傳書	一
碁立初心抄	二	對手百談	四	明治定石寫本	一
新碁立手引草	三	方圓新法	二	周伯打碁	一
碁秘訣	一	秀榮全集	二	爭六番碁經	一
碁經龜鑑	四	碁要訣	一	定石並作物	一
碁妙石集	二	碁學初歩	一	古碁樞機	四
名世碁鑑	四	碁自在	〇	古代碁經	二
對勢碁鏡	四	石配自在	一	鳥鷲爭飛集	二
秀策口訣碁譜	二	碁碁諦	三	碁立四十番	一
碁 醇	二	碁碁必勝	一	碁立四十番	一
敵王餘韻	四	碁實戰詳解	一	局 機	一
溫故知新碁錄	二	碁實戰詳解	一	碁經妙手	三
碁終解錄	一	碁實戰詳解	一	新撰碁經錦囊	三
西征手談	二	碁經精妙	四	碁經捲徑	二
同	一	碁經家妙	四	碁經妙手	三
手談五十圖	一	當流續撰碁經	三	新撰碁經錦囊	三
名世碁鑑	一	當流碁經類聚	三	碁經捲徑	二
活碁新評	二	碁經拾遺	一	碁經妙手	三
碁經連珠	四	鳥鷲杖紀	一	一手千盤	一
碁經選粹	四	碁の礎	一	碁奇手錄	一
碁經玉田澗	四	新案定石	一	當流碁經大全	一
古今碁經拔萃	四	碁虎の巻	一	碁新法	二
河洛餘數	四	碁立綱籙	一	碁獨稽古	三
		同	二	碁獨習案內	三
				新撰碁新法	三
				寫 碁	一
				一週間速進法	一
				訂讀撮要	一

三目碁教	一	草薙之卷	一	碁名鑑	二
寫本本因坊因徹打碁	一	同	一	活碁新編	二
碁三世石立法	四	碁獨まなび	一	碁と將棋	二
碁必勝石立集	一	定石新法	一	定石活論	一
明治碁形俗解石立集	一	素人棋鑑	二	手段之秘訣	一
碁獨習定石解	一	碁盤の上から	一	發陽論	一
相先石立俗解集	一	定石くづし方	一	碁襲撃戦法	一
大日本碁解釋	一	碁必勝此の一手	一	實戰應用活きた定石	二
碁支妙落穂集	一	新案碁通解	一	碁奇策妙手	一
碁必勝石立集	一	侵方と劫	一	互先起石詳解	一
碁の道しるべ	一	布石要訣	二	碁實力養成法	一
碁定石稽古本	一	碁上達法	一	互先定石虎の巻	一
碁初學全書	一	上手泣かせ	一	龍の巻	一
碁初學全書	一	侵方之勘定	一	碁大鑑	二
少壯碁客決戰錄	一	碁石之軌範	二	碁定石	一
妙々奇觀	一	互先石立軌範	一	布石通論	一
碁觀戰錄	一	手筋解説	一	碁新法	一
碁秘訣戰爭要義	一	手ぬきの巻	一	碁全集	一
現今名家碁戰	一	死活妙機	一	碁定石講話	一
碁手ほどき	二	泰策集	二	碁中の定石	一
碁手筋	一	碁段級人名錄	一	碁中の定石	一
碁立石	二	日本全國碁段級人名錄	一	碁死活研究	一
碁石立	五	石川縣碁位撰	一	碁の死活と定石の活用	一
碁の栞	一	廣島縣下碁大會番附	一枚	碁妙手鏡	一
新式碁秘傳	一				

圍碁之口傳	一	懷寶圍碁秘算集	一
布石通解	三	近年名棋集	一
圍碁奇手と定石	一	圍碁定石	一
互先石立圖解	一	速成圍碁講義錄	一
圍碁初心指南	一	坐隱傳書	一
碁道	一		
圍碁獨案内	一		
圍碁精要	二		
圍碁獨稽古	一		
圍碁秘要	一		
開發圍碁新法	五		
新式圍碁寶典	六		
圍碁速成	三		
圍碁速成指南	二		
活碁新論	二		
開發的圍碁錦囊	二		
新撰圍碁指南	一		
圍碁全書	二		
碁經家妙	二		
地の中に手あり	一		
はめ手千態	一		
置碁定石願列集	一		
古人の作物	一		
碁學圖說	一		
		圍碁秘傳集	一
		打碁速成	一
		圍碁新書	一
		圍碁名鑑	一
		圍碁哲學	一
		圍碁活法	一
		烏鷺の陣立	一
		碁鑑	一
		碁仙發秘集	一
		當流定石	一
		碁立三十六手	一
		二十番碁	一
		當流石立碁經	一
		寶曆寫碁	一
		定石並稽古碁	一
		定式	一
		圍碁指南抄並作物十九番記	一
		名人上手打碁集	一
		打碁	一
		圍碁新報	一
		圍碁堂棋話	一
		手段鏡	一
		黑白變妙語	一
		弈碁集覽	一

第六部 廓堂先生年譜

安政五年(一歲) 三月二十三日金澤に生る

明治六年(十六歲) 一月金澤英學校に入學し三年間英學數學を修む

明治八年(十八歲) 十月二十四日英學校助教備申付らる

明治九年(十九歲) 二月金澤啓明學校に入學し漢學數學英學を修む

十八日啓明學校助教備申付らる

明治十年(二十歲) 二月五日啓明學校公學員申付られ一ヶ月二圓の貸費を受く

明治十一年(廿一歲) 五月東京留學生申付られ一ヶ年間數學英學を修む

明治十二年(廿二歲) 九月東京大學三學部豫備門に入學す

明治十四年(廿四歲) 九月東京大學理學部に入學し數學科を專修す

明治十六年(廿六歲) 四月二十一日日本學年中藥賞給費金七圓を附與せらる

九月十一日日本學年中藥賞給費金を附與せらる

明治十八年(廿八歲) 七月東京大學理學部數學科を卒業す

十一日石川縣專門學校二等教諭に任じ月俸七拾圓給與せらる

十月三十一日理學士の稱號を受く

明治十九年(廿九歲) 十一月十四日近藤まさき嬢と結婚す

明治二十年(三十歲) 二月十日石川縣專門學校教諭に任じ月俸七拾圓を賜ふ

八月四日金澤工業學校理學教授を依囑せらる

二十七日第四高等中學校教務を囑託せらる

九月三十日同生徒入學試驗委員を囑託せらる

十二月廿四日囑託慰勞として金拾五圓給與せらる

明治廿一年(卅一歲) 二月廿一日當分石川縣專門學校長心得兼務を命ぜらる

廿九日第四高等中學校生徒入學試驗委員を囑託せらる

三月卅一日石川縣專門學校廢せらる

四月一日第四高等中學校より月手當金七拾圓給與せらる

廿一日第四高等中學校教諭に任じ奏任官五等に叙せらる

廿三日上級俸下賜

五月十六日第四高等中學校商議委員を命ぜらる

十八日教務諮問會員を命ぜらる

廿四日第三回入學試驗委員を命ぜらる

七月十三日長女茂嬢生る

九月十四日依願本官を免ぜらる

十八日第一高等中學校物理及び數學授業を囑託せられ報酬月額四拾圓を受く
 十月十一日大學院に入學を許さる
 明治廿三年(卅三歲) 九月三日報酬月額八拾圓を受く
 明治廿四年(卅四歲) 四月卅日第一高等中學校教諭に任じ俸給官四等に叙せらる年俸金九百六拾圓下賜
 八月十六日七級俸下賜
 九月十五日明治廿四年尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員學力試驗委員を命ぜらる
 十二月廿一日從七位に叙せらる
 明治廿五年(卅五歲) 十一月廿日高等官官等俸給令實施に依り高等官七等に叙せらる
 十二月十九日明治廿六年尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員學力試驗委員を命ぜらる
 廿七日六級俸下賜但當分年俸金九百六拾圓を支給せらる
 明治廿六年(卅六歲) 三月二日長男敬太郎君生る
 九月十一日六級俸下賜
 明治廿七年(卅七歲) 三月十日第七回尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員學力試驗委員を命ぜらる
 八月廿日山口高等中學校教授に任じ高等官六等に叙せられ四級俸下賜
 十月廿日正七位に叙せらる
 明治廿九年(卅九歲) 一月十日二女絲嬢生る
 四月廿九日山口高等中學校長心得を命ぜらる

六月八日山口高等中學校長に任じ高等官六等に叙せらる
 七月七日出京を命ぜらる
 八月十三日山口高等中學校教授を兼任し高等官六等に叙せらる
 十二月三日本年十月廿日山口高等中學校及山口縣尋常中學校合同修學旅行の途次發火演習を行ひ尋常中學校生徒中一名の負傷者を出したるは監督不行届の致す所職務上不都合に付譴責せらる
 明治三十年(四十歲) 二月四日高等官五等に陞叙せらる
 五日出京を命ぜらる
 四月廿七日俸給令改正に依り三級俸下賜
 卅日從六位に叙せらる
 明治卅一年(四十一歲) 二月四日第四高等中學校長に任じ高等官五等に叙せらる三級俸下賜
 十八日山口高等中學校長在職中教授兼任職務格別勳勵に付爲其賞金五拾圓下賜
 五月七日歸任の途次京都並に神戸へ出張を命ぜらる
 廿四日山口高等中學校長在職中防長私立五學校總長擔任の謝儀として防長教育會より贈與の銀盃及金員受領の件を許可せらる
 六月廿五日二級俸下賜
 七月廿日出京を命ぜらる
 九月二日二男恭次郎君生る
 明治卅二年(四十二歲) 三月一日福井縣岐阜縣へ出張を命ぜらる
 十一月一日高等官四等に陞叙せらる
 四月五日俸給令改正三級俸下賜
 五月廿日正六位に叙せらる

新潟長野富山三縣下各中學校へ出張を命ぜらる
 八月十五日出京を命ぜらる
 十六日第四高等中學校教授を兼任し高等官四等に叙せらる
 明治卅四年(四十四歲) 三月廿六日高等官三等に陞叙せらる
 五月十日歸任の途次京都へ出張を命ぜらる
 六月六日師範學校中學校高等女學校教員夏期講習會講師を囑託せらる
 廿六日富山縣へ出張を命ぜらる
 七月十日從五位に叙せらる
 十月五日二級俸下賜
 明治卅五年(四十五歲) 五月十二日廣島高等師範學校長に任じ高等官三等に叙せられ二級俸下賜
 六月六日京都府及廣島縣へ出張を命ぜらる
 卅日勳六等に叙し瑞寶章を授けらる
 十月十三日出京を命ぜらる
 十二月十七日長崎山口福岡大分佐賀熊本の六縣へ出張を命ぜらる
 廿三日職務勳勵に付爲其賞金貳百五拾圓下賜
 明治卅六年(四十六歲) 一月廿三日出京を命ぜらる
 四月廿四日出京を命ぜらる
 五月十二日大分熊本宮崎鹿兒島四縣へ出張を命ぜらる
 七月廿二日大阪府奈良縣へ出張を命ぜらる
 八月一日出京を命ぜらる
 明治卅七年(四十七歲) 二月十九日出京を命ぜらる
 四月十八日高等官二等に陞叙せらる

三月十九日職務勳勵に付爲其賞金貳百圓下賜
 七月十一日正五位に叙せらる
 八月一日三女鐘子嬢生る
 十二月廿七日勳五等に叙し瑞寶章を授けらる
 明治卅八年(四十八歲) 十月十八日出京を命ぜらる
 十一月中央報徳會評議員を委嘱せらる
 明治卅九年(四十九歲) 三月十二日一級俸を賜ふ
 廿六日佐賀縣へ出張を命ぜらる
 五月廿三日出京を命ぜらる
 六月卅日勳四等に叙し瑞寶章を授けらる
 十月三十日四女幸子嬢生る
 十一月七日出京を命ぜらる
 明治四十年(五十歲) 一月二十五日母堂逝去せらる
 二月五日除服出仕を命ぜらる
 明治四十一年(五十一歲) 三月廿三日職務勳勵に付爲其賞金參百圓下賜
 六月廿日第一回萬國道徳教育會議參列のため英國へ差遣せらる
 明治四十二年(五十二歲) 九月廿日從四位に叙せらる
 十月四日熊本縣へ出張を命ぜらる
 明治四十三年(五十三歲) 一月廿日日本一月十三日付願墓參のため請假の件許可せらる
 四月一日高等官官等俸給令改正參千七百圓下賜
 六月廿四日勳三等に叙し瑞寶章を授けらる
 七月十一日御用有之清國へ差遣せらる

十月七日出京を命ぜらる
 明治四十四年(五十四歳) 三月二日出京を命ぜらる
 廿七日職務勉勵に付爲其賞金參百圓下賜
 四月三十日長女茂嶺丸山鶴吉氏に嫁す
 明治四十五年(五十五歳) 三月廿八日職務勉勵に付爲其賞金參百圓下賜
 七月卅日大正と改元
 大正二年(五十六歳) 三月廿九日職務勉勵に付爲其賞金參百圓下賜
 五月九日東北帝國大學總長に任じ高等官一等に叙し二級俸(五千圓)を賜ふ
 大正三年(五十七歳) 三月三十一日職務勉勵に付爲其賞金六百圓下賜
 十月廿日正四位に叙せらる
 大正四年(五十八歳) 三月卅一日職務勉勵に付爲其賞金六百圓下賜
 十一月十日大正四年勅令第五百四十四號の旨に依り大禮記念章を授與せらる
 大正五年(五十九歳) 二月廿六日二女絲嶺草鹿任一氏に嫁す
 三月卅一日職務勉勵に付爲其賞金七百圓下賜
 七月六日教育調査會會員仰付らる
 大正六年(六十歳) 三月卅日教育調査會會員の手當として金百五拾圓給與せらる
 職務勉勵に付爲其賞金八百圓下賜
 六月廿六日勳二等に叙し瑞寶章を授けらる
 八月廿五日學習院長に任ぜられ高等官一等に叙し一級俸を賜ふ

九月廿一日臨時教育會議員仰付らる
 十二月廿六日京都府下へ出張を命ぜらる
 大正七年(六十一歳) 一月廿九日靜岡縣下へ出張を命ぜらる
 大正八年(六十二歳) 四月廿五日學習院評議會會員仰付らる
 五月廿四日臨時教育會主査委員の職を奉じ盡力尠からざるに依り旭日重光章を授けらる
 十月卅日從三位に叙せらる
 大正九年(六十三歳) 一月二十五日生活改善同盟會顧問を委嘱せらる
 四月五日依願本官を免ぜらる
 宮山顧問官に任ぜらる
 特旨を以て正三位に叙せらる
 六月二日貴族院議員に勅撰せらる
 七月十二日皇民會評議員を委嘱せらる
 八月八日報德會講演のため石川縣へ出張し三十一日歸京す
 八月十三日宮内省恩給年額金千五百四拾貳圓下賜
 十月七日長野縣へ旅行講演をなし八日歸京す
 十月十七日再び長野縣へ旅行し各地に講演し廿五日歸京す
 十一月十五日富山縣へ旅行して講演し廿一日歸京す
 十二月三日講演のため愛知縣へ旅行し七日歸京す
 大正十年(六十四歳) 一月十六日千葉縣へ旅行講演をなし十九日歸京す
 四月八日長野縣へ旅行して講演をなし十三日歸京す
 廿三日長野縣へ旅行し廿四日歸京す

五月廿日仙臺へ旅行講演をなし廿二日歸京す
 六月四日前廣島高等師範學校御備英語教師スミス氏を伴ひ朝鮮を視察更に單身滿洲を視察し各處に講演をなし七月十四日歸京す
 八月廿日京阪へ旅行し廿五日歸京す
 九月九日急性肺炎に罹り疾篤し門人二木謙三吉本清太郎の兩博士心力を盡して之を治む
 十二日
 天皇皇后兩陛下より御見舞として御菓子賜はる
 十七日病間を得看護の親族始めて警戒を解き各家に歸る
 十月十八日食事の際褥を離れ茶の間に行くを得るに至る
 十二月十七日京都大阪を旅行し廿一日歸京す
 三十日修善寺温泉に行き靜養す
 大正十一年(六十五歳) 一月十九日歸京す
 四月七日京阪に旅行す
 廿八日仙臺に行き東北大學を觀る
 五月十三日新潟へ出張し十六日歸京す
 六月十七日富山縣へ旅行講演をなす
 七月十八日九州に行き到處講演し八月五日歸京す
 八月十九日講演のため長野縣へ旅行し廿三日歸京す
 十一月廿七日皇民會評議員を解かる
 廿八日皇民會理事を委嘱せらる
 十二月三十日親友鈴木馬左也氏の告別式に臨み歸りて腦溢血を發す
 大正十三年(六十七歳) 四月十二日三女鎮子嬢關口聰氏に嫁す

十五日同民會長を委嘱せらる
 大正十五年(六十九歳) 十月九日同民會長を辭す
 十五日四女幸子嬢豊島章太郎氏に嫁す
 十二月廿五日昭和と改元
 昭和四年(七十二歳) 一月廿五日疾を力めて先妣二十三回忌を本郷德源院に營む
 二月十二日肝臓癌の疑あり赤十字病院に入院す西郷院長診療に力め二木吉本兩博士治方に心を砕く
 四月三日先生の切なる希望により退院し自宅にて靜養す
 廿七日午後九時二十分薨す
 三十日青山齋場にて葬儀を營む
 六月十五日金澤市寶勝寺の先尊の次に葬る
 昭和五年五月二十七日石川縣有志の發起に係る記念碑を金澤神社祠畔に建て其の除幕式を行ふ

廓堂先生年譜後附

目次

- 一、學問辨道
- 二、身體、性行
- イ、身體、自奉

- ロ、人格、己れを持するの行誼
- 甲、人格
- 乙、寡黙、感化力
- 丙、操尚、温情
- 丁、本領、電光影裏に春風を斬る
- 戊、謙貴を冒す、古武士の最後の涼しさ
- 己、技能、趣味
- ハ、他人に對するの行誼
- 甲、無愛想、春風に坐するが如し
- 乙、公私の別極めて嚴
- 三、教育業績
- イ、學生時代
- ロ、石川縣專門學校教諭時代
- ハ、大學院入學及び第一高等學校教授時代
- ニ、山口高等學校時代
- ホ、第四高等學校校長時代
- ヘ、廣島高等師範學校校長時代
- 甲、教育主義、附、諸種美點
- 乙、人を觀るの明、才に任するの妙、會談
- 丙、廣島時代業績の梗概
- 丁、諸生の集團
- 戊、伊勢京都東京の旅行
- 己、舊師弟間の情誼
- 庚、生徒の處分、附、後進の接得

ト、東北帝國大學總長時代の一瞥
 チ、學習院長時代の瞥見
 四、學習院長辭任後
 イ、晩年志業の大略
 ロ、其他の行履の一斑
 ハ、最後の大病
 五、哀榮
 イ、郵典、追悼會、頌德碑等
 ロ、蓋棺後の論議

一、學問辨道

宋の程伊川先生其兄明道先生の爲めに行狀を撰したが其學德行誼を總叙したる處にかう言うて居る先生資稟既異。而充養有道。純粹如精金。溫潤如良玉。寬而有制。和而不流。忠誠貫於金石。孝悌通於神明。視其色。其接物也如春陽之溫。聽其言。其入人也如時雨之潤。智懷洞然。微視無間。測其蘊。則浩乎若滄溟之無際。極其德。美言蓋不足以形容。先生行己。內主於敬。而行之以恕。見善若出諸己。不欲弗施於人。居廣居而行大道。言有物而動有常。明道先生は命世の大賢であつてもとより後人の妄りに企及すべきではなけれども假りに北條先生を以て之に視らへれば規模の大小などは姑く置き雙方人物の大體の模様何となく髣髴として相似たるものがあるが如く感ぜられるのであるされ

ば北條先生も亦明道先生の如く其天性常人に卓越し幼少の頃から頭腦極めて明晰で記憶力尤も優れ勉強も亦人に勝れ毎夜曉天に至るまで寝なかつた故に學校の成績常に拔群で名聲籍甚世にいふ神童とは此の如き者であるだらうと思はれた學科は數學が最も得意であつて其他自然科學は皆其長ずる所であつたが汎く皇漢の諸學にも涉り和歌和文皆其の好む所であつて漢學に在つては特に思を義理の學に單うし書を讀んで古聖賢の訓を稽へ古今の歴史を繕いて治亂興敗の迹を鑑み同志の朋とともに討論講習し往々にして夜を徹し且に達した殊更に義利の辨は其最も意を致す所であつて其終世の行動一に此れを以て趨舍の準としたる概があつた而して弱冠の後に至り始めて禪に志し越中國泰寺の雪門和尚興津清見寺の眞淨和尚峨嵋天龍寺の滴水和尚岐阜瑞龍寺の禪外和尚などに就いたが其最も骨を折つたのは鎌倉圓覺寺の洪川禪師に參した時で茲にて見事に見性を了した其時に禪師より授かつたる居士號は竹塲といふのであつたが廓堂といふのは禪外禪師の授けられたる號である先生は其後も引續き洪川禪師に參禪苦修し其進歩も著しかつたが禪師遷化の後には色々支障があつて復た入室は爲さなかつた様だ右の如く幼き時より修養の志篤く多年修練の功を積みたるのみならず殊に其力行に勇なる如何なる艱險に遇つてもかかつて挫折することなく必ず爲果せなければ止まなかつた其結果は終に能く一隻眼を成し是れもとより勤學勉行の效たるには相違なけれども實は先天的に於て既に凡庸を超軼したるものがあつたから後天的の修行には刻苦すること少くして其割合には得力は甚大であつたと思ふそれ故先生の心地は常に昭々靈々として私

慾の爲めに拘牽せられるが如きことは殆んどなかつた様である隨つて凡そ思慮する毎に直きに三昧に入ることを得何事を爲すにも必ず其事に純一無雜となることを得た否、事ある毎に三昧の境に入るとはなく寧ろ始めより終りまで三昧に入りとほして居たのかも知れぬ嘗て久保無二雄君が故鈴木眞清居士(馬左也君)に先生の禪の力を尋ねたれば「北條は生れながら禪なのだ」といつて笑つたと云ふが誠に知言と謂ふ可しだ先生は此境界から事を處したから何事でも皮相を擺脫して直きに其真相を徹見し而して其處置振りも極めて根治的徹底的であつたなほ先生が竹中利一君に與へた書翰の中に禪學の要諦を説いて「禪學の要は俗氣の根本を斷絶ち大智圓通の境地に入りウナムヤの名利を離れて純潔大剛なる意思の湧起にあり」とあると云ふ此れは言ふまでもなく其實地修行の所得に基いて述べたものだらうから亦以て北條禪の一斑を窺ふ可しだと思ふ

要するに先生は一旦宇宙の根源を徹見し隨つて天下の大道を體得しそれより差別の世界に躍り出て屹然自己の分位の上に立つて側目もふらず其道に奮進し斃れて後己んだのだ義理の學や義利の辨や其他學科上の智識など何れも其平常言動の準則となつたに相違なきも是れ等を運用する所以のものとして一層浩大深遠なるものがあつた譯だ花田仲之助君の言に「要するに君(北條先生)が根本精神は宇宙の大道理に基き凡俗を抜いて公平無私の心より起りし國家に報ゆる大なる志を有して居られた爲め頓と小事に拘らず大事に當つては巍然として動かさず如何なる權勢にも恐れず名利にも惑はず直に政行する勇氣があつた所以である唯だ學問や智識の力丈けてはないと思ふ」とあるも此事をいつたので又山本良吉君が「先生の頭の中には

不斷大きな組織が形造られてあり一切の仕事は皆その組織の中から
わきでる様に思はれる先生の考は事が起つてからであるのではない先
に組織がありそれが機に應じて端又端と發現するのである」といつ
たのも畢竟は此浩大深遠なるものの存在及び發露を言ふに外ならぬ
のである

以上先生の修養並に其本領其人物の全體に就いて略述したから以
下更に各部分に亘つてすこしく記述することとする

一、身體、性行
イ、身體、自奉

先づ先生の容貌は中島鹿吉君の記述に「均齊のとれた顔貌、意力
に引締つた口許、温容掬すべき豊頬、哲人のみに見る清澄の眼眸」
とあり中目覺君亦其初對面の際の感想を記して「極めて淡泊相な物
慾に超然たる如き而して教育者くさくない無釋の先生」とあるが若
し之に加ふるに禿頭であつて且近視にして常に眼鏡を去らざりしこ
とを以てすればそれで殆ど先生の全幅寫眞となるのだ而して衣服器
具は極めて質素であつて毫も邊幅を修飾するの念がなかつたが併し
私宅に於ても常に折目正しい袴を着けて居た又食物は好悪なく飲酒
は好まずして大に甘味を嗜んだ元來先生の健康は友人や後輩の羨
望、驚嘆する底のものであつて「随分無理が續き徹夜も續き寒夜に
平服の儘で疊の上に手枕で研讀を發せらるることも幾度あつても風
邪に罹られたこともなかつた」(二木謙三博士記述)而して知命頃
までは寧ろ肥満ではなかつたが其以後頃よりは年一年と肥胖して屢
々醫者其他から警告せられた果せるかな六十六歳の冬に及んで腦溢
血症を起し一度輕快に赴いたが再び元の健康には復せずして以て最

後の發病の時まで續いた大病以前先生の少眠は有名なものであつた
加藤虎之亮君曰く「近く奥様から承ると先生は平均三四時間の睡眠
しか取られなかつたことと常々仰せらるるには眠つて居る間は
死せるも同様である少眠は即ち長生と同じであるとして最近まで夜二
時前に寝られたることはないさうである」と

ロ、人格、己れを持するの行誼
甲、人格

長屋順耳君弱年の頃第四高等學校教授として一年間就任するつも
りて金澤に赴いた時分のことを述べて曰く「此一年間の接觸で北條
先生と云ふ人は嚴肅な人であると同時に温雅な人であり意思は強固
であると共に寛容の徳に富みどの方面から見ても非常な人格者であ
り大人物であると思つて來て憧憬の念止み難くなつた」と
水木要輔君亦數言を以て先生の人と爲りを概括して曰く「資性質
直にして剛正、高潔にして温雅、敬すべくして慕はしく親しむべく
して狎るべからず」と此れ等にて略ぼ盡せりと謂ふべしだが今は故
さらに蛇足を添へてすこしく之を補ふことにする先生は風標清高古
樸にして其動止は殆んど服表に超脱して居た秋月毅堂居士(左都夫
君)は之を評して疎枝大葉古色蒼然といつた其語すこしく諧調を帶
びたれども善戲謔分不爲、謔分を要するに佳譚たるを失はずだ先生
外は温和にして内は剛毅、一見茫漠として甚だ要領を得ざるが如し
と雖も其實は神智明睿識見高邁、思慮亦周密にして世故人情にも略
ぼ通曉して居つた久保君凡そ再見の人は其氏を曰く「故人(北條先生)の
風貌は君子容貌如愚と云ふ古語がピッタリ當て嵌まる様に思はれ
る一寸語をして判つたのか判らなかつたのか一向判らない様であ

り又其口から出る話は至つて訥辯で判り悪いものであつたそれから
日常の俗事などには至つて頓馬の様なところがあつた物忘れたり間
違へたりした滑稽談は蓋し無數であつたらう併しあのボンヤリに見
ゆる頭腦は其實驚くべき強さと鋭さを持つてゐる其觀察判斷は稀
に見る程度の明瞭透徹したもので特に人や物の眞實是非曲直に付き
妻き程辛辣な眼光を持つてゐた」と

乙、寡黙、感化力

元來先生は少小時分より至つて寡言であつた而して其口より出
る話に至つて訥辯で人によつては随分判り悪い感じを持つたそれで
初對面の人や餘り親密でない人は手持不沙汰で甚だ困つた時として
數十分間も雙方無言で對坐し終には居た、まらずして辭去を餘儀な
くされた者もあつた併し其寡黙訥辯は全く只の寡黙訥辯でなく其單
簡なる言語の中には寸鐵殺人的の言句多く片言隻語も深く人を感
ぜしめるものがあり又一言もなくても「黙々の間に於て先生の一舉
一動一進一退は他を教化するの力強烈であつた(堤長述白石正邦兩
君記述)と云ふ況んや心して聴く者には是非曲直分明にしてよく事
の肯綮に中り假りにも無駄口なく言々句々肺腑より迸り出て人をし
て敬聴せしむるものがあつた時としては又意味深長にして諷刺的の笑
話を難へる事も屢々あつた、要するに説話は何時も眞剣味であつて
丁度禪堂に於ける入室獨參の趣があつて無限の味が溢れて居た(堤
白石兩君記述)其寡言の座談の裡にも慈愛の温情を含み侵し難いと
ころに何となく親しみのある印象を受けしめるものあり元來話上手
ではなければ其嚴格なる態度、精擇された話材、熱意ある話振
りは必ず聴く者に多大の感化を被らしめるものがあつた要するに

丙、操尚、温情

先生の言は口数が少なくて暗示に富むからせよともいはれずかう
であるともいはれない甚ていへば二三目先の方を簡單に不鮮明にい
はれるその時では御本意がはつきりわからぬことさへある(山本君
記述)度々御尋する毎に必ず何か授けられる所があつた然し殆どす
べてこちらから進問する事について只示唆的に一端を示されるだけ
であつた偶々先生の方から與へられる問題には示唆的といふよりも
寧ろ公案の様な謎の様なものも多かつた(堀維孝君二葉三葉(三))
ノ二)此れ等が先生の言談の本色であらう

先生の道義に篤かつたのは其天性であつた而して其道念の中心は
常に國家皇室の上に存して居た其一例として學習院長たりし時は其
努力は絶大であつた家族を小石川の私邸に置き孤身官舎に寄寓して
以て院務に盡瘁し幾十年晏起の習慣を破り毎朝必ず早起して軍服に
似た窮屈な制服を着て皇子殿下を奉迎した其外大患に罹つて下肢の
不自由を來した後も朝廷の禮典や祭祀には出來得る限り奉陪參拜し
貴族院の議事へも亦出席をやめなかつた親戚故舊など其歩行に艱や
むいたいたしい有様を見るに忍びず屢々苦諫したけれども中々承允
せなかつた此れ等にて其一斑を窺ふべしだ

次に先生の一切の言行の準則たりしものは義であつた堀君曰く
「實に先生に在つては貧富威武も利害得失も事業の成否も交際の
故も乃至御自身さへも義の前には何物でもなかつた様に思はれる」
「先生を形式に拘泥せられる様に考へる人もあつた様だが是はそれ
が義に嚴なる精神の一面の發露であることを看過したからであら
う」と先生の美德として義の次には公平を擧げることができる先生

は實に至公至平無私無惑であつた秋月君曰く「勝を好むの念と嫉妬は他から見てもなさうで又自分もなと思ふても心の奥深く潜んで居て大きな禍を爲すものである北條兄にはこれが少しもあつたらうとは思へぬ勝を好まぬから争ふことがない（盤上の争が兄の唯一の例外であつたらう）嫉妬がないから其爲す所言ふ所常に公明であつた又他の報恩感謝は責求せられぬが他に對する感謝の念は甚だ深かつた故櫻井一久兄の行を見るに我物は人の物と云ふ風だから定めて借りた物を返すことにも無頓着であらうと見えたであらうが處が借りた物は必ず返すことは目立つ程であつた此兩兄は實に雙玉の美觀を呈した何れも無欲であつたから義を見れば直に起つので即ち勇の勇なるものであつた」と

先生は又氣節を尙び交誼を重んじ人の爲めに謀ること至つて親切であつた非常に嚴格の様で其奥には何處か亦非常に温かいものがあるつて威武も屈し難き豪氣があると思ふと同時に婦人小兒をも狎れしめる温情もあつた畢竟謹嚴な人であつたが本來は情の人であつたのである赤木萬二郎君曰く「爾來^{實業界}先生に接觸することは愈々深くして益々その御人格の眞を見ることが出来先生は二に三を加ふれば五となる的の融通の利かざる單一無味の數理學者に非ずして一多相即、純直方正の中に遍通自在圓融無碍の妙諦に徹せられたる大人格者たることを窺ひ得るに至つたのであります先生は申すまでもなく參禪修道の覺者として實は弘濟院慈雲院堂の御戒名さながらの御人格の方でありましたことは誰人も知るところであります先生の御人格の眞面目は不斷に社會の隠れたる方面に躍動せる燃ゆるが如き人間愛、人情味に厚くあらせられた點にあるのであります」と

丁、本領、電光影裏に春風を斬る

何んといつても先生の本領は禪であつたされば其定力に富むことは驚嘆の外なかつた而して學問技藝を研究するに就いても其他何なりとも一定の目的に向つて進むに就いても其熱烈なる精神と旺盛なる元氣とは燃ゆるが如くであつて一旦思ひ立つたことは必ず實現させ又何でも一旦やり始めたことは蘊奥を極める人であつた其専門の數學は勿論禪の如き又國語曲の如き小技に至るまで必ず堂に升るまでやり遂げた其一言一行悉く禪味を帯びたるは言ふまでもないが又極めて趣味に富み歌舞音曲皆之を愛好したが殊に謡曲園茶の如きは自ら其技を肄習し略ぼ巧妙の域に達した此れを以て觀ても先生は何時も張切つた様子態度で居て而かも一方非常に餘裕があつたことがわかる扱先生の事をなすや終始至誠を以て一貫した其態度の光明正大なる恰も諸葛孔明の祁山に出て正々の旗堂々の陣といふ趣があり一時の方便とか策略とかいふものは絶えて其迹をだに見なかつた藤井種太郎君曰く「先生は實に正々堂々の外何等の細工を用ひられなかつた例へば學習院に於て北條黨であり又其の子分であると思はれてゐる吾等の意見でも會議の席上に於て良しと思はるれば他の嫉視や誤解の來ることが分明なときでもかまはず用ひられた遂には吾々が遠慮して口を緘した先生程誤解を懼れない人は他にありません先生を誤解せしむるに到ること明かなる、而してそれが遂に先生をして辭職に至らしめた眞因の一なる某氏の講演を敢てせしめられたるが如き實に自分を投げ出さなくては出来ぬ藝當である先生は事の成否以上、世の褒貶以上、常に負むに足るあるものを握つて居られた實に火に入りて焼けず水に入りて溺れざる底のあるものである

併しあの捨身でよくもあの位置まで行けたものと思ふ―勿論先生はあれまで行けなくても遺憾がなかつたから行けたのであらうか」と先生は口の人でなく實行の人であつた理窟で人を説得するといふ方ではなく黙々として其所信を實行して兎角の批判は後人に任かせるといふやり方であつた元來意思強固にして自信の強い人であつたから自分が是と信ずることは第三者が何と觀ようが何と言はうが敢然決行し敢て辯解を試みず事の成否は全く度外に置いた堤、白石君曰く「事を處せらるるに當り極めて明晰なる頭腦を以て綿密に理性に訴へて曲直を斷せられしが一面に於ては人情の微に入り細を穿ち一毫も無理をされず眞に暖き同情心を有された熟慮の末善なり是なりと信ぜられし事に向ては如何なる障害物の横はるも物ともせず眞一文字に決死の勢を以て斷行突進せらるるるときは眞に敬服に堪へぬ」と

併しながら先生は特立獨行毅然千秋と云ふ人であつたけれども一方に於ては極めて謙虛自卑の人であつたかういふ逸話がある堀君曰く「先生山口高等學校に御在任の頃數學に就いて天縱の力を有せらるるを知つて居た先生の師友が度々學位論文の提出を慫慂したさうだ一篇の論文を御出しになりさへすれば直にも學位を受けられた程斯界についての御造詣も先進者の信用も深かつたのださうであるが先生は竟に御出しにならぬ或人に語つて海外諸大家の業績などを見るところどうしても自ら薦める氣になり得ないと仰せられたさうである是は學術上の事であるが亦以て先生平生の御心事を察するに足ると思ふ向上道の際涯なきを瞥見した位の者でも心に慢じ自ら得たりとするやうな事は有り得ないまして偉大なる人程自己を小なりと思ふ

に遠無い又之を轉換して眞に自己を小なりと思ふ人程偉大であると云ひ得る道理も有らう古來精神界の大人物が皆非常なる自信と共に極度の自卑を其言動に表して居るのは優に此邊の消息を語つて居る様に考へる何はともあれ私は先生が殆ど無聖無功の至上境地に立入られた事を信ずるのである」と

久保君曰く「故人は數年前腦溢血に侵された時迄は驚くべき強き體力の持主で又其精神の威力は稀なる偉大なるものであり即ち肉體的にも精神的にも病菌などとりつくことの出来ない健全なる心身の標本であつた而して其人格の働き現れる趣を見るにどこまでも自然有りの儘で作意とか激越との痕跡が少しもなかつたそれだから「えらぶる」とか「えらばる」とか云ふ矯飾は微塵だもなく高遠なる志はあつても、けちな名利心などは聊かも動かなかつた胸裏には鬱勃たる正義心が充滿して常に國を念ひ世を憂へてゐてもそれが感傷的な慷慨悲憤の形を帯びては現れない何處までも曇りや濁りなき純眞性の健全なる心が力となつて働くのである是が又動かざる山の如しとでも云ひたい位周圍を壓する一種の魅力を有する獨特の風格氣品を故人に與へたのであつた」と誠に是れ先生を觀得て骨に徹し髓に徹す眞に知己の言と謂ふべしだ

戊、權貴を冒す、古武士の最後の涼しさ

君又曰く「然らば故人は何時にても村夫子然たる温厚なる好老爺であつたかと云ふに決してさうではなく必要に迫られては時として底力のある強烈なる抵抗力と攻撃力とを發揮することがあつたらうと思はれる」と此れはたしかに時々あつたことと其最も大なるものは左の堀君の記述に現れたる事柄であつて歴史に特筆大書して後

世に貽し以て先生の名聲を不朽に傳ふべきの美談だと思ふ曰く「是は第四高等學校御在任の時である明治三十二年十月某公爵（當時侯爵）が某々兩子爵を隨へて各地を巡視せられ二十日金澤に着き其翌日來校午後職員及び生徒に對して講演などせられた少し日數經て金澤の有志家といふ様な人達が上京した序に某公を訪問したさうだ其時某公が話次「金澤高等學校の北條といふ男は畏ろしい男だ」と云つて尙ほ「我輩が金澤に入らうとした時第四高等學校長の肩書附て親展書が来た披いて見ると其中に閣下が到處攀花折柳の浮名を流されるが閣下の如き高名の人がさうした手本を示されては我等苦心の教育の効果が甚減殺されるから氣を著けて欲しいといふ事があつたそれで我輩も金澤では神妙にして居た」と話されたとの事である有志家達歸郷の後人々に語つたので傳はつて私共の耳にもはひつた或日先生の前で此話が出た時先生は一言「學校の門をひひつて貰ふまいかとも思つたと云はれてあつた」と久保君曰く「此話は政治家伊藤公の個人として美性の一端を窺ひ又其人格を飾るに足る美談として傳ふべき價值あるものなると共に故人の力が時として如何に發露し如何なる感應力を人に及ぼすかを察せしむる」と尙ほ前の話に雁行すべきの一美事がある堀君又記して曰く「是も廣島の事、或夜先生の御宅に開かれた會合が終つた後に私は尙ほ何ふべき事があつて居残つた時先生が一篇の建白書様のものを御示しになつた山縣公爵に呈せられたものであつたと思ふ黨人を文教の首班に据える事の不可を説かれたものであつたと記憶する其時先生は私の間に答へて「月に一度位は此類のものを書く事がある」と仰せられた義と信ぜられた事の爲には權貴をも冒して侃諤の議論を陳べられた事が折

々あつたものと思はれる」と又藤井君の記述に曰く「多分先生は勝負を度外視して而も碁に熱心であらせられたことと察する無刀流を喜ばれたのも此精神であらう學習院での結末には勿論遺憾を感じられたであらうが屈托せられた様には少しも見えなかつた山本良吉先生と私とを私邸に招かれて辭職の決心を語られたとき如何にも古武士の最後の涼しさが看取せられた」と古武士の最後の涼しさ、先生の面目躍如たるを覺ゆる彼の孔明は鞠躬盡力死而後已至に於て成敗利鈍非君之明所不能逆睹也といつた局に當る者は今も猶昔のごとくならんも獨り傍觀者の流涕長太息するを奈何かせんだ吉田惟孝君曰く「武人の典型として乃木將軍をあげ得るならば教育者の典型として北條先生をあげ得られると思ふ共に學習院長をなされたこともあるが修養に於ても御性格に於てもどこか似寄つた點があるやうな氣がしてならぬ職務の然らしむるところか將軍は鋭い眼のうち慈しみがあつた先生は慈しみのうちに強さをひそめてみられるやうに感ぜられる共に古武士の面影あるは同一である古武士の如く眞面目で強くて涙ある教育者を渴望する今の世に先生を失つたのは誠に惜しくてたまらない」と嗚呼世の志ある者誰か復た同情を感じざる者ぞ

己、技能、趣味

先生の技能を擧げれば文章は簡にして要を得よく其言はんと欲する所を盡して而も冗慢の語なく書簡文特に喜ぶべきを覺える筆翰は圓にして秀、勁にして穩、高雅醇古なること唐代以上の趣を見るのである而して其最も酷愛耽好する所のものは圍碁と謡曲とであつて多年練習の功を積んだ結果は巧手を以て稱せらるるに至つた書簡文に

就いては久保君曰く「言語は訥でも一度是が文章となつて現はれると情も理も整然とした簡にして要を盡したもので私は些細の用事で二三回手紙を往復したことがあつて驚いたことがある」と又秋月君曰く「或人の云つた事がある「北條の手紙は實に簡にして要を得て居るあれだけの手紙はなかなか書けるもんぢやない一種えらい頭である」と（圍碁及び謡曲に就いての諸氏の記述は下に擧げる）

先生の趣味に就いては元來先生は家庭に於ける主人としては家事萬端を夫人に委し常に居室に端坐し教務勉學の餘暇には圍碁にあらざれば謡曲に親しみ毫も退屈を感ずる等のことを見ず書畫骨董に對する趣味は素より之を有したれども餘り之を厭はず晩年に至りてやや其興味あるものを好みし而已少時より經史に親しんだが追々其他汎く各種に波及し書籍數萬卷を收蒐し珍貴のもの少からざりしが其世を去るの前殆んど擧て各圖書館其他親交ある者等に寄附又は頒與した又揮毫も時々之を爲した以上は先生の趣味の大略だ而して先生の謡曲に就いては長屋君曰く「謡曲に於ても先生は大家で特に地拍子に於てはそれが數理的に出來て居るからであるが實に明るいものであつた先生が寶生流の謡を稽古されたのは第一高等學校教授であつた頃が最も猛烈に地拍子の研究に與様の針箱三個を叩き壊されたと云ふことである能、囃子に就ても鑑賞眼は高く金澤に於ても廣島に於ても有力なる能樂界のパトロンであつた」と又小日向定次郎君曰く「先生の謡ひに就いては世辭つ氣のないところ決して艶ある美しい聲ではありませんでしたけれども流味を有つたどつしり巾のある謡ひ振りにはいつも會員（五雲社會員）は敬服してゐました畢竟先生の謡ひは地拍子の正確な知識を有たれそれにまた仕舞にも堪

能であられた爲であらうと思はれます」と圍碁に就いては平沼騏一郎君の談に曰く「北條君は又謡曲と圍碁とに熱心であつた此處にも君の徹底せねば已まぬ精神が現れて謡曲の地拍子の如きは餘程達者であつた圍碁に於ては牧野伸顯伯と同格で素人の初段か二段位の力はあつたが此の方面の書籍を大分蒐集して居て其の研究も亦一通りではなく碁經に心を潜めて徹習したことも幾度であつたか知らぬ君は其の日の仕事を終へてから打ち始めるのであるから始める時が既に早くないのであるが「もう十時かね」などと尋ねられる時ははや曉に近い三時頃であるといふ風であつた赤座好義君は奇人よく君と碁を圍んで夜明け近くに歸ることがあつた或時は日中から打ち始めて夜明しをしまつた翌日も續いて打つ其日も亦夜を徹し其の曉方に家人が兩戸を開けたのを君はまだ宵の口と心得て「今頃なぜ開けるか」といはれた事がある」と吉本清太郎博士曰く「圍碁は相手方の有無に關せず往々曉に至るまで端坐悠々として碁盤に對し一睡をもなさずして翌日は全く平常の如く登校教鞭をとらること多かりき」と三宅右祐君曰く「先生の碁は風趣多量に含まれてゐる古碁の如きものであつた漠然たる掛引などは少しもなく定石に明るい極めて正々堂々のものであつた難石でも出來ると手を止めて凝つと考へられるしかも不動の姿勢盤石の如くいつまでも端然として一語をも發せられないこの結果毫然として下さる石は大底稀に見る妙手である」と又曰く「先生は友を求めて打たれることも打たれるが又獨り碁を打たれる私が直接承つた言葉にも「碁は二度観しめるから面白い」といはれたその意味は蓋し一度相手と打つ時とそれから後再びそれを並べて調べて見る時との場合をいはれたので先生の碁に

對する態度が如何に眞面目であつたかがはれるこの二度目に並べられる時が即ち獨り其なのである獨り其は先生に取りて最も感興の深い何とも他人の窺ふを得ざる考案の三昧境であつた様であるされば先生が訓示をされるとか講演をされるとか乃至は何か大になさんとせられることのある前には必ずこの獨り其が行はれたものである幾々の音、沈黙の端坐その幾夜かの徹夜がつゞいて初めて大事の考案が成るといふ誠に珍らしい習慣を持つてをられた樂しむ境地もかくまでに至れば世の徒らに其に遊ぶもの又は勝負に耽るものなど肅然として襟を正さざるを得ないものがあるではないか」と長屋君曰く「先生は申々上手で田舎初段と聞いて居た随分御好きであつたが何かの會の開會前少しの暇に其を圍むなどと云ふことは絶対になかつたこれはどうかすると他人の迷惑になるからであらうかそれとも外に理由があつたのかは知らぬ御宅で對局する時は全く熱中されて時として校務上指揮を仰ぎに伺つても「ウンウン」と返事ともつかず喚聲ともつかぬことを發音するばかりで一向らちが明かぬ圍碁の先生でも來て居ると一局は一晩で終らぬらしいで斯様の時は御宅で公務上の決裁等は到底望み得られぬ或る時女中が朝戸を開けようとする時「もう日が暮れたか」と問はれたと云ふ笑話も残つて居る」と書籍に就いては堤、白石君曰く「古書籍を愛玩せられし事一通りならず下谷池の端の齋藤書林(當時バイブルと名づけられし有名な書林)に於て休日一日を暮されし事は珍らしき事ではなかつた」と田中敬君曰く「北條先生は古書の蒐集保存に頗る熱心で居らせられた藏書數萬卷博く各方面に亘つて居たが中에서도歴史地理に關するものが多く殊に日本近世史の資料として珍重すべきもの

が多かつたやうに思ふ偶には版本もあつたが力を入れて蒐集されたものは多く寫本の類であつた新たに入手されたものは必ず通讀されたやうであつたがそれが單なる讀過ではなく同書の異版異筆を舊藏の中から又舊藏中になき場合は圖書館本によつて對校し誤字脱漏を訂正されたのみならず難かしく崩してある艸體の漢字や現代人には一寸讀難い變體假名などには楷書を旁記又は片假名などで讀方をつけ或は又假名が幾字も續いて判讀に苦しむやうな所には適當な漢字を注する等極めて丹念に書入れられた必要に應じて考證もせられた先生の讀書の際には必ず朱筆を右手に持つて居られた四高並に廣島高師に寄贈せられた古書の中には先生が朱正を加へられたのが多數ある筈である先生は又保存に骨を折られた他書と合綴されてあるものは取出し同種のもは一つに纏めて幾冊かの揃とし落丁あるものは他書より寫して補ひ補寫不能のものは白紙を挿入して他日異本發見の際の記入に便せられた」とか加藤虎之亮君曰く「東北大學に居られた頃道義に關する寫本類を校合加朱筆寫せられたことは驚くばかりの部數であるが此等は總長の仕事をせられた後夜半から曉にかけてなされた事である夜二時過ぎになると奥様から御寢みにならるやうにお勧めするときに寢むがよい自分は先きが短いからと續けられ常に讀書程面白いものはない自分は其などをやらずに讀書すればよかつたと思はれたさうである」と

以上は主として先生自身一己に關する行誼を述べたものだが以下は専ら其他人に對するものを略擧する

ハ、他人に對するの行誼

甲、無愛想、春風に坐するが如し

先生はその風貌嚴毅その口調莊重にして人に接するや所謂御世辭もなく無談話もなく、むつとして無愛想であつたから先生を識らぬ人は唯頭固一點張りのおやぢとのみ思つた併し一ト度興の到るや破顔一笑温情外に溢れ恍乎として慈父に對するの感あらしめた實際先生の交際振りは世辭愛想はなかつたが決して人を嫌はず誰とも交り打解けて心から諷笑し他愛もない遊びにも興味を持ち又大の所謂子煩悩であつた堀君曰く「かやうに無愛想であられたに拘らず先生に對する者は誰でも所謂春風に坐するの感をなしたの先生の無愛想は全く義に由る御胸裏の長閑さの自然の表現であつたからであらう實に心腹融融といふ語の活きた註釋を先生に於て見出し得るやうに思はれた御師と共に次第に此長閑なる御心事が言語の上にも現はれるやうになられたがいつも義に立つて居られる稜々たる御風格は少しも易らなかつた」先生が他に對して御愛想らしい事を云はれたのを聞いた事は無いが其の人の居らぬ處で其美點を擧げて譽められる事は時々あつた時には随分高級の讚辭をも用ひられたまだ禪の修養をした事の無い私の一薄友について「禪の生粹を得てゐる」と評された事もある又悪く言はれたものも稀には聞いたがそれは所謂後言などいふ類とは全く撰を異にしたもので直接其人に云ひたいと思はれても其機會が無いといふ様な事のみであつた」と

乙、公私の別極めて嚴

然れども公私内外の別は極めて嚴で彼此の間秩序の整然たるものがあつた此事に關し石川龍三君の話に「私として北條先生は眞に偉い方だと思つて今日に至るまで深く感じて居ることは先生が學習院長になられる時の事である其の公然の發表數日前に新聞紙上に右の

噂が出た先生は市内神田猿樂町の安田旅館にお泊りになつて居たので御機嫌伺ひに行つたその折に先生新聞紙上の事は事實で御座いますかとお尋ねしたら先生は暫く黙して居られたが「嘘でせう」と一言申されただけで了した、所がその一兩日後に正式に學習院長になられたことが官報に發表されたこれについて私は深く感じた、事大小となく公表あるまでは輕々しく口に出すべきものではない、かゝる心掛を念頭に持たぬと如何なる不祥を惹起せぬとも限らぬと此の事で私は先生から大なる教訓を得たと思つて居る」と堀卓次郎君曰く「校務上につき部下職員に對せらるるや態度端然として威容あり秋毫も侵すべからざるものがあつた而も校務の關係を離れて私的に面接せらるる場合に於ては温顔款語眞に慈父の態度であつた」と又栗原源治君曰く「時に御宅に伺ふと學校では觸れ得られぬ自然な眞實の先生に觸れ得られた感が有つたそして譬へば玉露をすすつた後の氣持とても云ふやうな陶醉に似た感じと又何物か獲たやうな充された緊張とて光月の下を行く氣持で歸つたものであつたが此の氣持の底には「何處迄もやらう先生に捧げよう」さうした人生意氣に感じると云つた感激が流れて踏む我が足もそゞろに家路を忘れるのが常であつた」と其他部下の人には同様の感じを有つた場合が澤山あつた先生は子弟の教育後進の誘掖を以て殆んど終身の事業とした事は今更煩言を須るぬ今これより先生の教育に關する事歴を述べることにする

三、教育業績

イ、學生時代

先生は學生たりし時より其膝下に少年學徒の其德風を慕ひ來り集

る者多くいつも数人の諸生と同一の下宿に起居し一切の監督及び學科の豫習等を世話して居たが萬事親切は盡したが又頗る嚴重であつて殊に本を教へる時に當り記憶の速かならず了解の敏かならずといふ如き者には叱咤に次ぐに扑撻を以てすることもあつた、しかし諸生は皆心服して居つて不平の氣などは絶えて起さなかつた先生大學に通學する傍ら私立學校に教鞭をとつたこともあつた様だ

ロ、石川縣專門學校教諭時代

而して其本式に教職に就いたのは石川縣專門學校教諭となつたのが最初だつた當時先生の教員としての行動は實に目の覺める様な見事なものであつた高木亥三郎君が自家の親驗實歷に本づき當時のことを記述したのが至つて詳備にして壯年時代の先生の徳風氣宇並びに其風化の顯著なるものが大抵述べ盡してあつて殆んど遺憾ないと思はれるから文が長いけれども茲に之を撻引する曰く「先生は明治十八年帝國大學を卒業せらるゝや石川縣專門學校校長武部直松氏に迎へられて理學士として始めて故文學士本間六郎及法學士田上省三兩氏と共に相率いて郷里金澤に來任せられた當時の石川縣專門學校は石川縣唯一の人材養成所て今の中學校に當り第四高等學校の前身である當時は學士は地方は極めて珍らしく衆生徒の仰ぎ見ること神仙の如くであつた先生亦處生舞臺として特に郷黨注視の的となり獅子兎を捧つに全力を用ひられし觀があつた予は同級生木村榮、山本良吉、松寺竹雄、鈴木貞太郎、高木銑次郎等諸君と共に「トドハンター」の代數「ライト」の幾何等を英語の教科書で教へられたがその授業振りは最明瞭透徹を極めたる特徴を有し第一流にして他の追隨を許さなかつたそれまで分り難き數學教育上一轉機を劃した予は亦

スマイルスの自助論により英語を教へられたこともあるが是亦明瞭透徹を極めたものであつた先生は學校の學問外の學問、換言すれば當時先生の用ひられし用語其儘を假りて言へば學校の總ての學問を總括する學問として人物を鍛鍊すること今日の用語でいへば人格修養の必要なることを高唱し陶冶せらるる事に大いに熱心であつた先生は率先躬行尚武を好み柔弱を惡まれた誠實を貴び虚偽を蔑しまれた質朴を勧め奢侈を戒められた謹嚴を揚げ放漫を抑へられた輕薄を排し重厚を勧められた淺薄なることを股し徹底的なることを棄せられた天才を賞して其の驕慢を矯め鈍才を慰め努力を勵まされた不良學生には恐怖の中心であり健全なる學生には熱烈なる同情者であつた、かくして先生は獨り數學英語の先生のみでなく人格修養人物鍛鍊の先生であつた學校卒業の後に於ては少くも先生を尊信する多數後進の敬慕せる先輩の中心となり共に國を憂へ公に奉ずる師友の中心であつた吾等が學校卒業後にも最も長く先生に師事し終生渝らざる高情に浴したのも實に茲に存した譯である當時の學校は一學級の生徒數も少く余が所屬學級の如きも十名内外に過ぎず家族團樂のものであつた生徒が白山比咩神社に參拜すれば先生も共に同行せられ社畔の高崖より手取川の深潭に飛び込み泳がれたこともあつた當時兵式體操が始めて輸入せられ生徒が珍らしさうに體操をやれば先生も飛入りて生徒と共に兵式體操を學ばれた生徒がベースボールをやれば交つて共に遊ばれ「キヤツチャイ」として誤つてバットに觸れ昏倒して人事不省となり九死に一生を得られたこともある」と尙ほ松井喜三郎君も亦先生當時の授業振り及び其學校内外に於ける教育黨陶の情況を描寫して睹るが如きものあるを以て併せて之を掲げ

る曰く「私共が石川縣專門學校の初等中學科(今の尋常中學の課程に相當するもの)在學中の事て今の京大の松本文三郎博士、水澤の木村博士、現松江高校長河合君、故東京府知事井上博士なども同一級に居つたので當時先生は我々學生に熱心と至誠とを以て重もに數學を教授せられたが學生に對して嚴しき事は一通でない所謂殊喝雨下すて時としては數學の好きなものでも随分辟易したものですその當時より文章に對して一かどの造詣と趣味を有せし故熊谷敬太郎氏などはその壓迫に堪兼ねあるとき黒板の前に立往生して先生の痛罵を受けしとき終に憤慨の極「人には各能不能がありませぬ私も相當に勉強してをりますが出來ぬ事は出來ませぬそんなに叱らるるのはいしからぬ事だ」と色青ざめて眞面目に云ひ出して先生の苦笑を買ひし事も有つた程で非常に緊張した教授振りでしたおまけに英語の先生にちと具合の悪い方があつたと代つて英語を、畫の先生の用器畫の原理が不得手のときは用器畫といふ様にあれもこれも教へられたものだから恐らく毎週二十六七時間も受持たれたのでないかと思つた程の精勤振だつたのです、といふとたゞ怖い一方の先生の様に聞えるが時々學生と一所になつて正月には加留多會に加はり夜の更けるのもかまはず時折りは五六の學生を自宅に會せしめて法帳や繪畫や時のはやりの小説やらを見せてその品隅を試み或は遠足に侶ひてゆくゆく古今の人物月旦をやるやら直接間接に思想の向上、趣味の涵養に資せられたあの答案不正事件などもこの好機を捕へて奥田氏と合議以て品性陶冶を謀られた一例で時に臨み機に應じて應病與藥を爲されたものだから一方恐ろしい先生なると同時に一方いつも親しみある學生をよく理解する深切な先生でもありその時分學校の中心

人物は先生に外かならなかつたのです後來先生の教授を受けし私達の級や後の級より數多のそれ／＼の方面に各の専門に傑出し、しかも高尚なる多様の趣味を有する人物が輩出したのは勿論先生以外にも幾多のえらい先生方の居られし御蔭なるも主として先生に負ふ所多くはなかつたのではないでせうか」と

ハ、大學院入學及び第一高等學校教授時代

次に大學院入學及び第一高等學校教授時代の事に就いても亦高木君の記述に見ゆる所を引用すれば足れりと思ふ曰く「其後第一高等中學校教授としての先生は校長に法學博士故木下業廣氏あり僚友には岡田良平氏故市瀬順太郎氏等あり就中岡田良平氏とは最も肝膽相照し親善のやうであつた當時向陵學生の風の良好なりしは今も然りだが學生の威勢餘りに強く腕白氣分と茶目氣分交りに屢々級代表を選んで授業の休止を迫り求めしことがあつた教員の多くは辟易して之を容るるの風があつたが先生と岡田氏とは授業を勵行し斷然其の求めをいれられなかつた尋いで岡田氏の文部の要路に向つて果進せらるるや常に先生を拔擢起用せられしもの如く先生の相尋いで果進せられし裏面には岡田氏は常に先生のために伯樂たられしにあらざるかを想ふ、かくて先生の東京に居住せられし頃(大學院入學に始まりし時を以て山口高等學校)には同郷出身の大學生等は屢々先生の門に集まり先生も亦好んで之を迎へて誘掖せられた予も亦故井上友一氏等と日曜毎に相携へて屢々先生を訪うた先生は或ときは同餐し或ときは同伴して猿樂町寶生會の能樂を觀覽せしめられたこともあつたが之がために故實生九郎、故松本金太郎今の松本長の能を見るの機會を得た能樂と謡曲とに就ても一種の見識を備へてをられた或國祭日に

先生を訪うた時矢管形の蓮根蒲鉾其他一種特別の献立を以て午餐を饗せられたが其特別の献立は國祭日、大祭日を單なる休日に止めず其祭日祝日の意義を白覺するがために之に因める献立を選びて赤飯を饗し家族等と之を共にするの習慣を普及することを約し同志の人等と共に繼續して實行する申合せによるものであつた是は禮治會なる會合の計畫であつて岡田良平、堤長發、織田小覺等諸氏が皆其會員であつたさうである先生は故井上友一君等と謀りて講談會なるものを組織せられ多年繼續した其會員は故井上友一氏、清水澄氏、松本文三郎氏、白石正邦氏、故竹島慶四郎氏、木島鐵三郎氏、松寺竹雄氏、野口遵氏等々であつた予も亦席末に列した早川千吉郎氏、鈴木馬左也氏、平沼騏一郎氏、土岐儀氏、織田小覺氏等客員として出席せられた毎月一回宛先生、早川氏若しくは織田氏の邸に會合し僅少の會費を醸集して吉田松陰、梅田雲濱等維新勤王志士其他の言行録著書等を購入輪讀し相會しては互に時事國事を談論するものであつた其逐次購讀せる書籍は哀然山積したが今其何れに存するかを知るに由なきを遺憾とする」と

ニ、山口高等學校時代

山口高等學校時代の事では杉森此馬君と吉本博士との筆を借りる曰く「明治二十六年頃の頃でもありましたが山口の高等學校が大紛亂に陥り其原因は何であつたかも知れませんが頗る大變な騒ぎで生徒がボンブを引出して生徒監を水攻めにすると云ふ様な事迄もやつて可なりの騒動でした當時北條先生は第一高等學校の教授であられたのですが時の文部省參事岡田良平氏が現職のまま山口の校長として北條先生を教頭に其の他二三人の人を引き連れて山口に乗

込んで行かれたのであるそして其の紛亂を鎮め萬端の整理を遂げ一年の後は學校も原狀に復したので岡田氏には北條先生を校長として自分は本省に歸られたのである」(杉森君)「當時^{明治廿九年}岡田氏は有名なる山高ストライキ直後に全學生の思想尙未だ安定せざる頃に岡田校長新任され岡田校長の推薦により北條先生は教頭として就任され大に岡田校長を補佐し他方には先生の崇高なる人格は春日の水塊を融解するが如く全學生を緩和指導され學術に人物養成に夜盡すされ其結果山高の全盛時代を招來し其當時の同校卒業者は現今政界に實業界に又は文學醫學工學方面に實に多士濟々なり」(吉本博士)と尙ほ二木博士は當時同學校の生徒たりしが北條先生に懇請して其邸の玄關番となつた博士は先生當年の自宅書生接遇振りを記して居るから并せて茲に掲げる「此所て三年間親のそばでやれない所の種々の方面の鍛鍊生活をなし得ることの出來たのは誠に仕合せでありました此間先生は多くの先生と異なつて曾て一回でも教訓めいたことを仰せられたことなかつたことす私等は三年唯「黙々の聲」を聴いただけでありました一言教へられたこともなく又一言叱られたこともなかつたのです又私等より何う御尋ねをしても「其れはよからう」「其れはよしならう」と云はるゝだけで何の理由もなければ又理窟も言はれなかつたので唯其の簡單なる數語は其れが答の全部であつたのです而も其れは吾々の到底越ゆることの出來ない百丈の鐵壁であつたので不平もなく不満もなく唯々「黙々」と云ふ譯で眞に「黙々三年」でありましたが又最も「力ある黙々」であつたと思ふのであります」と此れ亦先生當年の少年教育法の一端を觀るべしだと思ふ

ホ、第四高等學校校長時代

第四高等學校校長としての事蹟を述べるに就いては二上兵治君の談話が其全幅大體に互つて居るから先づ之を引かう曰く「予が四高に入學せしは明治三十年なりしが其の頃の四高は校紀の甚しく紊亂せるものあり高等學校とは此の如きものかと驚ける程なりき教師の中には名教授もありたれど品行不良のものあり生徒の強要するがままに休講するもの生徒と共に酒樓に登り拳を闘はす者などあつて世の指彈を受け校長は休職となりしやに記憶す北條先生はかかる際に來任せられたるなり先生は先づ數名の如何はしき教師を交迭せられたるが生徒は皆其の當を得たるに服せり先生に斥けられたる人を見るに其の晩節皆振はぬ憾あり披擯新任せられたる人は後來皆諸方面に活躍せるを見て予は今更ながら先生が人を觀るの明あられしに嘆服せり其の人を探るは學力方面よりは寧ろ重きを人物に置けるが如く思はれたり先生の生徒に臨まるるは極めて嚴格にして放殺處分を受けしもの十名内外に及びしならん中には之に感憤して勉學し大に成功せる者もあり嚴に飲酒を禁し冠婚葬祭の外は一切用るしめず之がため生徒の中には反抗的氣分を示す者あり不穩の言語を放ち脅迫がましき行動を敢てする者ありしも先生は毎に徳望と威重とを以て之を抑へストライキ等は起さしめざりき禁酒の命下りし時生徒は職員は如何と問ひしに職員はその要なしと答へられたる際に惹起せし物議、野外演習の際校長の側に進みて發せし恐喝的言語、金ヶ崎へ行軍中全軍突撃に際し校長を目懸けて押し寄せたる行動の如きは反抗的言動の一例とすべし其の際先生は常に泰然自若として少しも動ずる色なく生徒を屈伏せしめ遂に之を心服せしめられたり先生は寡言

なりしが寸鐵殺人的の句を多く用ゐられたり當時修身倫理は經書を用ゐて毎週一回行へり予の四高卒業後は先生自身之を擔當せられたりと聞けり一時は力學の教授をもなされたりその教授振りも必ず方を得られたりと思はるれど校長としての手腕が特に卓越せしにあらざるやと思はる私的の會合にも常に臨まれ必ず講話せられたるが其の大意は禪的のもの多く大禪語を多く交へられたり學術講演會は當時多く寺院に於て行はれしが先生もよく講演せられ予も數回拜聴せり先生の訓諭は嚴格の裏に温情味多かりき生徒は物見遊山はすべからざれど東京に出ては回向院の相撲團十郎の芝居の如く日本一のもの一度は觀るを可とすと言はれたり先生の來任せられたるは予の第一學年の第二學期かと記憶す予の卒業する頃には學校は更生の感あり生徒も心服し校紀も振肅し先生は單に四高の校長たるに止まらず實に北國の中心人物となられたりかくも短日月の間に顯著なる成績を揚げられたるは其類例少きものと謂ふべし」と次に杉森君の記述に曰く「それでその年^{明治三十一年}の九月に赴任した當時金澤の第四高等學校は校規全く弛廢し生徒の不規律飲酒風暴は勿論藝妓屋から學校に通ふと云ふ様な生徒もあると云ふ話も聞く位であつた私が赴任した後でも色々のことがあつて處罰停學除名等頻發したそれで手始めとして校長は第一に絕對禁酒令を出されたその時生徒を講堂に集めて演説が頗る立派であつた私の校長の演説は度々聞いたがいつも内容は勿論演説法も實に名演説であつたと思ふこの演説を聞いて即座に禁酒を決心した生徒もあつた程一般に深い感銘を與へたものであつた校長には不思議に人を心服させる力があり」と右の中禁酒令

については堀君以下軍に堀君と稱すの記述に曰く「先生の禁酒令は酒は衛生に害ありとか小量は却て益ありとか云ふ様な點からでなく「飲酒は學修と兩立せぬ」と云ふ御意見に基いたもので廣島高師は創立の時から禁酒令が敷かれてあるこれ亦右の御意見から来て居るものと信ずる金澤に於ては絶大の英斷であつた」と尚ほ先生赴任の前後同校の生徒たりし者後年官途に就き立身して某省の勲任技師となり今は引退して更に民間の事業に従事して居るが其者の或人に話せしを又聞の儘記すべし曰く「當時在校の亂暴生徒共（此話をなせし人も其中の一人たりしなり）今度の校長はやかましくて叶はぬから一度撃ち懲してやるべしとてよりより談合したる結果或る運動會の日、潜かに校長の背後に覗ひ寄り腰より上は危険なればとて一同に棒をふるひ腰脚のきらひなく亂撃したり某翌日一齊に校長に喚ばれたれば扱はと各々覺悟を極めて出頭したるに校長徐むるに口を開いて曰く「吾は是迄今日何處の諸生を見ても皆柔弱風をなして女の腐つた様なものばかり居るので頼にさわつてならなんだが此校に來りて始めて豪壯にして氣概ある諸生に撞着し心中實に愉快に勝へぬなりたゞ願はくは君等此豪壯氣概を課業の勉強の方に應用し立派なる成績を挙げよ」と復た其他を言はず一同感激して退き「今度の校長は實にえらいぞ」と稱讃口に絶たずそれより大に奮發勉勵したる御蔭でどうやら今日の如き地位まで至るを得たるなり」と先生の爲す所は一に其至誠の妙用であつて初めより一毫の私意を雜へずかつて其効果を期せずして自から効果の大なるものがある洵に妙と謂ふべしだ茲に其至誠の發露の最も著るしき一事例がある堀君曰く「三十二年十一月十八日午後二時から金澤支部（弘道會の）講話會が學校

て開かれて校内外の聴者が多かつた其時先生も御話があつた題目は記憶しないが御話が進んで板倉周防守の事を例に引かれた周防守が毎朝庭に臨む前愛宕の神を拜して訟を聴くに當り微塵でも私心を起したら直に予が命を絶ち玉へと祈念した事に入られた時先生は聲を呑まれた幾度か言はんとして言ひ得ず雙眼涙滿ちて暫らく沈黙せられ竟に「今日は甚不完全な話をして相済まぬ」と簡単な挨拶を残して壇を降られてあつた私は眼前に周防守を見た云ふよりも尚ほ以上の神嚴さに打たれてあつた」と堀君又曰く「先生の四高長御在官は四年餘でさして長くもなかつたが御來任前後に於て四高の状態が全く一變した事は世の知る所である如何なる經營施設が効果を擧げたかを言はうとするのは寧ろ機械的な淺薄な考方であらう畢竟先生の精神人格から流れ出でた力が種々の脈絡を通じて校内を潤化したのである」と

甲、教育主義、附、諸種美點

先生は遍く各校に歴任したが其創立の際より校長として従事して自己の思の儘に經營し而して在職年月最も長く其日に益々隆昌に赴くの狀況を親しく睹たるは乃ち廣島高等師範學校であつて其學則に掲げたる學校の目的並に同校生徒に在學中絶對に禁酒せしめたるを觀れば先生が教師養成の眞趣旨がわかるのであるこれについて當時同校教授たりし赤木君は述べて曰く「當時（創業の際）は随分學校創業氣分が旺盛でありまして總てが眞劍味に滿され常に東京高師と對立して立つの意義を見たのでありますかくて學則諸規程の制定に

廣島高等師範學校長時代 註に記したる事柄にして他の時代の延後したるもあり

際しても教官の間に種々の意見の交換もあつたのであります先づ學校の目的に就いて東京高師のは「本校は師範學校、中學校、高等女學校の學校長及教員たるべきものを養成し兼て普通教育の方法を研究するを以て目的とす」とあつたのであります廣島高師では本校は師範學校、中學校、高等女學校の教師たるべきものを養成するを以て目的とす」と定められたのでありますこの所に先生の御人格さながらの表現を見るのであります根本に培ひ堅實なる人格を陶成すること之が教師養成の主目的である立派な教師にして立派な校長ともなり得立派な教育爲政者ともなり得るのであるやがては人の師表たるべき立派な人格者にして眞に國家の須要に應ずる學者ともなり得る國民民福を念とする實務者ともなり得るのである又眞の立派な教師たる人格を有する人にして始めて眞に普通教育の理論實際の研究をもなし得るのである本を隠微に立つる人にして始めて功を萬代に期するを得るのである之が先生の御理念であつたのであります又生徒入學に際して特に宣誓せしめたる訓條の中に「生徒在學中は内外表裏の別なく絶對に禁酒せしむ」との一項があつたのであります此の禁條を學校創業精神の上に加へて他律的に禁酒を實踐せしむることに就いては随分論議を重ねたのであります先生は頭としてその所信を貫かれたのであります結局先生の御理念は學徒をして宗教に於ける禁戒のその如く終生事を他律的に禁ずるの御精神ではなく飲酒の習慣は學生の生活と兩立すべきものに非ずとの見地より學生達に忠實なる學徒ならば自ら省み自ら進んで之を爲さざるべきである然し他日學生ならざる社會人として實社會に立つの時に至らばおのづからその時、處、位に即したる實踐の

要道あるべしとの御眞意であることを了し得て私も之に賛同致したのであります」とと神長權君は先生の教育主義の俗流に容れざるを毫も顧慮せず泰然として動かざりしを稱揚して曰く「精神を打ち立て其の精神を流し込むには一方ならぬ苦心と努力とを要するものであらう我が敬愛する故北條先生は到るところ精神樹立の開拓者であつた山口高等學校に於て將た又第四高等學校に於て然りであり廣島高師に於て其の最たるものであつた其れ故に到るところ豫言者の如く開拓者の如く一種の迫害あり壓迫あつたであらう然れども其れを貫き其れを遂行するの泰然自若として寸毫も動ぜぬ心の態度には常に莊嚴さをさへ感じて居つた廣島高師創立當時の教育方針の如き外皮的に考へ俗見には寧ろ非常識にさへ思はれたのである教練の如き今こそ各學校に於てやかましく云はれて居るが既に已に明治三十四五年創立當時に於て鍛へられたのである又禁酒の如きは斷然として勵行し生徒間には先生の嚴命に必ず従ひ違反者恐らく一人もなかつた筈である」と中島君は又先生の教育主義を評して教育の冒險を毫末も許さぬ堅實一方の合理主義といひ而して曰く「城ともの學びの舎の校歌に表現された籠城主義は先生の性格から必然に生れた主義であつて作つた主義でなかつたと思ふ開放して自由に時代に接觸せしめ放膽に社會と握手せしめてどれ程社會が洗練されようが輕快さが増さうが先生はそんな所に教育的の標的を置いて居られるのではなかつた若い者の落込み相な時代と世間の淵へは一々蓋をして大手を擴げて立塞つて居られた先生の姿を何時でも見る様に思つたよし社會と時代に接觸せしめてその試練に會ふ者の九十パーセント迄は浮み上つて更に大きな存在となつて戻つて來ても教育の冒險は毫

末も許さない堅實一方の合理主義者であつたと思ふこんな傾向を假りに教育上の保守主義と呼ばれるならば確かに先生は保守的教育の典型であつたと思ふローマのケートーとか埃太利のメツテルニツヒなどよく聯想して考へたこともあつた」と其他先生の門人又は後進諸氏が各々先生の美點を稱擧したる記述の中より數條を並べ掲げて茲に附録する「校長のやり様は何でも方針は確り立てられるが後には何をどうと行らぬ様で何でも自然によく成つて行く様で眞似て行らうと思ふても出来る事はない様である人格の自然の發露とでも云ふべきであらう」(杉森君)「先生は一貫せる正義に立ちて到處國家の教育に大なる貢獻をせられたが又其爲に苦心もせられ誤解も受けられた事があつた様に思ふ然し功にも自ら居られざると同時に御任務上の苦心、我を知らぬ人の誤解などは物ともせられなかつた様である御上手を云ふとか八方美人的に振舞ふとかいふ類の事は先生の痛く嫌はれた所であるのみならず本來先生には全く出来得ない事であつたと思ふ」(堀君)「講堂なんかでの御態度二時間でも三時間でも否半日でも虻が來やうが蜂がさそがビクともせぬ御態度には敬服せざるを得なかつた」(神長君)「先生の始業式又は終業式等に於ける訓示若くは校友會々等の席に於ける談話の如きは快辯人を魅するものがなかつた代りに寸言隻語の中に深く聽者を得得せしむるものがあつたのは先生の豊富なる學殖に胚胎する高遠なる識見が齎す結果であつたと信ずる」(堀卓次郎君)「在學中に先生から直接にお言葉を戴くのは殆んど式の時だけでした口の重いガツシリした几帳面な方でいつもわかるやうなわからぬやうな、お話をせられる先生でした」(吉田君)「北條先生の御演説を聞いて居ると分り象

ねる所はあるが後で何かを必ず考へさせられますね」(西晉一郎君話、今西嘉藏君述)

乙、人を觀るの明、才に任ずるの妙、會議

先生は人を觀るの明を以て稱せられたされば到る處に「其傘下に多種多様の人才を網羅してよく之を統率するの才を有して居た即ち自分が頭腦となり精神となつて諸機關にそれ／＼の働きをさせる點に非凡な力を持つて居た所謂將に將たるの偉さを有して居たのだ是れは一面人をして其寛宏の徳に化せしめるともに能く人の長處短處を知るの明と勇斷とを有した證據である」(菱沼東州堀維孝兩君記述參取)牧一君曰く「母校創設以來先生が入念に招聘された吾人の恩師は皆斯道の權威であり夫々異なる非凡の器であつた先生は此等の放膽、深慮、細心、銳利、あらゆる才能と特徴とを容れて適所適材の實を擧げられた全人教育の機關としてこの位完備せるものは恐らく天下に類がなかつたであらう世に一流に偏し一派に傾くもの能く全うする所ではないその理想遠くしてこれを實現するの道や細かく之を言はず之を語らずしかも着々として之を悟らしめ之を行はしむる所に先生一流の教育法が潜んでゐる世の形に因はれ流儀に拘束せらるゝものゝ能く及ぶ所ではない先生の率ゐる所一糸亂れず萬人仰いで敬服し俯してその徳を慕ふ洵に故あるかな」と

此れ即ち先生の案材を擧用したるの美を賞したるものだ而して杉森君曰く「校長は口に云ふより實行の人であつた長い間校長の下で働いて居てもあやれかうやれとは曾て云はれなかつた萬事一任されて面白く任務に従事することの出来たのは實に幸福であつた」と又曰く「校長は人を得る事は實に甘い且どんな人でも其の人々の長

所を捉へて働かせるに特得の力があつた此點は實に偉いと思ふ校長の下では誰でも不平を云ひながらでも働く」と角達介君曰く「至誠一貫の方でよく大局を達觀せられ其行くや正々堂々一時の方便とか策略とかいふ風のもの少しも先生には見られなかつた又常に國家の教育子弟の將來といふ事に立脚せられて自分自身の利慾や名譽や權勢のために他人を道具に使はれたと思はる節が少しもない少し無理とは思はれても先生に對して反情を持たないのは全く其爲めかと思ふ」と見るべし衆多の人才皆榮しんで用をなし奮つて自ら效さんことを思はざるものなかつたことを

先生已に數多の人材を網羅した扱之をして各々其才を竭さしめるに先づ各々十分に其所思を盡さしめざるべからず是に於て盛んに會議を開き互ひに討論審議して遺す所なからしめたこれは四高に於ても廣島高師に於てもかほかることではない併し會議の目的は單に衆議を聴くと云ふばかりではなかつた様だ今左に四個の記述を並べ擧げる之を讀めば當時人々髯を奮ひ眉を揚げ舌端火を出したるの状況を想見すべく旁ら亦略ぼ先生が會議を起したる所以の深意を領取すべしと思ふ塚原政次君曰く「先生は禪學の造詣が深いので常に不言實行といふ傾向が顯著であつた會議好きと申しては少し語弊があるが眞に高師では昨日も會議今日も會議と日々會議が多かつた而して教官には若年の議論家が随分多かつたのでなかなか眞面目に議論したものだ校長は終始だまつて聽いて居られて御自分の意見は一向吐かないで皆に十分言はして議論の出る所は出さしめて其の中にて御自分の意見に合致する説があらば採用せられ又随分理窟があつても御自分の意見に合はねばトント顧みられないといふ状態であつた要する

に先生がよいと確信せられたことならば誰が何といふとも一向無頓着で實行せられるし之と反對で先生がこれはよろしくないと思はれたことはどうしても採用がなかつたので自信の強い校長であつた」と長屋君曰く「北條先生は他人の意見を聞くことを好まれた金澤に於ても廣島に於ても教官會議は當時盛んなもので校長の議長振りによることであるが各人思ふ所を洗ひさらし出して討議したものである此間教官は互に夫々の意見性格を知り引いて交際親密の度を増し意思疏通を助けたので其結果は教職員的一致となり校務大に揚ると云ふ風になつたのである但し口角泡を飛ばして議論した教官會議の多數意見は必ずしも北條先生に採用されるとは極つて居ない斯様なときは形勢を見て決を取らず「大きに御苦勞だつた我輩も熟考する」と云うて會を閉ぢ幾日ならずして多數の意見と異なる實行に出られたことは珍らしくなかつたが教官としては既に胸中にある總てを吐露して校長の參考に供した後のことであるから校長が愈々違つた實行に出ても少しの不平も不満も抱かぬと云ふ風であつた全く校長の賢明に信頼したからである」と堀君曰く「先生は其の義と信ぜられた事に對しては毎に勇往邁進せられたが御自分の意見を無理にも固執せられる様なことは無かつた會議などでも時には早く取極めて戴きたいと思ふ事もあつた程にゆつくりと衆議を盡させられた而して各人の意見をばそれ／＼の條理を辿つて無心に聞取られたやうだ始から抱いて居られた自説を上手に通過させるが爲に巧に會議を運轉されるといふ様な事は全くなかつた往年西田君が「一事件について先生に意見を開陳し先生に同意せられたと思つてもそれが會議に懸けられた結果は全く違つた事になる場合もあつた」と語られた

事がある多くの意見には皆それ／＼の條理があるのは普通であるが先生は一々それを聴取られた上に衆議の間に現れた最大の條理を採つてそれに極められるので會議といふものの意義が眞に實現する様に思はれた」と新見吉治君曰く「課長會、主幹會、評議員、職員會など會議が多かつたが三時から始まつて七時八時になることは珍らしくなかつた職員會では先づ書記が前回の議事を朗讀する先生は訂正の御意見はなきかと一同に問はれるどんな議論があらうが先生は黙つて聞いて居られる居睡りをして御出になるかとも見えたことがある會議は決議機關でないのてしやべつたとつまつたらぬと達觀する者もあるが一言なかるべからずの連中もあり會議は長引くが常であつた先生は此間に人物試験をして御出になつたかも知れない」と

丙、廣島時代業績の梗概

高木君が廣島時代に於ける先生の業績を短々數行の間に叙して居るものがあるのを今茲に掲げる曰く「廣島高等師範學校長としての先生に付いては接觸少くして多く知らざるも漢籍の造詣深き三宅少太郎先生を始め優良教員の選叙に力を用ひられ生徒の募集には全國各府縣に所要定員々數を配當し優良應募者の選擇を各府縣當局に一任し普く全府縣に涉りて優良生徒を網羅して帝國高等師範教育の本質に適合せる募集方法を定められしが如き無刀流武術に熟達せる卒業生を特に養成して無刀流武術普及の方法を定められしが如きは蓋先生の一小片鱗を見しに過ぎざるものならん」と

丁、諸生の集團

先生の在る處概ね其周圍に少年後進の徒の集團が出来たが其最も著るしいもの金澤に三々熟、廣島に自彘會があつた此兩者に就いて

は堀君の起述の中に其梗概を述べたる紀事あるを以て茲に之を引用する曰く「廣島で同志と共に修養を目的とした會を起し先生の御宅に掲げてあつた鐵舟書の額「自彘不息」の語に因つて名を自彘會とつけ毎月一回位會合して精神上の談話を交換し先生も毎會臨席せられたが私の非才薄徳の爲に一部の人から思も懸けぬ誤解を受け先生始め若干の友人學生に迷惑をかけ多少の煩累を校内に來した云云」「三々熟は其名が示す如く明治三十三年に先生に西田君を中心として四高有志學生の組織した熟會で私も其創立に關係を持つて居るのである（前に一寸云つた自彘會は之を原型にしたものであつた）卒業者は出て、先輩として連絡を保ち新入者は三年間寢食切磋を共にし熟達時に隆替はあつたが今年^{昭和四年}まで三十年綿連として繼續し幾多有爲の士を出した」となほ自彘會は今日に久しく廢滅に歸せり

戊、伊勢京都東京の旅行

又廣島高師卒業期の生徒は必ず伊勢京都東京に旅行せしめることになつて居たこれも堀君の記述に曰く「今はどうなつて居るか私が廣島高師に在職の頃は卒業期の生徒を校長及び教官の引率の下に伊勢京都東京に旅行せしめる例になつて居た是は愈々社會に出て國家の教育に従事する前途に大剛に參拜させ京都御所を參拜させ東京では文部大臣の訓示を受けさせるといふ先生の御考から起つたのである而して其序に學校參觀等を行はせられたのであつたが上述の三つの主目的については先生が餘程嚴重に考へて居られた様に思ふ」と

己、舊師弟間の情誼

後進の徒の先生の徳化を被ぶりて永く忘れず幾年を隔てて相逢う

て訓言を聴受して感喜すること猶ほ昔日のごとくなる者所在に鮮なからず先生も亦其姓名閱歴を衷懐に銘記して始終其安否榮辱を心に掛けて居る其相互心情の醇眞なること眞實父子の間とかはることなぐまことに歎稱にたへざるものあり其事實の例證おほしと雖も今唯二三を擧げるに止める神長君曰く「卒業後十年有餘を經過し私は富山縣に奉職當時先生は卒業生の狀況御視察に見えた其は學習院長をやめられて閑散の身であられた頃かと思ふ其時私は該地に居る卒業願から云へば古株と云ふところから案内役を勤めた色々先生の御話を承る間に到底在學中に味ふことの出来ない温かい切々の情を感じた一々卒業生の勤務狀態を御研究なされ一々適所にをさめようとの至情親が子の行先きを案ずると何等變らぬのであつたアア十數年前の北條先生とは全く異なつた慈母の感を深くした其後御臨終まで母校の事や同窓生のこと深く思を致されたのである嚴父にして慈母今や幽冥境を異にす然れども教育力不滅の精神事々物々に對して先生の面影を偲ぶことであらう」と角君曰く「大正五年であつたか先生が同民會の講演で朝鮮に行かれる途中廣島に立寄られ驛前の吉川に泊まられた事があつた一同御訪ねしていろ／＼御話を伺つたいろ／＼と會員の動靜について御話があつたが先生がよく卒業生の名前と其卒業後の行動とを知つて御出でになるには皆驚いた平素口に出しては言はれないが内心では何かと卒業生の身上について心配して居て下さる事がわかり有り難かつた先生は又「人間は一生の中間時かは水火の中をくぐつて大に鍛鍊されなければほんとうの人間にはなれぬ學生時代にか社會に出てからか」といふ様な御話をされた夫れで先生の教育方針の御精神が稍分つた様な感じがした成程と

感心した」と高木千鷹君曰く「大正十年初夏の頃北條先生がスミス先生御同伴で朝鮮を御巡遊になつた時私は大邱に居てそこでお迎へしたのであつた以前校長として仰いで居た頃にもまして全く慈父に會つたやうな心持でなつかしさと慕はしさとを禁じ得なかつたそれは先生がまことに氣やすく全くうちとけて吾々に接して下さつたのみならず先生御自身の御振舞が重厚な裏に輕快でそして細密な所まで行き届き煩と勞といふやうな事は全く念頭にかけておいてないししかも始終吾々の爲めに範をお示しになつてゐるやうな心地がしてならなかつた「全く行届いた方である」といふ感にたへなかつた私はこの時の内外に對する先生の御態度によつて少からず刺戟啓發されたものである」と

庚、生徒の處分、附、後進の接得

先生の教育を施すこともとより時と處とを擇ばず事として物として化導の資料にあらざるはなしされば其過失ある生徒を處分するが如きも決して純理又は法條のみに據らず情を酌んで而も情に偏せず其義は終に毫末の屈折を受けず處置の巧妙にして穩當なる人をして嗟稱して措かざらしめるものがあつた今亦數箇の實例を擧示することとするこれはすべて堀君の記したものだ曰く「先生はすべての出來事に對して務めて其全體を觀られた如何なる人間にも大抵何かの取得はあり過失でも罪行でも人間の行爲ならば同情すべき一二の情理が含まれて居るのが普通である本人の自ら執り自ら頼み又自ら憐み自ら許す所のものはそれである其が其際彼等に殘された唯一のものであるから之を無視されると失望もし不平も起し自暴自棄の舉動に出る様にもなる先生は其等の情理を見究めずには置かれなかつた

之を他に對する思遣りと云へば先生の仁恕であり之を情理に對する無私だと云へば先生の義分である義分と仁恕と先生御自身に在つては蓋し一つ物である其人の長短をも視、汲むべき情理をも汲まれた後更に高處大處より眺められて尙大なる理義の存する時は嚴として之に従はれた(是は誰でも言ふ事かも知らぬ然ても實行してゐるかどうかは別問題であらう)其時には其小なる情理をも其人の眼前の利害をも乃至先生御自身の惻怛の情をも犠牲に供せられた知らぬ人には冷淡な様に見えた事實の裏面には忍び難きを忍ばれた御苦心があつたであらうと思ふ偶然にても其れがわかつた者はたとへば罰せられても感激せずには居られなかつたのであらう」「或學校で一人の有力なる生徒が卒業開際に或失行の爲に會議の結果論旨退學になつた事がある校規上から言へば初から異議のない事であつた然し其生徒の才幹を惜み且つ明瞭に改悛の情の表れて居るのを憐んだ教官もあつて一個の人物を救済するの教育の旨義に協ふといふ論點から強ひて輕罰を主張し果ては「何某一身の事は今後全部私が引受けますから」とさへ陳述した先生は暫く思考せられた上「若しも此學校が一の私塾様のものであつたならば何君がそれ程までにいふ以上は何生を御任せしても可いと思ふ然し官立の學校で儼然たる校規がある以上さういふ事は出来ない」と斥けられた先生の公正無私なる御精神に對して某教官は勿論不満なかつたらうし其生徒は退學後尙ほ勉強を積んで相當の學力も資格も得たけれど此履歴が累をなして當然の地位さへ得られなかつたがそれでも自ら責める外先生に對し又學校に對して何等の怨望をも挟まなかつた事實を私は知つて居る」「或高等學校に御在任の時であつた或生徒が代數の試験に携帶

した答案用紙の中に答解の練習を試みた様な紙片がはいつて居たのを受持教員に發見されて、試験場を出された此生徒は平素至つて温順寡黙の者で其出身中學では優等生であつたさうだが此校入學以來どうしたものか成績が悪く前にも一度落第したのであつた此日の事若し計畫的行爲ならば校規上退學であるさうでないとしても代數が零點となる結果進級が出来ないさうすると同級二度の落第で矢張退學であるそこで同級に關係ある諸教官に意見を徴せられた後自發的に退校するやう主任であつた私から内話すべく命ぜられた一言の抗辯もせず涙を浮べて唯々として承服した彼の様子實にかはいさうであつた其通り先生に復命して不圖仰ぎ看ると先生は兩眼に涙を湛へて聞いて居られたのである此類の事生徒の上につけても他の事でも決して珍らしい事ではなかつた私などは先生を寧ろ涙脆い人だと思つて居た程である」「是は廣島へ來てからの事、或時先生の東京歸校後間も無く御宅に伺つた色々御話の中に「君は某高等學校に居た何某の事を知つてゐるか」と尋ねられた「私の轉任後の事直接には知りませぬが三竹君に聞いて大要知つて居ます」と事實通り御答したそれはかういふ事なのである何某は其學校の優秀なる學生であつて師友の信望も厚かつた然るにどうした間違か只一度失行があつたそれを學年末の及落會議に或教師が云ひ出した先生の事であるから決して問捨てにはされぬ直に取調を命ぜられた何某の方では自ら其非を知り深く悔悟して居たのだから勿論罪を飾り過を掩ふ様な事はしない直に始末書をも提出したかうなると處分問題である遂に内論で退學の事になつた此會議が終つて後某教官が用事あつて校長室に行くと先生は聲をも立てられる許に泣いて居られたさうで

あるいづれ深く感動した其教官の口から漏れたものであらうが自然に傳つて何某の耳にも入つた先生の恩情に痛く感激した何某は非常な發憤の結果同級生等がまだ大學をも出ない中に外交官の試験を通過したといふ事なのである先生語を繼いで「今度歸校の時汽車で偶然何某と一緒に立つた立派な紳士になつて細君携帶で海外の某地に赴任するところ廣島まで同車して來た」と語られてあつた之を聞いて私は心竊に某氏の感懐をも先生の御胸中をも思ひやつて云ひ様の無い嚴肅な氣に打たれてあつた」と因みに此れは生徒の處分にはあらねども先生の接得の方法至正にして至奇、人をして瞠目駭視一語を出すこと能はざらしめたるの狀觀るが如きものがあるから亦茲に掲げる中島君曰く「私共が入學(廣島高師)するや否や餘りに眞實老成な學風に不満を抱いた私共は數名の同感者と語らうて校長室に先生を訪ふて高等學校受験の許可を願ひ出したことがあつたといざとなると誰一人先生の前で言出す者がない、やつと口吃りながら筆者が言ひ終ると先生の重い唇は唯一語「許す譯には行かぬ」と出たそれきり一同は校長室を出て吐息をついたり冷汗をふいたりしたことを覚えて居るあの重厚と威容に打たれて大抵の問題は理窟なしに解決が付いた様に思ふ何時か新參の兵式體操の先生が新兵並みに生徒を取扱うて鐵棒を飛下りて氣を付けの姿勢をとらなかつた生徒の口へ砂を食はしたといふので大分人道問題となつて頭校長に迄持込んだことであつたがそれも「吾輩が凡て責任を負ふ」といつた切りに問題は有耶無耶に葬られたこともあつた」と神長君曰く「嘗て卒業の當時四五名の同僚がはじめて先生の御宅を訪ねた卒業でもあるし大に談ずるつもりで行つた暫し待つてゐたが次の間から袴を穿い

てしづ／＼とやつて入つて來ての御態度談じようと思つて行つた一行誰も口を出さうともしない唯だ／＼頭をうな垂れて居るのみであつた暫くすると先生は雲間からひびく豫言者の聲の如く「君等卒業したら強き信念を以て職務に當れ」との一言で引き下がつたのであるエライお爺だな」と一同感激した實に嚴父其のものであつた」と清水芳徳君曰く「大正八年十二月十日前後であつた東京の藏前工業に昇格運動なるものが起り一橋の高商にも同様な企てがあり何れも内々では大體目鼻がついたかの様に傳へられて諸種の直轄學校にも同様な運動が起りさうであつたわが尙志同窓會の内部にも同様の昇格運動といふことに氣を揉んだ連中もあつた當時余と上田八一郎君とが同窓會の幹事で庶務を扱つて居たのでイの一番に所謂昇格運動の實狀調査といふ名目で上京したそのとき同窓會の客員の諸先生方の御宅をも御訪問申し上げて精神文化の宣揚、國家教育の振興といふことよりの母校昇格問題についての御意見を伺ひ御指導をも請うたその一日かなりおそくなつてからであつた寒い夜であつたと思ふ(たゞし時刻や日取には記憶の錯誤があるかもしれない)それは十三日てなかつたかと思ふ上田君と二人で不案内な目白の停車場から學習院に辿りついてその官舎の應接室で時の學習院長北條先生に御面會を乞うて待つて居たしばらくして學習院長の制服をつけられた先生がその室において下さつた余等は一禮して久調の情を述べた先生「何しに來たのか」余等はこゝぞとそれまでにもはやしば／＼よく口にした精神文化の宣揚と普通教育の振興とを論じ尙志同窓會は母校を大學に昇格の運動を起さうかと思ふ所以をのべた先生は例によつて語極めて簡明に調極めて道勁に「職員や生徒がそんな

運動をして居る所もあるさうだそれはいけないその卒業生が母校を愛する熱情からそんなことをするのは諒とするし高師範の昇格運動それは徒勞チヤ君がたは本職のある身チヤ早く歸つたがよからう余等は二の句がつけなかつた開いた口が塞がらなかつた何と御答申したか御挨拶申したか更に覚えがない恐れ入つただけは覺えて居る實に明快なる御鐵案であつた」と

ト、東北帝國大學總長時代の一瞥

東北帝國大學に於ける先生の業績にも夫々記念として誇るべきものが少くない(久保君記述)女子の爲に大學入學の先驅となり猶最高學府の理化學的學問を一層適切に國用に供せしめ最高學府の特色を發揮せしむることにつき心血を濺ぎしかと思はるるも中途にして轉任した(高木君記述)

チ、學習院長時代の瞥見

學習院長時代の事に就いては今唯久保君と山本君の記述二つを擧げ置く久保君曰く「故人は東北大學總長から學習院長になつたことがある然るに種々の事情の爲故人は華胄子弟の教育に其感化印象を十分及ぼすに至らずして罷めることになつたのは學習院の爲に返す／＼も惜むべきことであつたが其大學より學習院に轉ずることに付一部の友人間には不賛成で之を止めたものも少くなかつた故人も亦前途の困難障害をも洞察せぬもなく又成功を疑はぬでもなかつたけれども何等の躊躇逡巡もなく進まれたさうである是が盲人蛇に恐れずとか暴虎馭河と云ふのでなく事情事物の實態や成行を十二分に見透す眼を以てして平氣に之に當るのであるから一寸誰にも眞似が出来難いのである」と山本君曰く「以前先生が朝起の方ではなかつ

たので學習院時代にも先生は依然寢坊であるといひふらず先生が以前暮に熱心であつたがために今も深夜まで暮ばかりやつて居られるといふ以前語に力を用ひられたので依然論に無中である云ふ先生は學習院時代暮も殆どたれず論は一回も伺つたことがなく朝は毎日七時頃に事務につかれるあの老體でしかもなれぬ朝起の姿を毎朝別寮の支關前に見るにつけて私はいつも涙がにじんだ先生は一向氣にもかけずそれを續けられたが身體上の苦痛は何程であつたらう執務の必要上官舎に一人で家族と別の生活をせられたために家庭に於て種々の不便不幸な出来事を見られねばならなんだ事の如きは世間誰も知る者はあるまい先生は自己の意志に反し強ひて學習院への轉任を所望せられ數十年間曾てなかつた程身を苦しめ家庭を苦しめそして終に紅流者流に禍せられたそして私が内助の人でないこともその一因をなしたと思ふと誠に腑甲斐ない」と

四、學習院長辭任後

イ、晩年志業の大略

先生晩年の志業に就いては赤木君の記述を援引する曰く「洵に先生晩年の御志業が近時思想界の趨勢に鑑みられ思想善導民風作興の上にあられたことは同人の共に具瞻するところでありすが之が爲に曩には大正十一年の交スミス氏(前英語御師)と共にわざ／＼我が朝鮮にも御來遊になりその後大正十三年には遍く朝鮮在住の内鮮人の志ある人士によりて組織せられたる「一、大局に高處して内鮮融和の徹底的實行を期す一、實實剛健の氣風を養ひ輕佻浮薄の思潮を排す一、勤勉力行の風を興して放縱情弱の弊を戒む」を綱領とせる同民會長として之が懇請を容れられましたのであります

が不幸にも遽の御大患の爲京城に於ける之が創立總會に御臨席の事を得なかつたのであります特に先生の思召により藤井種太郎君が先生に代つて東京せられたことは今尙記憶に新なる所であります其れ以來先生の御雄志を朝鮮に於て拜することは出来なかつたのでありますがかくして先生の遠大なる國を憂ひ世を濟ひ同胞相愛するの御志業は我が半島二千萬の同胞の上にも及んで居るのであります」と右の赤木君の記述は主として朝鮮について言つたものであるが内地に於ても思想善導民風作興の爲めに大に力を盡し或は談話に或は演説に或は議會の審議に於てあらゆる限りの努力をなしたものが其一端として大正十年九月急性肺炎に罹るに至つたまでの間は毎月數次各地方を巡迴講演し兩行北走極風沫雨殆んど墨の突黔きことを得ざるの概があつて其大患の後と雖も全く巡講を廢せなんだ其概況は前に收めた所の「日記」を見てもわかるのである

ロ、其他の行履の一斑

其他の行履の一斑は高木君之を概擧して居る曰く「學習院長としての先生は纏綿たる環境のため事志と違ふの憾ありしならん同院退職當時の宮相故波多野敬直氏と岡田良平氏とは先生を推して貴族院議員に薦め猶宮中顧問官として其餘生を捧げて國家に盡さしむ舊藩主前田侯は大正十年以來先生に屬するに評議員を以てし加越能三州育英社は大正十一年以來先生に屬するに幹事長を以てし以て郷黨育英のために盡さしめた先生は其職務上の内外を問はず適材を適所に置きて公私の用をなさしむることにつき常に力を用ひられた」と

ハ、最後の大病

其最後の大病の事柄に就いても唯二三の記述を擧ぐるに止める吉

本博士曰く「數ヶ月の永き病床にありながら先生は安符として病魔は何處にありしかの如き風姿にて常に黙々として自怡たり余等に接する時は二三の必要な言を發せらるるに過ぎざるも御満足の意は毎々眉間に漲れり」と杉森君曰く「御發病以來御入院中も曾て病苦を訴へられなかつたさうであります「労働問題をどうする」「之が國家に對する泰仕だ」「燕尾服を出せ」とか其他議會の事杯論言を云はれたさうである」と水木君曰く「重態を傳へらるるの直後一日平生枕頭を離れず至誠を竭くし夫人を助けて看護三昧に入れる時三郎君は憂色を浮べて問うて曰く「お叔父さんお苦しいでせう」と先生はこの眞摯なる愛勇が慰撫の言を聞くや言下に「三郎君は死にはせぬぞ」と諭すが如く慰むるが如く答へ給ひて復他を言はず想ふに先生は嚙きに疾を獲るや夫人に向つて是吾が死病なりといひ今は又三郎君に向つて俺は死にはせぬぞといひ給へるもの先生は是自家撞着の言をなし給へるかあらず／＼先生は實に肉體に死して精神に生きんとし給へるなり嗚呼先生の精神氣魄の竟に生きて千古に泥びず」「四月二十三日御危篤の報世間に傳はるや電話機轉々諸方よりの御見舞や御病狀の問合頻々として斷えず控席に在る者便宜要領を紙片に記し置き型の如くに答話するを例とす一夕受話機を耳にする者稍高聲に答へて曰く「相變らず御危篤の狀態です」と其聲手に取るが如く病室に聞ゆ先生侍者を顧みて曰く「みな聞えるぞ」と鈴木君居堪らず倉皇として飛出し手を振つて制して曰く「聲が高過ぎる低聲に／＼」と廊下中央の扉を閉めて座に復す適々階上に假寝せしめある令孫の些の障ありて發熱を告ぐる者あり今まで先生の枕頭に堵列侍坐せし先生の愛孃たる各夫人等先生の微睡を覗ひ令孫を案じ

て皆階上に消え去る先生ふと眼を覺せば以前に居列びし人々の影もなし呼んで曰く「逃げて居ると間に合はぬぞ」と蓋し臨終に會ふ能はざらんとすの謂なり亦前の「皆聞えるぞ」と寸鐵人を殺すの好一對の警語ならずや」と先生は心中に死生がないから身體にも病苦がないので従つて數月間も病床の上に悠々生息し危篤に瀕するまでも自如として戲謔することも出来たのだ唯其遺語までも國事三昧であつたことは所謂忠義填骨隨て眞に欽仰敬服の至りだ

五、哀榮

イ、郵典、追悼會、頌德碑等

先生の薨去するや勅使其邸に蒞み幣帛を賜はり加之ならず祭祀料(貳千圓)の御下賜を拜した又高松宮殿下よりも御弔問を辱うした而して葬儀執行の際には高松宮殿下より御代拜を差遣はされ其他東伏見宮、伏見宮、山階宮、久邇宮、朝香宮、北白川宮、竹田宮、昌德宮の各殿下よりも亦皆御代拜を立てられた又舊藩主前田侯爵の令嗣は會葬して親ら焼香せられた是の日の會葬者亡慮一千五百許名、其弔辭を寄せたる者には東北大學、學習院、貴族院、尙志同窓會、育英社、同民會等があつた

葬儀の當夜尙志同窓會は日本青年館に於て追悼會を開いた又葬儀の同時刻に京城に於て尙志同窓會員及び同民會員は合同して遙に告別の式を擧げた

是の歲(昭和四年)六月九日尙志同窓會東京支部外四支部の發起により高輪東禪寺に追悼法會を營み會員八十五名參列した又同月某日育英社發起の追悼會を東京に營んだ又同年九月十三日東京牛込の乃木大將修行道場に於ては毎年同大將追慕の會を開くを常としたが

是の日北條先生をも併せ祭つた
翌十月廿五日尙志同窓會に於て「北條時敬先生」といふ冊子を刊行した十一月十日には又東北大學の發起に係る追悼法會を仙臺市瑞鳳寺道場に營み參列者各署名して一冊となし「追遠帖」と題して先生の遺族に贈つた

昭和五年一月十九日廣島市國泰寺に於て尙志同窓會の追悼法會を開き全國各支部より代表者を參列せしめ各地の土産を靈前に奠した尙ほ五月廿七日には石川縣有志の發起に係る頌德碑を兼六公園内金澤神社祠畔に建て除幕式を擧げた
同六年三月廿二日新潟縣日蓮宗實行會に於て追悼法會を營んだ

ロ、蓋棺後の論議

今や先生既に亡し先生の心友久保無二雄君其才德事業功績を總括論議して曰く「故人は大學に於て數學を修めた若し一生之を以て終始したならば矢張一流の數學家になられたであらう故人は友人に向ひ數學にも一種天稟の素質とも云ふべきものを要する努力勉強丈ではある程度を突破することは六かしい様だと云はれたことがあつたさうだ之を觀ると其頭腦のねらひ所は尋常一様の標準では満足してゐなかつたことが窺はれる」「故人は東京帝國大學を卒業の後金澤や山口の高等學校に教鞭を取つてゐた頃から既に世の識者間に令名があつた廣島高等師範學校の創設を引受ける様になつてから更に普く世人の注目を惹く様になつた同校は云はば其生れ出る前から故人が手懸にかけて育て上げ建築から諸般の施設、初期に於ける教員の人選指導等總て故人の息のかかつたものである而して其道の具眼者は何れも之を賞讃して已まないものである又其後總長として東北帝國

大學に轉じた同大學に於ける業績にも夫々故人の記念として誇るべきものが少くない是等の事蹟から觀るも故人が實際家としての手腕能力をも如何に多量に持つてゐたかを想像するに足るではないか世には同じ種類の仕事に従事しても其程度の高低大小に依り適不適を露はす者が有り勝ちのものであるが故人は位置が進み仕事の分量範圍が加はるごとに其能力の効果が高まる様であつたのも見逃せない事柄だと思ふ」「私は現時の世相に鑑み非凡な強健なる心身の所有者であつた故人の如き人の貴重なる價値を一入感せずには居られない故人の如き人は現時の病弊に對して實に一の沈靜劑でもあり刺戟劑でもあり又同時に一の榮養劑でもある私は嘗て山岡鐵舟の門人から「先生は畏い人だつたがどうもなつかしい處があつて何時でも側に侍してゐたかつたとして先生の前に出るといくぢのない事を言ひ出し得ない風をひいてゐても直つて仕舞ふ様な氣がした」と云ふ話をよく聞いた私は故人に遇ふ度に一寸それに似通つた心持をしたことを懐ひ出す」「故人が數學の專攻を廢し漸次教育家になつた動機に付ては私は知るところがない併し故人は一科學に專なるには其人格の内容が幅廣く又權衡が完全にとれてゐたので自然一藝に精進するより全人として向上發達したのではないかと思はれる而して人としての北條時敬なるものに至つては實に天下一品の感と與ふるものであつて又教育家としての北條時敬は時流の職業的教育家ではなく所謂一世の師として人を教ふるに足る器であつたのだ」と又嘗ては其僚佐として帷幄の謀に參じ進退榮辱與もに俱にせざることもなかりし山本良吉君も亦曰く「思ふに先生の一生涯で最も痛快な時期は四高時代であつたらう學校長たらんとする者ももし反正の術を學ば

うとするならば先生の四高時代を見るべくも學校組織の法を知らんとするならば廣高師長時代を學ぶべきであらう」と而して到る處先生に隨つて影の形に従ふが如く篤く其信任を得已れも亦景仰神の如き堀維孝君に至つては則ち曰く「神人無功」は先生の愛された句と見えて關防印にも用ひられた言ふまでもなく莊子の至人無己、神人無功、聖人無名の中の一句である特に此句を採られたのは事功に對する先生の御精神を最も明瞭に表して居るからではあるまいか廓堂と號せられた緣由についても承つた事は無いが是は碧岩第一則の「廓然無聖」の「廓」である事は疑がない大道に體用などと別けて考へられるものではあるまいが假に通俗の考方に従ふならば廓然無聖は體神人無功は用についての眞諦であらうと思ふ此人間至上の境地固より私などの彼此言ひ得る事ではないけれども管闡維指の妄を敢てするならば先生平素の御懷抱御精神を此兩句が能く表して居る様に思ふのである」と古人謂はく丈夫蓋棺事方定と是れ皆蓋棺後の論議にして即ち亦百世不磨の定論であらう唯先生の眞知己にして此論議を爲すことを得唯先生にして此論議に膺ることを得る嗚呼先生以て既すべしだ

法學博士 岡 實 著
經濟學概論

(普及版) 定價三・〇〇 書留二七

東京帝大 文學博士 淡路 圓治郎 著
材 能 研 究

定價七・〇〇 送料二四

文學士 小山 文太郎 著
職業指導と職業教育

定價二・八〇 送料一八

文部省職業指導員 醫學博士 高峯 博 著
職業 讀 本

定價一・五〇 送料一二

菊 五 頁 上 百

本書は在來の原理を説明する傍ら備考の欄を設けて本文に説明し盡さなかつた所を補ふ外、本文の原理が我國の實際に於て如何に發現してゐるか、或いはそれが我國の實地問題として如何に率應してゐるかを示す等實生活に於ける經濟學の價値と須要を紹介するたため相當の注意を拂つた。

菊 八 頁 上 百

職業分析發達の結果として如何に職業作業の心理的性質を必要にせられ、それら職業に從事すべき各人の性質的特徴を確し、それによつて適材を適所に配置することは、或は職業指導に識別すべき方法を示して並に其研究法を詳述し、或は職業指導の實際的方法を示して並に其研究法を詳述して適材選抜の實際的方法を示して並に其研究法を詳述し

四 六 頁 上 百

兒童のため重大なる使命をもつ所の職業指導及職業教育の聲が近來頗る盛んになつてきたのは誠に善ぶべき現象である。本書は右に關して本邦の實際に役立つやう研究せられた理論と實際の記録であつて、その中には外國の新思潮も充分消化してとり入れられてゐる。斯教育に思を致さるゝ識者の御一讀を乞ふ。

菊 三 頁 上 百

職業を撰定するにたゞ漠然と定むるでは成功の覺えなれど、時代に於て職業を定めなければ、後には至つてその悔を残すであらう。本書はそれを教ふるものであつて、職業の性質を闡明し、性能検査法を述べ、あらゆる體質を列擧してそれに適切な職業を示して居る。

昭和六年六月廿五日印刷
昭和六年六月二十五日發行

定價金五圓也

不許複製

發行所

東京麴町富士見町五ノ九番
振替東京五八一八〇番
教育研究會

編輯者 西田 幾多郎
東京市麴町區富士見町五ノ九

發行者 辻 本 經 藏
東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷者 君 島 潔
東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷所 共同印刷株式會社

<p>東北帝大教授 篠原助市先生校閲 東北帝大教授 山極眞衛 著 研究室文學士 シュライエルマッヘルの教育學 定價二・八〇 送料一二</p>	<p>早稲田大學 内ヶ崎作三郎著 人 生 學 定價二・五〇 送料一八</p>	<p>文部省檢定委員 中島半次郎遺著 早稲田大學教授 教育の本質 定價二・〇〇 送料一二</p>	<p>東京帝國大學博士入澤宗壽著 大學教授 教育學要項 定價二・〇〇 送料一二</p>
<p>菊三頁 製上判美入</p>	<p>四六五頁 製上判美入</p>	<p>四六二頁 製上判美入</p>	<p>二六二頁 製上判美入</p>
<p>シュ氏の教育學は現今の教育學の最も大なる源流であり文化教育學の基礎である。本著は帝大教授篠原助市先生の嚴密なる校閲を得たる絶好の名著たり。</p>	<p>人生の眞體を闡明し人心の歸結すべき所を示し健全なる人生觀を樹立するは識者の正に努むべき所である。内ヶ崎先生はこの人生學に於て多年の蘊蓄を傾け人生問題の種々相を明にせられた。人生の懷疑に悩む人々はまづ本書を手にして樂天的人生觀を確立せられたい。</p>	<p>(要摘容内) 一、教育の起源と其の動機 二、社會の進化と教育 三、社會教育の目的 四、教育者としての社會教育 五、教育の目的 六、教育の目的 七、教育者としての社會教育 八、家庭教育 九、社會教育 十、社會教育 十一、社會教育 十二、社會教育 十三、社會教育 十四、社會教育 十五、社會教育 十六、社會教育 十七、社會教育 十八、社會教育 十九、社會教育 二十、社會教育 二十一、社會教育 二十二、社會教育 二十三、社會教育 二十四、社會教育 二十五、社會教育 二十六、社會教育 二十七、社會教育 二十八、社會教育 二十九、社會教育 三十、社會教育 三十一、社會教育 三十二、社會教育 三十三、社會教育 三十四、社會教育 三十五、社會教育 三十六、社會教育 三十七、社會教育 三十八、社會教育 三十九、社會教育 四十、社會教育 四十一、社會教育 四十二、社會教育 四十三、社會教育 四十四、社會教育 四十五、社會教育 四十六、社會教育 四十七、社會教育 四十八、社會教育 四十九、社會教育 五十、社會教育</p>	<p>本書は新教育思潮を加味して按排せる教育學概論であつて、廣義の教育原理を凡て網羅してゐる、尙古今集西の幾千百の教育書より引用せる先哲の言は正に教育家の箴言である。専門學校教科書としても好適のもの。</p>

終

